俳諧毛吹草

へ 5
1612

なしかゝてより一字もひハ誹諧にも
も心を深入てむつかしきも何
らるれハつゐまいらするにあれつ
まうけらにくゝまいらせ候とみ
えて又ハ連哥師にも
語くゆきまふる者あまたハ
からも懐紙ありきれ侍し
總是宗師のもとへにはく
けし連歌を心得さる人の誹
諧も発句をとりやう
やまらん動ハ用付のことを云ふ
一 作意の事古きあり
とハ二三年あれるとも
きげんなどもちて
とせすてたる作者
るもうるの傍
しきたゝなの

1612

かくあまねとのうた
乃作ミを知る祭
郭公にひきて
ちるもよし花是も
詠みし又翁の詞を描
らんと此あまねを除きさ
へのちきころつれきとあ
ふるましとちん世ちなき
しめたまへりことにいかし
より志る重ねる一條乃
内大臣代にて心さしある
き人の壽延の為なとまうく
まちうきハそれしも有之
物りとかもかうきをと御縁て
あらしき残志きとる絶
ゆやまりたまひて世の人より
さはりまし同意の為

夜山ハ月の薬あり新樹あれ
と云句ハ前よりゆるすよ
見る花や月菜貝の玉積
耳乃ひびくあさきがやや時雨
右月
鶯とをかしきくや耳果録
表立と天よれられ縁られ
名月と天ふれられ光られ
花くハ雛波乃梅をとまた
ちえをやさきいろハまつままかい
扇まちをつきて悦ふせいかい
おも詠と扇まち月の詠れ
氷心志りて多きぬことをりある
あはあれてなられとよきれかハ
鉢桐乃志れむ有乃余韻られ
要露ハさまし人のよろきむかハ
隠ふぬて花見る人や雅ねける
鶯や梅ふと海道ハ雅ねをきる

花さけハ撲たもるし　鬼あざみ
鬼百合ハ撲乃もなき名なるべし
醍醐味やむし作れ子の坏ちゞえ
ごいごと紀やまのもれ幽也哉
みよし狸やこと山くれむのきん
嵐花乃きんとやいきん萬里代雲
いふさ母れさらいの教ら秋の風
花や根ふふきらいくの喜代雲
因縁うくふ書被とらう郭公
○夏代暑のひとうきれや成あら
ひくれふなきハ業代火の出られ
略渡らかいのハそらのひぐれ哉
風乃神の出揺所ハあふきかふ
風の神と勧請志つる扇かれ
夏乃根ハ数の付紙の謡ひ那
○涼萩の付紙うあれや　松乃蝉
冬よ香よ出うつめつきぬ出之し

花の良いともくし出たし
めさきえて若に継者多すた
ふ物さるへの洗思可く以前
にこ出侍る句もいつらにぬ
ぬる及渡の事と哉
花みまは只ゆい志んの淨志れ
志越と只よ只志ん乃淨志哉
子は親の名をや汲元郭公
きふく鳴や鶯にまた時鳥
六月よて扇とつふられめかれ
涼しさもねらる扇乃うゝめ哉
右乃三雙云句ハ是も詞もいと
つなの志う元心得有ふいのま子
用侍る元初の句は花みまは
淨志うと家そといつるゆや次の句
もちむとりんて仕たてうる句也
されハよの志んといふ文字ハ親の

句なきや詠れと云ふてすのと
まりに心残付しはらくゆへし
たり驚といふ字をとそれとも
まぎらはしき故に哉やの句をも
をも此とまりをせんにいふる也
有りきつあれた酌にあちるた
字有に心得別なりきなく
哉やと云にてよくゆへ有し
又扇乃句六月まいとありな
有よ扇をつかふも京中と
いちん桃扇の名にかう有めせ
とらへれぬもぬく秋と云句
扇れぬはしらぬ扇の風
せん為しちるあくらひ涼しさも
うするといえんとをもうなあ
乃名にめくるといふうい
まても心おちし也せよう詞は

ふるくよりあつかひしなり
古人もやし給ひし
一　式連歌乃書よ云秀句ハ和哥
此為とらふに秀句なるし
て哥まてを作らハなりけりし
也ミ但誠力なく無事
むもう滴しなとひ一句とうき
里てもあ自心の也みはさ程
句はむなしき人ふらぬものき
拍掌まさせららることしと有う
不堪初心乃業ハ秀句なと作
為らしたねの也え心のうん
作ハ句もろもゆへに一句の為
理を呼えさる物とそ志らう
其誹諧をよれ也ぞ人しさ並
もの詞乃はくきをのこ粉骨し
て落着せさる

名のみしとちらてるいせを岡月もふ
かゝらすて来ふる月のあかぬ哉
三ヶ月やつねいら酒によひの程
月をのせて引や潮乃車かひ
秋乃夜や吾ひてきまるれ節
月にかけて見るやたもとの露揺
庵らたり出る月毛此須磨山
雲やさしけら風は吹くる月影
大宮ははるもとも月が照小雲
まゝ柳の露垂あかららずれ
一おのえんをもちめて心乃ゆるきら
見ん福もみらすなのそ小米む
けちの門乃香見んや二王たら
義るもとちらねハ柳のてうけれ
ゆきさぬるに来へ刻る韵ぶ
一宗かけを恋をふくんれ乃浅きる
浅こつまた入れのまとくし

徳乃ちよのきこ稀やあかめてまく
鶯の唐してよのえも夜の月見ぶ
ちゝぬまをとまてハかしらも喰
けさ紀えて月もこあむいれ求ぶ
咲ちら風あらくきれ花こえぶ
一立入をおとらてんの浅きる
なあしかにそれとなるさる菓ぶ
おほき越出と引ゆりも露添ふれ
一洞を寄して心あさきる
書道乃宿にいれや在重すれ
うれまとは思へとあけし夜家
むろれ本の中にみるやむかし
けさしよ咲をもいふやむきされたる
からぬの名に遠たるあまるこぶ
一みちるハお通して遠のミ宜る
けさの文やさらまきこきされたる
なるそ入ふそうしまぬやゝらことに

まだく咲花や人めをおもふ一
一よろこびゝさする出世ことの秋
四方に春きてころみれハよき恋
住く鐘も稲ひえを露の雅ち哉
さ月にぬて色残りけりたちら哉
一書小見ゆるハ花の末さくら哉
さけと見たに出ぬか小米此を垣
蘭いろにくれて棚引霞かな
都にも金やたゝみの名中待
雲間よりふるひとそし此粉雪哉
一安井之句
親よ似ぬ哉ハ思子の鄭公
たとへても一に声かほとくちを
ふりまでてそらひの八千夜も蛍子
天乃戸のふし花なりん桜の月
何かふし声之と哉かきりくにて
一思惟あるへき句

うら鳴が葉かあくれまた苔用
立くるや足めとめし此とらの年
花残風翻れふすゝや宗さそう
五月雨や出そ此ことのとらの海
小波やらゆるを出まさ夜の紅葉哉
一支邦之雅
雲海るゆや老やうらく初蕨
春くれと間もちれもあき桜
我やつんきうあさは花かさ哉
一病雑之句
本乃間にも赤藤いつや夕日影
夢影てみさするやのち千年哉
山にもちりし秋果ハとけつくれ
そちにも玉露ハ木此間のめいにけ
日比間みや時雨の雲比立ころ
一楽祠下芳之句
ちよちんえてとけぬ雪草哉

風や桐階あらはらの糸柳
めみ清嵐の柳の髪ふこぬか雨
けふせんせんくのはらし
いさらいや狂ふさこ酒の肴れ
くらひたらてとひ竹の新の影理
みそ萩の花のまつきいつき分
花乃今桜や草はらとくそ
鋪宜にまし清落葉いきこ嶽

一詞平情之句
ふえ尺ハ月は花しかん上る山ぶ
山ちの花をわしむや志すえ坊主
ひらりぬる蛍は庭やおかとし
山はやさきれ月の餅くらひ

一数好之句
見探花とみしもやすずめぞう
風乃山やれくらちくは柳らこ
花ぬえみしもならはらうる菓子

一詞こいくしきる
寒風ふ新发上るき梅花れ
数かのくふれ頃ゆるゆへ金谷鶯
山乃櫻や諸人ふ月は射西所よ
雨玉かもさ専を細搖福れ
篝き汁山ハ三乏のろくの祭り
半月も三夜照も破鏡ろ面
家相ひ刈をけくを人日足られ
ゑ京へもまよ喜方は友潮
腹中はひをも埋やれらの臓

一詞俳諧ふく心は書云なる句
数及で草花とぬ野掛られ
大雪に柳あくさる枝もれし
床よいろる花の嵐ハ月数ろ分
やく山も氷の河ふハみやこられ
そとゆへ花ふあくうるハ嵐ぶ
第花花乃名ゆる雪もうへる

はよき題目ハ雪花のたぐひに
一右之句丸光野師梅とあるを
ちり数や葉まに又さく梅の花
さらひち雪にとるとる文字を雪
ふけきといひ雨まじりを梅(うめ)よ
されといひ花の時分とある故
花の時にといひそへてとある
秋ふくも花ふきちるは嵐なれ
草木とある句を本末に咲といひ
はよき題目ハ雪花とあるを
てらし日や嵐といひて雪花も
めづらしくいたく皆連哥なる句
さりけれど一概(がい)にはあらぬに
一都文誹諧の文字ありて思合の
連哥なる句
見るもくみさめ花を見や探花
服(ころも)目ともかくれぬ花のさかり

花の後も見のかさりを花は常ならぬ
むかし西や花のあいさつ時分
一右之句ハ初心後にも憶と
あとのとりなすむまゐり哥らき
ことことそえ中心にたてに擬た
てらしくの句ときんをめでし
海に毎なうしてうつるちらの
たよりをたくむとおんされハ初心
中心の句を聊人の中に得る
春さをふそ友とれしらふる
花と茶句めして付句に年始
の扇瑞生の時分暮画る事を祝
けふ常世の事なのみし
牡丹とハ哥に連哥そ云ふて
右之句中心とやいふべき
云附なりまかとなり定
花にハかくもて其後の俳風なり

あふ秋田藩とかくれ刀は名高く常
のさうようなるべし
月夜より閨の解法をかけてたゆ
あまくみるかけに一本は紀さくろ
同中心なるにや
うへにしてはやぬれぬらん
足ふは女性のさこすまの備
なる所にをあるけれど常に[illegible]
あるを[illegible]への数あまた二川らう
志くら柳乃猪みあへる思
ひさたにまかしらるふは[illegible]庇
同中心なるにや
目出たものにはひろさよ
たまをあつめてや春つる
君が代とかの字を付て[illegible]へ
太くり同
一人乃多き情欲のとるも其性[illegible]情

とて前代よりの婚傳なりし次
乃付る字をとることなふ抱とそ
志く人名とおもて[illegible]
事なかれる作ふよりてそ
やうはめでたことに[illegible]のめう
しらるまそとくゆりかま
見めよききたになりんとめでたくとき
藤子ふ錦を許あいれなり
女にあて[illegible]みくたに武士
意識ふふしろうき引一の名
在る句をあらためてまさるかや
四ヶ付とてたま婚よりし付る
あるを申にあてそとくに
極ふもおもくまき[illegible]
と傳るに不徳の人はゆふにをそ
みもまさりも筆ありもあ
さに付んとあ千へれくに

の道具あまりに細かくするを
らく〳〵しく嫌ふ傳ふなり
右の句は筆一文字をまぎれてり
ゐちぬく付たまふる事は
すてても昔めかしきある句に
拍数乃まき句はめれ〳〵にて用捨
乃拍有ありしめけのうけひき
たまはりありまうとて
同口自鼻なし耳も嫌ふべし
すゑ巾やとらへ事も引かへ
同すい自鼻をひ口をてそ候
枚やきの網をめしらに味をく
鞠場にも火とすに春の多詠か
先花營紙のあらしぬか
右之句は所まても本句に拍数
云也僧を進先以一事めらく付候ふ
言ふ芳のうままを敬連哥の句に

春夏秋に風からるなり
花乃後も乗ぬしうに紫まて
付句は付なりとぞ嫌ふや
志うる式
惣の時掛いうなるに各比雲
めけ付のけ中安とおりの付境
宜一あれども
可宜句祥之示く
心之發句付句
窓見をやぬらに寫生の摺澄
皆人乃畫福氏将や秋の月
煙火花ありぬ猫乃引張ハ
とぞく女の男ありそつられ
佛に何とてさは嫌ぬべき
なうされても越はのまうま
窓はきめうと數まうこれ
ちうきたゞも夢く申る

眺望

墨川やあれ浪ふかきくろん
嵯峨山乃春やうされしに紅葉之
山と山かくれもしに高露れ
煙よりもすゝ富に白し富士の
峰には雲かゝりや寸海の渺々香
鹿もすゝしに足もまいしに
あれ見よと沖よりも帆影多き

見てこそ

川岸の洞ハ若葉乃尾続され
波こそはまちびひかれや水の月
心のまし寄宮に霧やうちひとしき
氷るわかる里たりしかる氷面鏡
おもかやかおる岸は出くるき
昔むし流るやはるかにきこゆ
六月よりも思ひに一ヶ月
あらくぬありむきたる堂

東方事西並されや冬至
新乃浪くは更にさげ計

立冬

志づれも葉おちむぎこはちちの鏡
たとの川らう霜露や若草の升
面露ハ赤きみれいろはの師道に

取成

宮の年は春より姿れ古衣て
洗ぬらぬれきる帷子の袖の色
枝あり一夜を過れ樹法師
門くはやもろ明りれましにれ
けづる楊枝のきれぬ小刀
承をたゝりこてそみ立派
なくて江戸にわかれ鈴鏑
六乃道とやまよひあらん
賑をさしれお浦をえさる海に
たそへ

見る人毎も気にかぬ柳かれ
たゞ宿の桜や花咲の日見合侍
にの中梅かれをめでや時分
ほうこ流されて也てみすそまれ
素人驚我事浦しや維時分
ちらめきにたり数の安生
くり返しさま草花さとる

世話

枕すんでも明し　宝乃山桜
流行先あれ是第の月に物語
秋めき余月並の内より月の良
いとどしきみも説き合よ移らう
めぐりまる二八月こそ稼ぎ出
舟将乃旅ゐとめん思ひ子

秀句

送なく咲やこの花の元也こ
ちとくへあれめいらし　比嵐岩

厚ものきりこともや急水
蟻乃江やきりにある桜から
おて手網の孫ころひそする
柄末の家紋はくろふ菊花庭
春ぞ志くこち等やあまろ
お座敷八三月志んど三河まりで

一羽のえん

鶯は桜よはなれてや白き色
哥いくさ文武二乃花蛙かれ
わらうゆるや孫のくれやあめ　草

詞之安通

秀吉公　唐豆之鳴
切ったちはもみえやうてきこう
食ふせは志てかやかんねみこ　外

一文寿相通

気くに安全する花八流らけれ
新に氣たるハすられ柳かな　繰

迷子なるはいろにも封ふくされ
なけハ鳴まゐのへ江の鶴か
紅梅と名によりてや花れまゐ

重詞

鶯の鳴声て云つれ鶴寝哉
白浪と白浪やおよるの夜
ぬくくとぬくハ実の下き下家
月も更に目ハ月の余りひろ分

一擶

天神乃梅よ游しる花も皆
法花経そ鶯ハ今やて作
手余於

着出とくめ新まれた手つ夏
たのミたくまひる流星の戯子 うろ
うしミ鍛て何とひらめん
お情ふめしふ扇とうし芳兄
ちやく立家塚ハ何れ於母の皆

えりりもろ様き蟷螂のうけ
いたそ叶ぬ時宜もそあ
ちやくらそら投れ乱髪 迷
てにた残添くる句

邑寝とくひるれ称ハ文葉をれ
はしめとらり彩とき出の声も
花ハさてあんまれ外の友書
折乃花また志れなれ寛柳
あれあくりみ川とうらん雲兄 草
ちようり鳴悲れ声やこうろ含
まし志ひ中と人をいふ明り
さもすれれ宗治やまされつき せんき

一謞と賠しれる句

火桜乃花や盛ふせうもたき
たれめての為しひも上鶯 かん
流人薮といせあきそひ雲れ声 後
有明の月ハ世界のあんとられ

鶯は歌よむや誰もあまり蛙
一 たくき
人心なうたんなれや花の陰
陰に居て花みる人や明ぬ鐘
廃しられ源氏さいもん蛍かれ 宗
五月雨や山まれそのまてられ
何氣なう雨乃あまよひの二ツ星
表八しは字月いろはのの字 武
一 なぞ
海くぐさまつるこのちか錦も 羽
ところけて廿三都の月見られ
ちりあらくるきる袖の裾
さりやうにあらひちぬるよひ近 近
立入
引ぬるや海ととぬうるうその 声
一志立里一条まふ
夕塗さの里一志望なき浦作や

くすしなりける人四十二代字
海より経へおとしやしき十二銘
一 源氏
又せ見る人まこ一花あさろうか
白鼻は元むめあまりくる白され
名物
吾妻は花や因菜氣の菜
山科の紅葉や是もあて海
醍醐鳴やむし竹は子水かゆえ
今よりハ酒図やめて浦し
浦とうけさるめんあきれひ
清濁
きいまかせて鳴や梅子は稚とき そ
花の科（とが）そ何のぢすそ風の
実もつて竹かするやかきさ 新
すめは草にされハ雅への川すぢき
ちにめかハ志蛙かく啼るや松の宮

対物

梅か香やとめん柳はさくら蝶
居間鷹の庭にはまたのこる梅
猫足乃照てくれや嵐たけ 代
武蔵野の雪ゆるかし留木
我心なくこ計にかめにけり 鶯
人からひなとけしといたまくく
何とてかたて湯の新子あるらん
むめ水をても寸るもあるなれや
鴨川とはらたきゆてそ流る 哉
思ひ捨てなはわしとおもふか
出ろ乃海の姉かさ志らふ
色稍にさきひ花蓋垂のふ

文字

ゆきはまんまに色乃花の陰
文字みさは扇を以の葉かれ
夜ハまに鳴虫まそや草

冬なかるまへんに春は花見れ
よにおのみえたからゆき
風と嵐ハ花そむはりめ家
川乃みとりに牛ハ分てたり
水流るむまれ以やあらん

廻文

志川つし鮎ひて果いさ志かつし
ぬくきかハ花まそろそ家ハ風車
きいのえよ志るせにけりし寄の 月

半哥之続

花乃色のうつりけや小町娘 桜
松や花を名もてまた桜 綱
関守もあままやいまぬこてくさ
以川またにふりてからん浪とまた
音羽山鈴云ゆあまたれ
数々ふ汁孫かてみ雨乃 轍
けらひハぬくに気あつよ 紅葉 代 餅

ろのくと車の榻にちかひかりて
百數もおなしく人も称せん
初瀬乃ちきりハのりそこなふ
うかり宿る人にみえけりくきそ
名のみにてそも身ハ形の果
朝顔や東北ちるさかのちハ刀

一詩之詞

月影乃ゆきさハ菊や不老門
風流相川て乞そふに開扇折
花を見む人ちか年此心なれ

草紙之詞

一寸もくおかしハ無気ら女郎也
春日野のちかく行に無康なれ
まれなりのやうにいふる柳嫁
たくはよからぬ心をもしまし
清少ハ今もおかしなる許悩ます
月に狂むしくを折ましめ

秋なからさにりんの作釋物語

一謡舞狂言之詞

あれハ寄らよ白きハそこにや菊草
余乃山や霰みすゞ花の雪
年らきん用の海しきハ捨れ草
十月ハ実をもちおりや新附録

小哥

あいよこひハ我せ天の浮とちる
深山てハられつもとへハ時鳥
法名をえ戸まひそ月世夜
ふくひくふる書いとし新の雪

は連句

花かしに色ハ別ら天津雁
禅ちなし花みまく流や涼風生
地球るハ七夕ためなさき行ら
名のみしおふ月や一せき新さ念え
又みんとゆかいきせちや咲桜

あせこと
高野山岩の薬をひしきれ
どんぐりもめしこめぐさにあるこ
ちぢまでもささてお此や尚此
いびきの高そこらくゆかに
嶋のりにお竹心らり此宿らりて
以らてふけちまきをそえする
麦米粟を御さめるひさ此切紙よ

一負数を積句
今朝おきをにむ同くの始まれ
くさらち八十一鉢菜葉を
なれるは十つ十やも此らに

十干十二枝
年もひやし紙さくさんふ試筆
氏を庵もこ川のそとみ書
一間乃時ふみるみ粟ちや猿の庵
宰ふあらむまにそうそする

ち春乃宮ハ色乃時こえきて

一連歌節
吉野より輝やひろめて字の
十月より来き乃夏の有られ
寄に枝連理となり女事も
花海の絹のぬひめもあら列て
京人と人乃ちめくあちろ
住吉の社頭のあいその流り
神事は果らく旅松風

式目

一 誹諧乃指合ハ昔より和漢共ニ
法ニ用之歯代ニよりても
大方同し但し席ニ綴て
十句以内禁制之物連歌ニ同
一 体用之事同前
一 景物草木なとニ同前
一 並物ニ異名就ハ并可定其季
一 連哥ニ無き詞猶たとへ七句去之
一 同季ハ連哥以とく七句去之
一 以前七句去の物ハ五句去之
一 連歌のことく二句三句物等
一 神祇 釈教 述懐 恋 旅 同字
一 可隔三句物之事 木と木 山類 水辺 居所
草と草

秋分 夜分 鳥類 虫類 獣
獣 同時分 国之名 名所と名所
風と嵐 雨と時雨 夕之間
一 可隔二句物之事 連哥ニ三
句嫌物也分也以外風アリ
風情 風流 歌ニ紅葉ニ朱丹
霜月ニ淋物 菊月ニ捧物
一類ニして 菊物と菊物 絶ニ
色ニ不及事くと云也
一 付句ニ定めて 哥ニ無
らま 養由 井戸 蛙 鶏
掃除ニ 簞帶ニ 魚ニ 柿ニ 澁
一 連歌ニ不云 出物 誹諧之 言ニ
以一也 但 風雅 用ひて 以ニ 千
其類ニて 一汗 一又一 馬刀 まて 内ニ

踊(おどり)一 胸ハ生数ニ云て文一　茶一 茶湯名 ちやせんハこれニ二
燈籠(とうろう)一 云て香炉 又ほとゝきす　鑓一 やり持ハ袖ゆりくれ あし内ニ文一
嵐一 嵐草 嵐戸 内ニ文一　神存 松作
然れハ詞数より三中によりて文字を定
一 連歌之一座ニ百句之内誹諧
みくハ二つ千句ニ二句三句四句
乃内此外も連歌の定め嫌
一漢和なとにも用て宜かるへき
よし古来之制也但当内
耳に立事ハ用捨あるへし

毛吹草巻第二

正月　誹諧四季之詞

朝拝 元日 小朝拝 同 院拝礼。毘沙門功経(びしやもんくどく) 同 寅の日天後之
三揃連歌 同 裏白連歌 三日 七月七日 参内 あかの物
若菜摘川 神事。七日 御斎会。八日より 常陸帯祭 十日
元日より祭 西の戸まて 行く 初寅の祭。縄引
かくれう。踏歌(とうか)節会 十四日 十六日
左義長 十五日。平野祭。十五日 粥 御内之神事 粥をたきて田畠の吉凶を知と云
師子頭(ししかしら)神事 十八日 勢州山田の氏神之十四日より 六日之大ごい松をにらみあひ 松の内
厄(やく)神祭。十九日 御忌 十九日より 廿五日まて 九月(ついたち)団子(だんご)。鏡
作り木 宗治 九日 足踏。末摘 粟津合戦 同
青陽(せいやう)。太郎月。月迎。千秋万歳
氷のためし。ひけさうえ。とうびき

いてくる。餘寒。表氷。呂の調。當聲
當代樂。破魔弓。胡鬼板。羽子はく
毬打。玉。年玉。歳徳。元旦。蓬莱。ゑびすを
年男。書初。福茶。松たてやう。始
きそ始。薪用。門松。棚たづく
鏡餅。雑煮。めしざれ。めでの子
伊勢海老。掛鯛。おらの組糸
楪子。橙のこ。野老。いちぶ。芋ひいりふ
おそらかち。栗。串柿。代々。柚柑
ひらききそあふげし。めさまりく
ゆづりは。たんぜ。山椒の皮。白梅 黄梅 紅梅
初卒梅 好文木。福寿草 元日草 九 根白草
水菜 莔立 鶯菜 野大根 白花 薺 花なそ
ふきのとう。よめもぎ。おぎのり

あまのりさくのりそこ[illegible]ひじき
金銀花 [illegible] 白魚。干鯛

二月

二月 きさらぎ [illegible] の鰯 一日
初の彼岸 二月又日出替 [illegible]
初午。氷間 初午詣 [illegible]
遣教経 [illegible] 涅槃像 [illegible]
彼岸 九日 涅槃会 [illegible]
義経 [illegible]
[illegible] 元暦二年二月十八日 [illegible]
○さくら [illegible]
桜梅 越中梅 [illegible]
伊勢 [illegible] 散椿 [illegible]
出柳 [illegible] 苗代 [illegible] 柳

つくづくし。天花菜。松葉ぼうふう。防風
たんぽゝ。はゝこ草。薊（あざみ）。あざみ。狗尾（ゑのころ）
川芎（せんきう）とも。山葵（わさび）。蒜（ひる）。野蒜（のびる）。大蒜（にんにく）
あさつき。ぶらぶら。まんじゆ。菜大根の花
蓮根堀。海雲（もづく）。鹿の角落。猫の妻恋
鳥のさゝりぼ。挙羽蝶（あげはてふ）。虻（あぶ）。蜂の巣。地虫出
衣をぬぐ蛇（へび）ハ蛇穴をいづるとなり。蛙（かはづ）。天蚕 まゆハ
四月
初鮒 ふるなます。ふなのこなます もろこ。鮎の子なり
飯蛸（いいだこ）。蛸の子ハ 寄居虫（がうな）。因みに

三月

曲水宴 三日。桃の酒。蓬餅（よもぎもち） 草もち
鶏合（とりあはせ） 三日 大内ニ 須磨吉 塩干 大伝馬 汐干 石山祭
東寺祭。一条の祭。水尾祭。やすらひ祭 九日 廿日 十日
吉野会式。天台礼。拝講 十二日 山王大宮 行之

比良祭 十五日。壬生念仏 十四日より 嵯峨大念仏 十五日
千本念仏 花の時分を待て行之 浅草祭 十八日。法師祓 十九日
御影供 廿一日。雛二 仁和寺 女形の節句。比丘尼の祭文
東大寺（とうだいじ）大仏供養 建久六年 三月十二日
いかのぼり。陽炎（かげろう）。暖気（だんき）。海棠（かいどう）。辛夷（こぶし）
つげの花。木蓮花（もくれんげ）。赤南花。沈丁花（ぢんちやうげ）
小米花。小桜なでしこ。てまりばな
馬酔木（あせぼ）花。もちつゝじ。まんげつゝじ。白つゝじ。ざうきつゝじ
けもゝ。すもゝ。杏子（あんず）花。林檎花。棣棠の花
楊梅花。いせざくら。ひがんざくら。みよしのざくら
彼岸（ひがん）ざくら。うきやまぶき。山桜 花筒 花筆 やまき 山吹 ひさござくら
ふげんざう。渕桜 花桶 花笠 あざ花 花篭
花よめ 花の帽子 花鮮 花下 花見 花散 杓杞（くこ） うこぎ
新茶 古茶 宇治茶 嫁菜つむ なのもみ。まさく
ゑびね 春野 まま菊 馬蘭（まだ） たうな草

金鳳花。げまんげ。丁子草。仏生草。萩
罌粟花。七年花。九輪草花　金銭花
鶏頭草花。芽花。菊。戴勝。いとゞ
三葉芹。やうらぎ。二月大根。ぜんまい
蕨。干鱈。こゑとり。雀子。老鶯
雲雀。鴫の巣。ひようか。桜鯛。鱒
桜鯛

四月

袷一日より　風炉の茶。茶を詰。筑摩祭
氷室の献。ひのみ二日三日四日　山崎にて祭。室日三日ゑを代八三月也　山崎祭
八日天王寺祭寺使と云　戒壇堂開帳八日山門　仏生湯
山科祭上巳。八瀬祭辰。多賀上巳　吉田祭初巳
大津祭初の申　葵祭中午江州　八幡中卯江州　山王中申
千園子十日三井寺　葵祭中酉　関白賀茂詣中酉

嵯峨祭中亥日　地主祭九月　向明神中辰
南都法華十四日　玉塔会天王寺　日光十七日
花供比叡大師の御影を記誓　煮酒。松茶海秋
百日ぐれ。蚊帳。鈎初。うち鑿合戦文治元年壬四月下旬
桐の花。山葵の花。厚朴の花。さきの花
ひあふぎ花。ちくちやうけ。薮檍。てまり
椿の花。卯の花。麦。鬼桜。花実
牡丹草花　芍薬。芥子やうび。ちやうちやく
ちやうちやく。風車。鶯足。藤
小葵立葵弦葵　げ花。花ちさ
先蒔。踊花。石斛の花。遠縁の花
菜の引草。すゞ子。竹子五月八　ふき
薊。麦。岩梨。蓮の若葉
蛇の根八　康代角。蚊食鳥。

たんぽゝ。葭原雀ぎやうし 九 餅飴

飯鮓 すしとも 梓振虫

五月

競馬足揃といふ松尾祭 百草摘

菖月。菖蒲刀 菖蒲酒

菖蒲酢 同湯 粽 ちまき こもまき 端午祝

藤森祭 閑明神 宇治 今宮

宝明神 社祭 住吉 田植

山田御田植 どろぼし 瀬坂宇治

合戦 同蟷螂 討 曽我兄弟 敵討

さつき多し 虎が雨の五月つし

梅檀の花 さくろ 楝の花 露

青山椒 李の実 小梅の実

杏子。楊梅。枇杷 下抜 石菖

南天花 天南星 萱草の花

忍冬の花 金銀花 鉄線 うつぼぐさ

鬼百合 車ゆり さゆり 鉄砲 草 芝蘭

美人草 紅粉の花 紫の花 うつぼ

魚蓼 子 くちなし いちご

天蓼 蚊帳草 牛蒡 おなもみ

めくさ すゝき 松茸 麦秋 麦飯

麦粉 粟 稗 胡麻 豇豆

空蔵 しやうふ 越瓜 浅瓜 白瓜

莧 あさぎ 荒布 鷺の巣 蝸牛

黒鴨 杜 子 蚰蜒 蛇衣 蛭 蟇

小鯵 たゝす 氷餅 鯵 鯛

六月

氷餅祝 祇園会 の名記 津島祭

祇園 十四日 いつくしま 同 竹生嶋 同 江ノ山王 同
吉祥会 伎楽 祭礼 十六七日 ならでも
稲あり 十六 十七日 盆 同市 一日より 序破源
藪入 竹伐 志渡 寺 参詣 宮 千日詣
橋立 参 御手洗 天海 天神 祭 桜
かへし 水 青 月 鮓 住吉 桜 同 土用干
干飯 ところてん 甘酒 心太 麹 酒
ひしほ 藍 蕨 友 茶屋 乱 夜
川 狩 氷 汗拭 白 扇 団扇 扇 同
扇 車 ゆきき 同 浅 お 桃 する 上
抹 金 棋 の 花 百日紅 鉄線 花 胆
浅 青 花 ききょう さ 草
鹿 ももの 草 うち 桜子
鵜 川 桜 葉 桜子 すり 衬千

赤草 白蓮花 澤瀉 河骨
萎むも 実ハ秋 蒲の穂 藺を刈 菰五月
蚊ふすべ 同刈 夜之 まこも川 麻の花 植五月
麻かる 夜之 実ハ秋 藍刈 同干 二番藍 夜
紫蘇 香薷 干瓢 むくげ 蒜の根
昼顔の花 瓜 冬瓜 胡瓜 白瓜
茗荷 の 子 花 同 水瓜 まくわ さゝげ
ひさご 姫瓜 小角豆
蝿 蚊 蚤 虫払 鮎 鱧
海月 鯉 鮒

七月

摂待 蠟燭 小児の水 社壇 参り
七日 七夕 あしたの 宗 人 参 ます
文殊 清水 千日詣 おんごく 十日
まつり 八幡 施 餓鬼 代 三井寺 女の詣

盂蘭盆会。盆。内裏灯籠。（十四日十五日の）
きりこ（まりりこうろうの雑）施餓鬼。精霊（せうりやう）
生身玉。送火。迎火。踊（野郎おどり　小町をどり）
盆の流し（十六日）
保元記（上旬）平家（寛永二年七月九日）
蓮の飯。焼米。大麦（あい麦）桃の実
木槿の花。槐の花。木槿。罌粟花
仙翁花。牽牛花。葉鶏頭。薬師草
萩。鶏頭草
益母草　桔梗。がんぎさう
蘘荷草の花
白粉花
茶の花　小車の花
ふち草の花。やいと草

八月

白露草（すまひ）
蓮の実　蟷螂　冬瓜
きぎす　蜻蛉
たのむの祝。村祭。一日二日　和泉
三の四日　白髭開帳
石清水八幡祭。宇佐祭。箱崎
仲国小督を訪ぬ　革名月。御見舞
菜名。瀬。七夕　石橋山合戦　八月中旬
ふよう。花。菊の花
野菊。鳳仙花。鶏頭花。
稲の花。藤の花
金剛草。通草
種瓢。苦参。とうやく。草

茴香花。糸瓜花。冬瓜花。瓢花。夕顔花
牛蒡引 花牛蒡八月 草 同 笠山 同久 牛蒡 ぬかご 同 蕷
葛根掘 同 菌子 茸狩 あき 荊 安ぎ 錦 花
菊 もどき あかくさのこ 花 七月 鬼灯 まつむし
芋 大根 蒔 同 引 みかし まく けし まく
田の 撥 ん あと こすらせ 田の 番 鶉うつ
あらおとし 白鳥 鴫 鶴 ちどり
鴨つき 酒 田鴫 山鴫 川原しき 鶴 酒 同 合
ひえどり つぐみ むくどり 山雀
日 渡 早 渡 こがらめ かあら 連雀 せきれい
るり 月 白 ひよ ひすい 川せみ あの 鳥
菊 いぐ 胡
みそさざい 蓑虫 きりぎりす 虫合。金虫。玉虫
蓑虫。蛇穴に入。江鮭。鱸 同 梁
鯊 鱸 鯔。小鮎 とし 漬

九月

舍利会 八月 京海 より みてら 醍醐 寺 及 奈良 青 安 同
鶉 同 生玉 同 大坂 下 鳥羽 十日 伏見
四位 安 京 大津 伊勢 神 十日 鞍 馬 河 合 十三日
小会 岩 宮 。 栗 田 口 安 同 河 内
神田 明 神 十五日 武州 罷 出 東山 山 口 祭 中 巳年 周防
呉服 十八日 あや 十七日 摂津 池 田 に 云 祭 九日 飛騨
城 南 庄 摂津 天海 寺 や 流 九月
太 秦 九三日 淀 同 本 幡 九日 獅子 舞 同
逆 髪 ざりがみ 同 江州 山 十六日 鳴 瀧。津 村 九七日 摂津
落 の 陣 元 暦 元年 九月 十六日 今 年 米 同 納
新 酒 古 酒 葡萄 酒 豆 名 月 赤 抜 ささげ
柿 干 しぶ ぶき 抄 つ 蜜 柑 金 柑 柚 母 桝
ざくろ 松 榴。胡 桃 あん や 柑 仏 手 柑 まつめ 桃
棗 あり 実 のこ
いち 零余子 栃 の 実 ぬ 木 ち 級 櫟 榛 いちゐ ひしのみ

園の実。橡の実。さいかちの実。榧の実。檳榔の実
楮の実。枳殻の実。だもの実。南天の実
梅もどき。つるもどき。柿の実。花八ツ手。海棠
ぬるで紅葉。鳥瓜。亀甲。百菊。金目黄
柳まこも。鳥頭とも。すいやうひ
大白椿。ふなもり。つうまうえ。酔芙蓉。ニドざき花
虎草合歓。鶏頭草。ぢわうえん。梧花
老母草。げんのしやうこ。蔽し。赤豆引
茗荷。推茸。松茸。ト治。岩茸
石蕗。平茸。鼠茸。ベニ茸。舞茸。黒皮茸
松子。松露。棗。鳥越の鴨。だいめき
紅葉ぶな。鯛。鰯の黒漬

十月

祢宜。一日。信吉の。炉開。火燵開。炭斗。茶口切
亥子のひ。甚五郎忌。十夜。十月。十夜法事
十一日より十五日まで。真福寺法花会。継摩会

真福寺ゆきえんびら
十三日。金毘羅祭。十日。恵比須講。蓮忌
東福寺開山忌。大社神事。出雲神集
祢の宮。恵比須。酒海。祝之。恵比須講
神無月。西鶴忌。綿打。油桶帽子
紙子。衣の。繁昌。幣。大楠
さんぱ。菜飯。菱葉。納豆汁。柊花
枇杷の花。茶の花。山茶花。くり花
冬咲の桂。八手の花。れんげ菊
大根引。日干。芋干。蕎麦切
まくわうり。麦蒔。すずめ鴨。蕎麦
鴨。鵙。鷹。雁。鶴。千鳥
鯨。鰆。老海鼠。生海鼠。このこ

霜月

暦奏。一日。冬至。鎮魂祭。中寅。上ノ子。子祭

御火焼。山乃神祭。奉幣(かいぶ)。長谷寺忌 八日 十三日
大学忌 中廿日 一向宗開山忌 廿八日 九ノ日 大師講 十一月
鎮壇(ちんじやう)念。三嶋西市 中酉。宗祇忌 十一月
御命講 十二日 義経記落 文治元年十一月日 巨刹 士卒小説
知足院忌(?)脇 雪かき。たかれ雪汁
雪やけ 雪礫 雪まろはし 雪仏 雪女
もち雪 帷雪 雪ふらし 雪柱
雪の鍬 雪ねむ(?) 雪ぎされ(?)すくもる 霙(みぞれ) 酒
霰酒 葉ぐの雪 折下。水仙花 金蓋盃 退屈室(?)
葱(ひとりし) 根深 人参引 荷花(?)秋 花八夜 遊る狩
白鳥(おほとり)鶴 鶏 力草 鯨つく 鯨舟 初鯨 鯨とけ汁 飩(?)
鰤(ぶり) 鰰(いさく) 石花(かき)。らうぐ 臭 気抱て

極月

貞子 朔日。温糟粥(うんざうがゆ) 大内各山 八日 大法 大徳寺開山 廿二日 忌
衛生(えんご)雛 暁の 新松 和布刈 神事 晦日 魂祭 世刻

心祖神祭(?) 袖之縄 晦日の夜 年籠
猫八元日 年治乱 十七日 数を称 之代 二鯉 丸
八日 腫物 越後 塩津川 毎年二十 雪 竹 一丈 一尺 定
のするを割 立て 毎年 海 藪 雪 皆
榾(えんき) 雪 はちく 抱 あり そり 雪の 時 のり 抱 はしめ さし
敷 つ 鞠 ふ 宿 さ らし 宿 悦 の 酒
鏡 鞴 つく 鞴 む 学 に 季 そ る。大 便 学 に 之
年 を 送 ね 白 木 実。星 仏 う る 払
年 ら ふ 柊(ひらぎ) さす 門 いわしの かしら 豆 まき 豆 打 やまと 晩 在
年 忌 煤掃(すゝはき) 歳末(さいまつ)。歳暮 礼 晦月

惣季詞

生姜(せうが) 生 生(いけ) 年 房。暮 蕎麦。 やまのいも 年
梅干。煮(に) 梅 梅を干 梅を煮 なりとて その字 入て ハ 季に 用之 余准之
干蕪(かぶら)。干芋(いも)。干棗(なつめ)。干梅 極(せんざい)。干大根

芋かしら。千歳。千瓢。瓜。茄子。此香物
但千瓜 季二出 味噌。薮る。まめのまめ。赤豆。ゆ
出食来。強つく。菓子。山ぎさび。胡麻
けしかのしそぞ けまんのふるえし 桂。榧。菓。持。油
薇。繝。菽。つら。柳。楊。柳。まさき。枝。垂。槿
白。乃。桜。樽。引。比。洞。扇。綱。馬。兵。乃。人
経。綿。霰。篁。雲雀。毛。月毛。鹿毛。あし馬。仏
千鳥。去。蛤。瑄。章。頭。苑。鯉。
鵜の。鶴。鷹。桜根の矢。蓮。苑。比。つ
漆の。塗。椅の。皮。棲。桐。新。
同。星。比。苑。小桜。威。卯。花。縅。

連歌四季之詞

初春

初年 去年今年 立春 初春

三の初。守。猿。星。吟。氷。様。暦。穂
菓子。菓。氷。つく。み。拜。開。筆。試。門。春
歯固。初。若。初。香。鶯。百千鳥。白。鳥。暦。開
腹。赤。贄。国。栖。笛。月。日。子。日。小松。引
若菜。菜。摘。菜。摘。芹。すな。
すゞ。初。草。初。草。白。馬。卯。杖。初卯。杖
縣。召。十日。敷。比。綿。賭。弓。十六日
梅。枝。謡。大。芹。うふ。梅。この。花。柳。青。柳。
同。草。川。柳。松の花。初。緑。緑。鶯。間。消
氷。乃。様。氷。浦。長。閑
東。風。根。子。日。夜。梅。花。夜

仲春

暁月。山。川。三月。月

初年 春日祭 大原祭 仏別

二月別
佛ねはん 霞の日ざ雲は実。朧月 秋
下萌 ひこばえ 角ぐむ 芦若草
さわらびまゝ。草なづな 菫の芽 菊の芽
草芳（かうばき） 萌る芽ざさうつひ。焼野
畑焼 日折 田をすく 日起を 苗代 水口祭
種蒔 麻まく 菫 黒薄（すゞくろ） 荻（おぎ）焼 祭
本田 植え初む 花を待。初花。初桜
糸桜。紅梅 梅 鶯 八重 咲桜 桜 狂
蜻蛉（かげろふ） 蛙もゆる 蝶。蜂 別 小鳥
燕 日 渓 日 巣 鳥の巣 古巣 白鳥 雲雀
鳥さへ囀。雉子 日 狩場の雉 むすび てふ まろ
閑す 鳥 帰る鳥 こもり山 こもり狩 雁帰
朝鶴 燕尾 白尾 ねぐらすぐ

末春

涅槃の法様 上巳 巳日様 南祭 中原 鎮花祭
さくらぎ 杯流し 三日 小ならし。桃の花 三千代草 桃酒 古草
八重桜。糸桜。遅桜。桜人 桜狩
桜田。桜戸 心の花 詞の花 花の花 花見
花皿 花筵 利花。花ぐもり 数寄。菫（すみれ）
母子つむ。藤 蔦 垣 磯小 花 菜子
まゝ 嵐 和布。若菜摘 桜貝
若鮎 小鮎 くむ 上巳 菜の花 嵯峨
呼子鳥。雲雀 入る 文 花衣
数寄衣 さくら衣 霞 雨 花見月
春されのみかと 春 夜 永日 弥生

初夏

更衣 白重 卯の花 扇 日 神祭
大神祭 上卯 三輪の 明神祭 稲荷 日 松尾 上申

平野祭 上申 梅宮祭 上酉 広瀬 四日 龍田 同

日吉祭 中申 松尾祭 中酉 同之酉 吉田祭 下

御祓 灌仏 八日 もろかづら 葵 葵鬘

牡丹の花 白くも ふかみ草 はつか草 名取草 柳花

玉巻芭蕉 若楓 若葉 柿の花 栗の花

夜半 ほととぎす 余花 若竹 木下闇 …

常盤木の落葉 郭公 …

四月 田植 …… 卯の花 くたし

卯花くたし 垣根 …… 卯花月

中夏

菖蒲 三日 あやめ 薬草 薬玉

競馬 …… 引の日

真菰 菰刈 花の …… 藻の花 萍

和布 若刈 百合草 姫百合 さゆり

あぢさゐ ひるがほ 花 萱草 花

末摘花 橘の花 世花 … 梅

梔子 染 …

早苗 苗取 …

諫鼓 …

鵜川 鵜飼 …

鮎 …

照射 一夜鮓 梅雨 五月闇

季夏

氷室 氷室の雪 氷室の桜 祇園会 川社

御祓 名越の祓 扇 暑日 …… 納涼

風薫る 泉 清水 …

白雨 雲の峰 …

石竹 夕顔 … 蓮

海雲。友雲 夜川の糸 桜麻 後草 蟬

夏虫。秋の隣 来ぬ秋 秋まつ 水無月 夕すゞみ 南風待月

初秋

一葉散 一葉と計も 柳ちる。桐。梧。梶の葉

楸。初嵐。秋涼。残暑。扇置。七夕

星合。星祭 日に向する。素星 秋の初 年の渡。秋去衣

かさゝぎの橋 あまのがわ 銀河 舟ぞ 庭の立羽今

律の調。玉祭 桐 よまつひ 撲 灯籠 波の音 袖の露

刺身の鯖 霧の色 きりの海 きりさめ 身入

君さし 盆祭 木賊 種屋似 ひやゝか。稲妻

草花。女郎花。白粉 萩 日風 されとき

たなばた 早田。蜩 白露 蜩 鳴いて秋

胡蝶 蟋蟀 杜。津羽。秋の胡蝶 きりぎりす

松むし すゞ虫 こほろぎ。川越 虫

いなおほせ 藤小袴 虫の音 鳴。鴫吹

初嵐 鶉 鶴 雁の声 霧 鹿 別 月

中秋

小野茶 十三日 曾我 十五日 八幡祭 月つきさき 十五日 司召 駒迎

望月 駒きりの駒 十五夜の秋 大根乞 新酒 因幡。秋の夕

宇治 花園。花野。刈萱。花見 花の文

尾花。志きみ 菊 藤ばかま 月草 葉鶏頭 初紅葉

蓼 紅葉。萩 しぎ 糸萩 萩 萩の戸 萱 刈

草花 色付 葛 つた 水引草 菊 葡萄 萱

苅 色付 稲 筵 日干 藁 種 八坂 案山子 くじ

そうずつ 引板 ひき なるこ 月代 やゝ寒

月の都 月の桂 花。星月夜 盃

夕附日 なかひの影。楼 衣 砧 鶉 衣

たかの田 鴫 しぎ 鵙 もず 月草 茎 鷹 ふる 渡

冬ざるゝ 熱海 秋篭る こもりえ つくづくつ
斤うらら みちのく 紀の鴨 鷦の字入て八 なしり
落穂 飴 きびしく 下葉 散る 紅葉鳥
鶉 鹿鳴 虫 すゝきの 風 萩 月

暮秋

御燈 あかり 燈籠 酒 十三夜 後の月 別
菊 綿 菊合 菊の 菊 八秋 冬紅葉
草ゝ 枯 草枯 の 思草
思草 すゞ 落穂 芦の穂 桂
梅紅葉 櫨紅葉 紅葉 冬の草
色なき 時雨 冬 落葉 散
川の 冬の 枯 まきの 櫨 楓 まさきも
落葉 冬の 冬ゝ 松 薄 ふか 萩
樵 月 生 日 ひつぢ田 枯 の字入て

嵯峨山の 嶺 山 霧 霜 霧
霧 時雨 肌寒 やゝ寒 そゞろ寒 夜寒
冬の字入て冬 冷
鴨 雁 渡り 鷹 代
擣衣 砧の 菊 衣 桂の衣
新綿 一重 綿 衣 八秋 冬
初秋 冬の 秋
秋より 冬まで 長夜 長月 菊月

初冬

更衣 一日 場 菊 初霜
時雨 時雨の 月の 霜 冬籠
冬立 冬 衾 風 冬 名草 枯
落ち 萩 菊の 枯 葛 枯 枯 枯
紅葉散 かつちり 枯葉

落葉は花にかはれど冬木の桜
枯野の露。初霜は消。笛吹は初雪
綿帽子紫衣。鐘氷月清く。炭竈
網代なり。小夜時雨。時雨十八秋小春 月

中冬

年の雅祭 上卯 春日祭 梅宮祭 上酉 松尾 月
大原野 中子 吉田 中申 右は祭の綱を以て是を定む 西宮の祭は仍て之
小祭 中酉 豊の明 中辰 さよの明 よその明 新嘗 神楽 里
榊葉謡 明星うたふ まさりうたふ さりくすて謡、求子
末枝庭火小忌衣 この神 山あゐの神
日かげの糸かゝるも日かげとよぶ
氷室の雪つもる 小松 たなびひ
いもごこ 小面鏡ぞすゝむ。氷蝶ふみつけ
千鳥。そし鴨。鴛鴦の衾。霜雪

新年あらた村々。著衣鶯 あかけの鶯 若の鶯
鳥の落葉 ぬくめ 綾鳥。羽搗の雛かけ 大あ鳥
鳥ちどりを志らふ。めずらしい鳥 小田のかりつみ
鳥さけび とし一草
あまき 霰数 消ゆる も冬 こぼれ 落葉。雪ぐさ落ちゆく 雪風
たくられ霜。雪の栗 埋火。榾 わりこ

暮冬

荷おくり 十二月 のさきれ 仏 仏の御名 十九日より 三日 歌唱
家々くらみつゝあけ年末二日
年をとる。節 よ 折 とり 晦日の天子の御たけを
これたてまつるあくの儀式なり
暦乃末 右暦 まきまさき 春ちかみ 早梅
儺名 晦日也鬼やらひ なやらふ 鬼やらひ 桃の弓葦の矢にて邪鬼射事なり
年忘れ 年越。年を渡り年海
行年 年の暮なる。年。年の内の年忘

三冬　画　師走

誹諧恋之詞

○夫婦	二世の契	ひよくの中	連理乃枝
偕老同穴	寝物語	けしやく	かはゆき
兄あ氏香画	情ふり	言語之引	仲をあれ
胸をやく	志んき	らうさい	くどきごと
小田ひ切	くれない	ちくさう	渕ふ身投
思さし焼	愛染深行	むもみの袂	白髪
縁を結ふ	立名つき	中人	よめ入
聟入	遊女郎	貝摘後	読座役
十五日政	長刈り	都しみん	蒹蓑精
身を悋	色志ろう	に香ひ	肌香ふ
柳腰	前後見ろ	渋紙の焼	句代家
白乃玉	俤のそく	だてをける	恋風
恋やせ	恋やこ	まんや	目遣せ
袖引	門ふ立	辻に立	あひは
やくそく	肌か香画	宿気なし	肌をみて
もち捨	肌帯	すみあひ	志り向づら

はなやかに さとられなば 女なりこと かりん 懸文これ はなきめ 手の付物 めこつけ あかきなか けさうみ 兎ひとり めぐらひ 女めさき 同じ座 いかりかけ 水かけ猿 白拍子 恋の古事

月はさびし 老女房 涙ぐむ 二ごころ 忍び逢 恋念 思ひの女 まんき いとなの文 旅寝 杯の手 男ね まま人 枕さだし のろふ 高砂 あさの袖 紙燭

子をおもふ 若女より うたたね きぬやかり 二夜ひとり あさはかに 後妻 懐かしき なりひく 海とのすさ われもひと人 枕香炉 汗ぬぐ 形見八十 会者 [illegible]

子ゆへの臭 若衆 中立 恋の手前 みさかひ 遠流 離別 さと通ひ そらみみ [illegible] 男 同じ塩 袖かづら あさと云 けいせい 美女の 武家 [illegible]

逢ふて深きを見る 久米の仙人通ひ夫 男も十八

[illegible] 生田川にて小舟のむ 難波より宮の内

連歌恋之詞

契 えんり むつ言 面影 恋種 化人 うつ人 恋衣 名さへ 恋の心 たはれ女 恋すてり 中将姫

きぬぎぬ よなよな 並ひに ぬれぬ衣 垣間見 こひしきなか 恋すそぶ 新枕 あやにく こころふかく うかれめ 人妻 それなるまじ

又寝 さしぐみ 背く いはせぬ 思ひ寝 同じ心 こころよく 古枕 忍びなき 思ふなき たをやめ 中立 すずろ

婚の約 むつごと 冬涙 うちつけ あさはか 心の人 恋の山 うらむる 我妹 思草 挑むとうかな たのむ仲 世の常

恋のならひ
流浪
君ひとつめ
うつり心
まろびね
絶えし
人めの関
いも嫌
手枕みる
暁の別
あく為
おもかげ姿
下紐
恨
かこと
名残の情
物わび
あだ

御と契
思の淵
そのつけ
物思ひ
さはり
衣を返し
所あく
そひふし
ひとりね
君
情
まくらせ
下紐帯
形見
衣の香
物のけ
扇のせき
御車

涙川
思川
流つらし
あひおふ
いもせの中
人ゝ人
まめ男
そひね
待宵
俤(おもかげ)云ふ
文始
お渡
思ひおもひ
浮きさき
桃香
姿見
おぐら
女車

涙の淵
思ひ乱る
むすぶ恩
忍ぶ思ひ
通ひあき
很人
妹背
玉章
下紐
乱髪
すきもの
傷
御鏡
うつり
人香
雑色
ひきかざ
心の中

うきみのつく
夕顔
あめや
心乱る
世語り
二道
ひさかた帯
手まくらの契
眼母子
そうみ
あをやを
あやしさ

姿見も
ん合
むかしの人
物おもふ
忠誠より
手紙
手枕細く
御閨
涙こ
能見え
おそらく
寝とまり

三重の帯
せこを束
肩ひく
松浦姫
志うねき
下紐
婦しく
金閨
いけとらえ
縁事
ちゝりら
みなせの

うらみへ
やまの住
さそへん
玉の緒
あふ人
うつり
そをさため
明人
やまるく
あけの情
言ひかす
まゆのこ

世語付古歌

△思ひうちにあれは色外にあらはるゝと
そいふことを語事ふかしとよ
とよきことそなたの乃う
とよふ中よはかきとせよ

○あさくさちやうけハくろし
米ふまし小まへあくのつ
ちくいまちりをえうりを
めいさん万人をそうられ
○ゆかりをものふしを
あれなくみてこ前をさう
○菱飛よりよりくろ
まさうひを寺をやりをこふ
かときみはのままつよ
なりきみは海うきつよ
志りてしらされ
太こやうは太平
みやまはめさ川りし
かれうもとらちはい川
○うとはき○うあかり
いまいれしらも志だかう
こぞれさういたい
けり乃ゆうこやう

子ると三ぐいのらびゆせ
とふ人たれづつとあつ
たふ子よりいづくく子
せわりはやそゆるね
いせいあうそらい
志りくぐつき
うちてゆぶとのやてさあよ
やきとりにも亀をうけく
あ川ま子みえらふ
子をもつれとも仰をすいまやぶ○し
ぐきこをめんじ申
ゆきまあも山のかざり
やうゆてそたい
ちきれてもみき
よはそそしれむ
志んさなたより
ふかてはつふ志ぐん
門りくいからとゆけ

いまはうらみか
ながうとよりひのそれと
三すじのかれそし
百らうんのむかしもたり
はくらくていぎん
ぢりいんぎんむ
たくらはかのさてあそせ
ぎいはゆをうたくか
三がうもそてあしかう
うやもねやはらかとうぶれ
ぜんすいそけ
あくはのつよ
○くらうかんやのごとし
よあうさうとめふかう
○ことばさきさきこさすくなし
いさぬいふにすゑう
さりもむさたぬいと
めこふてこうきくむ

ぬましいとみてくるいとなふ
○萬人なかりのむし
いしきそときてふちに入
のこをきらすゆみもきられ
こえだかりくふてある
まきゆふゆみをいふ
そとけの家のきやうをれふ
志やうのだしとされ
たく花山ふ入ゆくむあくさう
そにくうかぞう
うけむまうりむち
たんきはそんき
よみむゆこちといろく
うちぢょのそうぢ
みんぎやうふもいしやう
こ川そりわとにごるね
経つこゆるねこいはためめくるそ
いましかしらをせえよりたのまれけれ

いしうにきうんより茶うすきれ
○ちんもつごろびを一ご
も着二ごひるし
こやりとちりはめ
三川そりゑめくおどし
志んきむしろをきれ
ふくびやうたゝみふあつくべ
まんのぬまうえ
あひのうく
ふるれ代ぜん世川
志やまむ川のちゝ
わきう川ごがれたらう川ふく
みんぐむとうい畫六あきのく
猪ん由まさいちをと鍋まを
あくにはよれぜんふがをつよし
うけの子やゆきり
とびもたうこむ
いちはこうふ三川

てゑあうて人くらぶ
みやこもうひかうし
ちぐくもすみぢ
やうくきうんよりはときさを
一とをちて可をうまし
えゆる山やゆをちゃうこゆう
たうときてらかん町うみゆる
はしふこうかやう
ちやうちんふはうげをし
女夫（めをと）おいとこをそふる
あたのふるぶうふ鬼神がれる
わとけつらりてまむとゝまで
ちるのせ川おうもむたる次へ
わうろく千つらう
千日ふかるくや一ときふわる酒ほと
くこほとけかまえ代べつて
うくふをまかものかの丁る
京にぬるかあり

おゆゝふきやうばり
龍鳴のさゝめつき
さるもまうらを川か
くぬを矢一本
猿ふりもほうしこう
あくろさうしは花紫ふつむ
ちやうしやのまんどうえいよのとう
大わいは乃一滴（てき）
九牛（きうぎう）が一もう
人のうみてさがさぬとなく
わずみをはんで人のひまをまちれ
あるさどとそらかくゆうを
けらちらうてハつくよのふまふ
どくのそこう見
ぢごくの乃てそくとび
碁（ご）せいゆこちゝ
せいすてうちにようてうゝ
けくるのもめぐらん

いろを見てかくをまかせ
てらうさと
伯父がをひろくをとる
あまをいてあへ
いさうひそてのやうちぎをさ
ろんごのそのろんごよまれ
をんやらし物のうへをおす
りきのあおうまつをのそく
大わいを見でせくおとし
こがしをさうさ百にあたれ
ちもをとして出ぞとちくふ筆道
ちりをあつくにをりあれ
をぐ列もなくいふ
毛うりうきぬてひろ
こうきあだる面をさる
をにを十八
るあとをあくさのうち
おもむしややまさんおとづる

くろいぬふくられてあくびうれしかづる
くろちからめうもんかうものに
とやのまくろ子志くれ
まれおべにをぢふく
うしろうしつまむまつも雨づき
むかしはあんくわ皿のそくさほいり
いかのかんくまいそうれぬこうもの
ふちくりあめ
ちう雨のまちにざこうまする
志やくし宮経
きねつりはる
むまれぬうれのむ雨さきめ
やまのかくぬさういふ
一ことく二ことくに
だいあふその八中町うとおる
めぐるまへあしも入
子すんのぶまひろのぶるす
里の糀しろいひの一ぱい

やさふ津にゑ車まいられ
こきやうだらとくらし
くるふかめしききてゆく
からそらにつぶどらし
きうよむ雨にのせうるおもし
やみのよめにしき
とれられたかるをそふみるとし
志やうなきてゆう
えんのしくろまひ
井のうちくるたかひを志くに
面をうを志るえ常をいかそふみとおの道
とられそふむおとし
まうれえけをあづるおとし
とくふれのへりつま
くぶらのるうしにゆく
むかしにのりてみよ
人かはそふてみよ
いぬのおやがぶてまうる

すゝめ可まで　やどりはほまぬ
とりのはだかさ
くる田乃里雪しる
ふゝののきさかり
ちやうちんがあそのゝ
蝶の(は)くちらうのまゝ
志らさ三すんなえうりたる人のこゑ　とこれ
うほり　ふぬあくろ
思称ふまうだうれし
ちれふ三志田んのやくあり
廿五乃ちきらもそれくのやく
なけきの中よろこび
まう志やうを始のゝの
あふはやうれ
たのしひはなし　ひのゝもむ
はよきまはむれとされ
やみきハ風ろり志れふ
まにうけそつくらし

あふにはこのましなまおとし
きひ乃さひさい
いのちさ法のこうう
事うおかえ始まん
ぬけさやかしうん
とそでもぬれて袖
とくらふさう総ふれ
あちせののいへれきもの
ゆるくく手いぬくる
そんそぶえつく
きぬの乃子いうじろう
みんあくふむきうるぞ
起はあけうるおとし
町ふはことれうれ
まいしきもせうひゆうれ
一ひきうる今中をのるもうふ
狩人ちうまはふ狩人もはしる
鬼かうぞうしたるさび

こうくらひききにくゝに
はじめはさゝやきのちはどよミ
けも乃ちらしはあとふく
きいこにぎん亀あり
すゞばこるえよ
亀のこのもつき
めらへひふちちも
いとわしきるにらひきせよ
あくきものいけてみよ
たせいりがせい
きじとうり
さひくはらかちり
ちぎのくりもらめり
十七八ろやぶちう
ふりしやとめむきとらぞ
うてどひのどく
あられはらく
よかもきがりもあがり

見ぞすそくおそらふせてあれ
おやじめは子てゐるのてゐ
ちりぬをかゆり
ゐの子見んちしか
めとのめにゐうどゐ
そとこのおろと川のせ八殺せる
その子ハおにらもあふくゆるにか
志やうにづうだ
美女もあくちよのめこき
しん川をこゝ月
月夜にこめのうひ
ゆきそれ矢つくる
りこれつかも利とけのつれもきれつ
てうおく
くうちりくべ太まれうげ
鳥薩えそれかきふあい川する
きれふハくふあのむし
くふハ人の身のうへあれかば身はらへ
かゐるハかくいのさあくげ

あきのよいわうちきこえのあかい
人のこゝはめにみゆる
わがみこれハくふかき
三人よれハ人中
十人よれは十國の名
よのなかうきこうも七十あま
御座敷は里の事さへげていふ
あてへのひざやへふかする
こ浦くとうく通てもつゞれん
きうとはさけであいむこれ
ふかるうきとえひまにまつする
おやのめくすする子あぐろ
きやにふかるはさた子
あめりあかへえぶんのめし
とれくむ名もれいある
ありのたうきとらむがことし
ちるのあえとひろふこと
山がらのゆへふかれ身をかる

ふせるあいきやうにけさをおこし
ねこてりめらざけ
すゝめよまり
あきるあにびよめにくらされ
よめさうとあれ中よきハめ出きさ
はまりかつ三里まくらむ
えんふつるれハたらのあれそくふ
げにも子さてちうも三きさ
どんのきにハせ子となきけのきにある
ようあいめのふれんれし
けことちけめのきてあし
浅ハふく風ハきのきのめく
一ちらちらへ花ちらちらふ
よろう川はなで
ぬきえ人のひるまもあてゝ浮
ながくハつげ
えじめくはきれ
ありきを

関をゆくもあせゆくもさかし〽ちち
とふにつくさのまち酒
そんやりじさ浅がぜふおいぬかひさ川
いしにうしけるあらし
いしはうふも三年ぬれいわう〽ゆる
こん座ハあさて
浅井乃おありハすハくゆ時
わたらいハ他人のちうしまり
うみきさえや関ひさ川
つ里つち〽
一穂えぎやう
志うとめのちふきうり
とよのおやとちか川うさきまあ
人のそうでとハうそうでと
七どうって今うくぐべ
魚くうなりがうんき
うくとえめうりのうく王手すれ
ひろきさらべハきやあり

めにハうふせてあれみをゆる
のり出しうる〽
まんのうきれても〽志りうまた
二八月ふをまふ子がにのは家
め家もうもをりみのる
ありてのいとひあうて世家も
いぬきはにふもあしめハをあふ
ふくめのハめらえ
うりをふくうハまりたる下し
くハやうハ孫くまて
ちんたう人をあうさえ
志えはのをちちのさうしうるを
くるのはうよう川く酒あをし
まらつとにこう〽
いきハよわうれ知しいつよう世
あくゆれ子世にハ川家
やせう子みを〽め家
をとえめひりハ七えあり

きついとならの都をゆる
いりまめほと海しろハ
鶯りやべえハしがあちぶんご
やけりしにえ川めつおてとし
志ほ田めくふちをうけむおとし
蟾蜍蝶鳥にあるで
よくにいつてきれし
孫みてみうつのいるてとし
あしたと能りと見れ川てとし
いうぐは海の重
ちやうしものどそ手もめど
ちうつぼんひいき
よのきら急につの花ゆうぢり
そんぜんふいちを取次
ち者のうぞにひあとらえ尻
志やれこちハつびりし海
世れとりけくらふんめいたせよ
そひて二ついちごまろ

そふとるにそしくらまでおき花せとを
てうあひ合しあまたに取次
たゝふその銭蟷螂がらふ
杏しとやまうひめはらされを
志あ川らまへがうゆうえおえ
やぶにる歯をいふ
よこぐきさくおろし
網あうてあちあのそころ
志ほら海ちらにもたけのおそれハあられ
志しぬこうしをうふ
ひぢりあふきをうふ
いぬ乃まへのかしこあ
ぬをと人ふうぎあ川くるか
人ハぬれ人火まを饒舌を
ぬす人のどりれらハおれとたれをのあしハ
大そ川いそうりどり
かう風りてをやをうあ
人乃をどうるとをハおどれ

ぎおんのあぶらにぞちぎるを
えくにのかぎあけらゆるわとし
山のなんみおうぜみまるてし
そりつきむしめてし
まけをまふのこまくぞるてし
げ○そのくてりさう
そりぶつえふつてとし
あまりさむさた風を今
あくはなんめてむすずる
めいまなしくふあり
なそし小公ところせど葉人を出るを
今たんかまもいでも
ちなりよりふかきこともなし
亀ち海光のえをもあみの次
すみべりかえをそをそる花
ちゑあいきにちゑつくる
されりきひぢらしてなりまるる
あきとひろふてめうにまいつる

ゆをわりしてこ川みれ次
みふり目よく
さわるりほんあう
やとひどふさずなし
あをききてげだとれせ
ちやうごのひくさい
がんの海へ
そとしいのけいやく
うをとこび川
とてろなくひ
くにけうらん
○一すんさきいやみ
三日さきされいちやうじや
せらんおてはりめ
月影にちやうちんをぐあいがん
やしやりよめいり
めし海くち
はなめふゆなををめん

げしそくにうるおもし
人くひむまゐもあひもち
そにのめゐをなかるご
てきあよふんゐをよくい
どくやく趣んじてくすりとなる つげ
器ぴやうよりひんのるゝこ
さしとりんよりせをとへ
ぬら然たちのかうこやう
田楽のあんじり百らんもる
おめくにうてもききせうるぞと
蒋ゐをふむおもし
わくうそてくびをもむるごとし
川のちるにすそくこと
げこハあやうごひらまん
よハききものをぶにちる
さらにめくそる
ふうふにゐみすきてるこよし
唐土のとらハげをおしむ

日本乃ゐじねゐ銭をしむ
志らゐらほどけ
そらぬがむうるゐてし
あとみまつり
おそうけもあききだうへまる
うれ目たらのめ
てんぐのやどり
百目に百ちハそのれも百めは
辛年ハうせと辛日をくふめの
そもみくこづけ
よくのくまくしくしさうる
がくまへに書きてある
ワくぶそろへかくるかる
ぬるも人くけくし
めれ人とハゐうしたま
グんハ八百矢ハ三めん
あずりくれもあるてみよ
くさ法とたくふうかく

むぎさいひめてこいをつる
ちがやくろきて簾がまれぬれ
座ぐらよ将がよ海まぬ
ゆめとりとみえなふ
まらんへふ花もてきたることし
殊事号ふと涌る
なんぢは車のまれとし
かむとあるがく顔む
ひくきさところになたまる
あひてれもこもるあころ
ちやまんをあげはまくてめよ
ちしめぎらめ花なるか
やすきめのはぜにうしなひ
めいとろ子いとし
おうずがふくされは悪さきまで
ちごくみをたる人みく
めどまきのうがふも用あり
うびはみちつきせは前さうげ

とふきおやそまりちつきさなり
たまにふまるし
ぬもへ乃ひまなわれともありてれひま記
たいまるも花さく
百にあるうちもかうてはそし
かくらきぬをよるのもの
ゆきところへまれとてつまるとし
まをまくまをよう秘
いしで手はめたなことし
むまにのるまではじよの金
れとけふなるもたやさをやる
をちれ人ちれあるいることし
因くらのつえをうしれるぶとし
あるのめに風たなる
なげ千よまのやとん
あさみてり鯉
やぶてり剛乃その
たとこは前てきくもの

まくらやとれ世かへる
かゝうとそらして
すいより ぎやう
ほとけみものはしれとも志んはよ
あなそてハふれとなかそてハふき
ふみだんだんかいさうじむきま
まこうひもさいそれはしとある
ちりはのりて山とある
いさご静していえとある
ろうてうらもとかふ
論居ともちのぶ
らうやくはふにざし
ちうぶみてふさうふ
天人乃をすい
人君の八く
えはあくひよくれとり
ちふあらハまんゆのえく
せんだんハ二だうりゆうがし

志やハ一すんとりまへいとよ志ふ
ゐこゝろうちのくるれ
まくこりはりそつくむまろ
花は禄にくる
とりそふるにふゆつ家
天志る地志滝されたる金る
きうりそふくろをと銭を
よろいのまゐそそむく
けぶりのくまにそゆか
ときにあへいねすこみをくれ
いちもりのたちもそれを口ゆくれ
たまかんぶめざれハひろり
めくまふんづけハうまとある
こゝろ乃師と八なまし
あくろやーとせぶれ
どろのうちれもちれ
いちろあつ乃混
めうしめんとうてを

おもふてまよはしるく
花のまちのえんがはのめく
月のまへのつやれとも
やせむまのむらさきおそはん
うらふすざめ人をおそれなと
かけをむかひて三川入
ふるさとうきむかしてまたのある
あゆめのふで あふよりあひし
氷ハさゞれいでみづよりもしらず
ちとりかけてふのむしところを
ちよどうらくねをとる川か
われや子ハ一世しハ三世
かう海ハ二世ちぎり
主じんハ三世ふつて世
てふらよあまふまのりんで
とううそふけハ風さう
謡ぎえ生れたるまどる
一宗ぶせん きん

とかハ一たんのちぎりはおもはずむまれなら
むかしとゝり
ゆうべをさげぎ
よそひうるとひとよ母
わきまへを子ず
かんじきれちる
ちんとうぐゞら
日本三てうびかきうらみ
たゞハめこそれを見すにならる
かる川かこうつる女
狭者のいゑかよのはあり
十がんハこれらき
月こそれハゆく
さあたどもやはかゝる所に
かうちふこちてほとゞけにあらば
人かうらてゆこされハ女房し
あらかうてきのまれいうとすも出
かうきとうつてあるしたら

盗人ハ名のわからぬもの志るを志る
　志んハ荘厳よりぞおこる
それとても金泥の表装をあらたむ
　鶏頭菊梢小菓らふ
胡蝶も風のいざなふ
　夢みてはゆきさそふ
まりしきハ川らふ
　山の端にその比をゆるまて
めらすれハしらなきくおもうまて
　くれないそのふふの遍
さくらは花ふおもうてる
　むまの草風
うしのまへふおふる琴
　志てハさぞ沾くハ志る称ふ
志らをおかみしハ山をこすといふ
　やむめよりみる月
子ゆへのやミふ迷ふ
　筆屋往三度ふおふみとより

川ぎしにたてば人ハたにいわくまくと
　おるまてあんさわりそくハおる
このことあれんよりうまいれれ
天子に父母なし
聖人に夢なし
和尚に師匠なし
　人ハ一代名ハ末代
　借と金を捨て抜出ぬ
　商ハ志ぬれと極をつまぬ
莫同士墨絵のあらひ
女ハ氏なくて玉の輿にのる
盗人ハ[illegible]すてて家に返
　仁者に敵なし
　智者ハまよハず
　勇者ハおそれず
落花枝にかへらず
破鏡二たびてらさず

海気汗のごとし
白魚いなふよなし
麻刈流るゝよしあき
水もまるの葛に光てらふ
見るもよみまの目
住らんよりなれよ
下切より目切
寺のあとり乃東かんにつく程をよむ
鄭氏か流水風は川に六詩をとうくふ
勧学院の雀蒙求を囀
三州ともつにものうふ
うをもとの乞ることし
すれ見ちありくことし
渇ふのぞみて傍よ井を汲る
飢ぬれうちく菊をとふること
月見れくまちかいとく
いとかちゝる名
一擲のよりあかれ

先なんかくすゝうてみよ山ふのぞる
さゝやき八町
今といふて遠しや
まちこふ名をはしら
屏せ乞にそを手まに
いていふへ此ちり
ぬすむ人ふゆとかう川
一寸のむしふもる此魂
さんせうは粒ふんとかうし
あふみぢをうつたにさすか
おひのそりつと
互のてふ了らく
百性乃去年をみをとり
落花狼藉
花見て枝をたをる
ちごあそんごとし
出来ふしまぬ家桜
生やけれをさくらし

しまうり哉
小ちはぎれなくこ
縁まつみればのできまの
又人八れとみよごとき
かはゆとまやうぐん
引るれさき里のうるらり
りが町ででかえぬ無色
三ぐいりりきたり
六ごうみそとうたり
きん高に出なし
望てりみて
煙ふ日うち
出るを梅りふ
舟も舟店ハれ
いろあひめち
げまを為ハ上﨟いるへに
このむまのおとに品ふる
うひろふ虫にゆきくらし
まぐうんより為のとりへ

どれしおちれきこ縁
すまのひもたのさ
兵庫のあれハ流免ある
一樹の流一河のながれ
一むらさめれあまやどり
袖のふりあふ世も他生の縁
焼亡をやくらし
喜同ちるれ器木
秘事ハまつ川毛れとし
すきにあつまり
うでくみし
めんくのやうきひ
きこにありてそうやらけ
あちぬふこあれハおふさあり
すつる神あれハひろふ神あり
こせうまろのこ
志ら川よふね
見ぬ京物かたり

國入りぬる人
家ふ稲干すこ
借の法あり
狸ねいり
嵐のそら寺に
鰯汲ぬそらいそき
やまひ為かりてらへ干すし来る
あいさまずれてうげいける
まさみくまさ志くね鬼畜のこと
猿猴が月よ影ほしを為し
猫のひくいまる狗嵐がねらふ
蟷螂が斧をもちて龍車に向
ゆぶん強敵とする
たらの末にも咄なんかぞ
めせぐる返射えんぢゃう為し
盲亀の浮木
優曇華花
あまたをふしぎに咲こともし

ちうこうがへ
ちんらうが為こぶ
包丁が笑
こうき河あやに志でうひ
汁の身ていおとふ志でうひ
志て八子ふ志てがふ
人ま人ちて
家のちくい温泉
川ぶちハ川ふても川家
いける目つ摘む花
茶の末てりこうけれ
茶の末のびて笠をぬげ
まへうすれだしうえる
志んあまはとくあり
まるぬ〻てはいちへ見
一人の好まより三人の愚者
ひざことをだんのう
めん為ふつかれて咄をうたふ

令下まくら物悪ハそうらいふ仍ふ
くらげもそれにふあふ
まてばかろの日和あり
小利大損
大事ハまへの小事
歯をふきて牛をあらた
出うまば汀乃あらひ
むかし此剣いまのなぐされ
麒麟も老ぬれハ駑馬にをとる
目くら氏めきのぞき
歯かのなぐくさ
法師の揺ごく見
あらひ鉄法ハむかし飛あり
せふ中の舟いまいひ
昔ふりく地くこまぬ
梅くるひの猫ふさた
酒ふ酔ば性をわすれ
くらり縄ゆをとうところ

地ごく耳
まんがち
一ちがござろ
ござれろを
ちきむほび
うしろばめ
うまつかき
国中のぎれ
うどうけ
露だらひ
うしろかし
なきねい
みるとおは
猫をいる
花をやは
手かしき
一かんさほ
猫平ぶまひ

鵜耳
うきやぶり
あさらござ
めでうしき
ぬまづまり川
すさほく
みがまらひ
塘うて
うぶうは
まうひがさ
まへうぶひ
雲にきつ
二度びくり
ぶしか
花此あろ
神ぐし
直をとほ
花あるをいふ

一ちれめへる
めくむくろ
あまさうちま
ちゞゆし
うしやぞそ
ひぞちらろ
うめまぎ
晴うて
塘あるし
月めくさ
いひきけ
みべをいふ
思ひをぬ
あんのうち
火がゞさ
七めしぎ
かくばらひ
まあおふをいふ

ろくびくり　そこおくろ　あたれくり
ことだれなり　うきだるゑん　むしげい
ほかぢぢ　ほぐるとひく　詞かてくひ
ことだまぢ　志まさの　えせもの
草此あびき　ひくかるこ　まざくれ
百年　詞のさかそろ　ちやうてん
千里の事　みさかさぎ　こゝへがくる
こゝへぜい　んぞいく川　風る世のし
かくんにくら　んなすに花そう　志てんぶてん
ふちうち　そぢんぢ風　をにみう
あるそやに　志くを消く　かぶり
人しけるし　今もしかくろ　色のつひ
うちくふ　いるまやう　いくものふ
うゐにいふ　畫そて風さ　をてもなき
あぐるし　　　　　　　　　　あるまふて話
小瀬ぞる
誹

毛吹草巻第三

い　○安楽 初瀬 竹風 白 井水 升　土佐 山寺 月通

石ニ 双六 碁 地 井戸 橋 磨

風呂 薬師 佛 塔 帯 石 楠木

柘榴 蛇 燕 鍬 鍬 岩ニ 蜥蜴

緑青 苔 苺 草 不動 糸

柳 蓮 蜘 豚 針 金 糸引 太刀

操 曲い乃かり 綿 麻 琴 三輪

牛乃 涎 納豆 犬 盗人 童の 額

乞食 芋 蕪 山椒 猿

狩 操 柘 死 骸 錫 錫 田 他

芋 次 雑煮 水 飯 菫子

幌 鮪 蛸 蓮 蓮 仏 神 白

鏡 簾 風呂 たきもの　膏 薬

ゐ〻地　産衣　同　面とむ蓮葉

ろ

樓　鐘　船　門　寺　籠　城遠

食太鼓　路地　腰籠　笠げく

香爐　轆轤　釣瓶　傘　緑油

頭　湯物　木地　角細工　爐　燒杓

舟　雁　喉　蚊　六尺　屏風　棒

撥　法珠　下花帯　因舍乃ぬく

○論議　謡　法書　人公　對迎藤

は　仮織きろくさ七夕時

柱　檣　暦　楊　燒絶　碓　舟の帆　居

葉　髭　鼻　霜　貝　數　端　島

土竈　花貝　袴　荒神　御師

地祭　役虫　蜂　団　門　口　花　仏壇

床　灯臺　車　輪　逸　絃

麹蓋　大重　漆　蛇　火蝿の　芝居

同生　蓮葉　味噌　臭　佛壇

芭蕉　寺社　布　○扉　鉢　髪

繼木　文箱　蟹虫　番匠　絹ぬめし

庖丁　なんこ　草　細工　馬爪　針

田畳　唐船　腫物　人心る　蝮蛇　杖

荊　枳殻　柚之　敷藁　鉢　石菖　漆

手水　紅粉　食甲　額　法場　○秤

綿　○鶏　地獄　絆　鳩　筆　仏壇

星古る術の　純金　山遠　棚　飾

箱　楔文　硯面　鼓階　○張子　雛

洗着　○たんこ　婦人　袴　小袖　打臺

屏風　墨打　疵　佛師　椀　旗

仏　お花　折酒　雲　薄絹　尾　鉢

漆　宮女　拵　鞠　又门子

座敷雛 蛤 赤貝 萱葉 天花菜
白衣 婦入法師 上臈 鷺 地
道成寺 月宮殿 蜂○馬の尾
鹿の角 狗 羽蟻 雲雀 蛤貝 同
茱萸 菫 絵具 白鼻 岩
蟲 天狗 鷹 大天人 八幡 末廣 歯
櫂 釜 本復 太刀 鋸 舎利
肌 綿子 護摩 紙○乃子 鵜
蓮 連子 氏 鯉 鯛○焼餅 蓋
玄関 鯱 治 凡 白畠

こ

二階 し 芍薬 茶筅 錦
亭主 帳面 縮緬 草山 花 紫 襷
白衣 蚊帳 鼻 花の巻
人形 操○田畠 花供の甲 兜

御移 祇園会の山 筆 鞍○鐙 かぶ
雑煮 鬼 柏 死骸 身 食
藻 籠 桟の鉢 祥 神 茶 旅籠 尾
関 三月 こう 幸 楊 蒔絵 説 玄
ほ 常 焼 火 竹 近 学
瑞 城 同 費 綿 形 蔓 鈍 葉 虫
田螺 甲 同 折 自 拝 同 佛
菊 鹿の毛 計の象 象の 流 念
梅 白 綿○佛 指の腹 同 孫 婦 局
菩薩 音楽 来 封 文 修
対 風 鳥 物 本 錦 来 角 同
法花経 常石 社壇 鐵 鳴 螺
山陣 本 餅 釈迦 牡丹 師子
横 螺 宵 重衛 鳳凰 法成 間
御輿 祠 行 騎 養の馬 盃 湯

なんぞ〳〵まじ 辨 祭 筆

〳〵多同 胄 鎗 鞍

新属 酒 味噌 化 〳〵

羽拵 瓜 結 鬼 墨

蔵 茸 瓢箪 酒 山椒

菜 炭 山 葵 氷 [illegible]

檜 鉋 刀 塗師 粘 計 〳〵

大 [illegible] 縁 臍 麝香

鳩 [illegible]

と。 常 [illegible]

土用 出 御 [illegible] 病人 霍乱

[illegible] 油 作 酒 蓮 [illegible]

因 [illegible] 鮒 升 御輿

額 八丁 天秤 [illegible]

縮の [illegible] 床 掛物 [illegible] 山

[illegible] 細 代 [illegible] 焼

[illegible] 花 [illegible] 竹 心 切 [illegible]

子の日 引 [illegible] 金 [illegible]

肌 [illegible] 貝 甲 御 興 蛤 貝 [illegible]

石 緒の [illegible] 菓 佛 [illegible]

[illegible] 伽 [illegible] 病人

[illegible] 年 [illegible]

[illegible] 居 [illegible] 上 [illegible] 大

巴 [illegible] 太鼓 [illegible]

ち [illegible] 一 [illegible]

[illegible] 風 [illegible] 月 [illegible]

[illegible] 藝 [illegible] 紙 世 [illegible]

[illegible] 場 地震 [illegible] 根 [illegible]

雑 帳 [illegible] 軍 場 [illegible]

[illegible] 丁子 [illegible] 薬 [illegible]

刃梳草り苑　菜　蘭醐　深く

楽ろうござ　拘杷　施　翁鯉　志ぶ

手ゑ　硯箱　団破の足　そやく

衡　手　霞　草鞋　絹　綱緒

乳　蚊帳　筆　石弥　○　血　ゐ

蛭　牡鶴の涸　奈良　鷺

判　潑　同汗　力　おを　ゆ

車弓法　鮒し　數多　川童　佛祢

り

利根　蕺　鶯　抓　詩　駒　竹

ぬ

布　如　細工　豆腐　鼻口　白膠木

護摩　鶯　羽つく　糠　馬蘭

手水　鉢　味噌　酒引　豆

古池　古来　塩　數　人妻

る

瑠璃　小鳥　白　月草　朧

菜　湯　十月　社

を

斧　蟷螂　暮　山家　白粉　玉

水　国の　神　汗

参　綴　枕　羅

きれぬ　小刀　馬　藿　道

田虫　文字　官位

わ

籠　天　川　堂の石　鐘　論

明月　橋　車　口

獨　馬　の　口

お　鞍　綿　人心

鞄　石　芦の　種　葛　帽子　蕨　縄

簑帯 鏡蓋 餅 御輿 なき 七

蓬莱の飴 粉餅を年始のかざり

簑帯 蓬莱島の巣 箸 笑 象 稽

引縄 中風 花 蛇衣 鶴 渡

神事 萬歳 稲人 不帯

か

神 嗚 菓子 香 焼 花 豆

竈 油虫 ひとぐ 鰹 鰹 垣

木槿 花木 小角豆 石 鞠場 敷 帳

田中 お蟹 鶏 萬 康 格子

堂 家 鶴の 織物 雅 芸 鶏 花

織物 障子 家 瓦 所 臺 瓦 硯 櫃

堂 朝 向 楽 花 檀 楽 螢

天まち 但 吉 紗 葉 法 事 神 前

川 菜 松 柿 子 葉 鳥 舞 尺

九 連木 柿 鴨 通 竹 鵜 流 もん 刀 枕

絵 萩 菊 女房 瓢 女 耳

張人形 水 よけ 花 莱 塩 魚 糸

傘 紗 蟻 余 下 俊 泥 松 茸

濯 籠 笠 松 梅 月 河 涼 池 脉 出 伏

寒 人 乞 食 額 石 師 回 菜 師

寺 数 七 の 屋 甲 絵 人 回 来 豆 芋 借

四 貝 鐘 鉄 釵 鑓 碇 釣 針 蟲 近

鏡 炭 塩 御 湯 豆 蛸 年 糸

泉 水 論 衡 教 帳 絵 斧 蔵 紙

泉 高 鼻 鏡 楊 餅 水 御 輿

羽 神 仏 お 参 る 香 爐 紗 人 の 庭

風 呂 あ ぶ り 土 器 油 火 あ ぐ ら 神 の

鳥 居 高 雄 羽 根 児 塚 鐵 金 頭

天 神 懐 子 紙 菓 子 筆 鳶

水道被毒臭の名り民の役
本草千斂麦粉漆抽出吹風ホ竹
唐墨臭の子実図○粥鳥
病人日待○拄鎌ち屋酒り太師論
○蝿○痛金骨○夙帯丸切同
鋸○鵜蛇貝酒鳥場牛耳○鳥織
蛸月釈瓜日市吉曲出祭死叢
鴨鐘車香焼蛙蚰井戸
捨役人月魁鬼酒水苑蓮茸
白寝汗の癪治天王寺蛎
胡粉白土豆腐貝杓子飯
乱酒の盃山伏湯屋町鯉社
猫軍兵お撲ぶ蚊蛛撥播虫
藪沈下屋○狩扇紙の輩
播川○蝶樽人葛の武家杓子

花入の口葦八幡宮櫃ト参盤
風呂油筵蓑ゆ所糟手
漬物天蛙お米菜喝食大豆
竹心○禿雛○極女寺六波羅
○祇園大和山宮殿の樽廉歓識
美女と熟女竹燭肩ぬく
魚の恩力よきる時羅漢大変
修羅能頭釘刀代柄太鼓囃子
浪出書地獄蛤葉見分化鯛山
髪馬雛柳蘇蓋秘尼町めり
丹いの名り水をよく中風童梅
卯雁山雀蛙蛉沼苑宮中
菜食五法の酒作絵粉門捨離
風獣編仕事秋田古泉竹
播州○○子

よ

蓬艾葛菖蒲餅灸艾麻

葭簀下燒艾葦蘆吹葉垣

花火葭草火馬天王道

手中晝寝相討碁

弓挾天物簾子大豆

た

竹屋虫籠滝不動滝

花酒酒飲塔九蟻莚落菊

讀西河原舍利釈迦多寶文殊

○堂丈舟中間○草紐○臭豆

○双六車○鼓○道人火棚市

鬼笑酒書物袋水取臭

茨蘭菊牡丹の猫疊扇

屏風紙石數大黒

柱銀御敷帳臺燈籠鉄砲

梯石継木鶯哥天窗太刀

臭山伏祭の拍子太鼓時雷

念佛新發意食次障子張雨下

玉貝同年舟正月湯水

藍皿若刃磨鉄砲竹筒

香水の物楊枝大浦

吹短冊丹風屏風

玉章大鷹鳥風竹

菅薦陣場縫緞子

絲子笛弓矢鉄砲

杖年始の鐘頰の字

団扇湯立竹皮羽箒

絲瓜葉継木

蘋鰐鮒汁

糧 汁 筆 蘭 頭巾 高麗人 蛸

人の足 蛇 蒼蝿 菓子師 龍

再 葵 花 雨 都 目貫 天平 因幡

鶉 鶯 羽 筍 矢 鉢 和尚

太夫 松風 鈴 伊勢 大工 蝋

湯 岩 精進 鳥師 旅 麦粉

小葉 丁字 寄 豆 若葉

油の 大小 刀 狂言 手

續の 青 片 盗 斎 坂

れ

蓮花 仏壇 毛 躑躅 胭脂 子

経机の 茶箋 連尺 笈 葛籠

小鳥 連歌 陣 清水

天神 夢 梱 祈祷

ろ

袖 香炉 [illegible] 塩 浮物

飯 草 茶碗 [illegible]

つ

月 暦 [illegible] 月 [illegible]

熊 刀 瓢 子 [illegible] 物

[illegible] 令 付 書 [illegible] 傘 [illegible]

風呂 [illegible] 子 [illegible]

筆 刀 塵 瓶 [illegible] 茶碗 [illegible] 川

土 練 [illegible] 生薑 [illegible]

燕の巣 [illegible] 電 天狗 [illegible]

[illegible]の [illegible]

油 [illegible] 箱 [illegible] 河 [illegible]

[illegible] 馬 [illegible]

杖 [illegible] の [illegible]

護 [illegible] 鉄砲 [illegible]

童の肱 蚕 蛸 酒菜 炙 滝
天水 去 探 荷 拭 金 脚 代下 樋
番匠 鯱 沿 磯 木 虫 釣 鐘 草
花 天秤 批 折 鉤 霜 氷 孔雀 羽
山 鉤 蚊帳 鐘 釜 蛇 鯨 糊 髭
柿 千葉 瓶 蜻蛉 鶏 鏡
佛 生 菓 燕 御輿 焼 飛 鼻
硯 無彩 と 不知 恙 青 羅 宛 塔
妻 琴 軸 家 汁 凡 琴 爪
濁 文字 片 向 点

ね

猫 鯉 銚 雀 蝶 天蓋 袖の下
火燵 膳の足 尾 狐 人の膝 祖師
鼠 天井 舟 扇 栗 茸 鶉 鮑
流 無用 花火 月日 肉 鍋 草

綜物 蕨餅 膏薬 紫 下駄
稲 ぶさ 笛 箱 車 菖 草 寝起
稲荷の行業

な

菜 蕪菜 菜 大 南天 強飯
鳥 絲の 御 木 門 白 茄子 菜 人
歯 高 菓 鱠 汁 葦 汁 鱠
人の肌 刀の鞘 行 まま 長刀
青 薺 鉢巻 供人 代 あひ 老の
縄 羽 雛 連 帯 舞 の 鬼
鍋 蝶 鉢 庭 鶉 あくび 悩の折
涙 鶯 時鳥 恩の間 波 額 草 鼓
花 鳥 も 流 質物 子持 明
薑 扇 楂の 蠅 名 家 武 許
刀 判 胴 樸 軍場 関所 飢 時 名乃

○打あるゝ刀の名○冬乃鶯

ら

欄干 塔 御輿 緣 二階 羅漢

楸 涅槃 像 三門 老人 鳩の杖

軟 病 以下 秋 下さき 火燵 隠居

菜 雷人 縄 笠 唱 僧○合羽 浮

襤褸 蠟燭 廣間 数寄屋 佛

お葬礼 燭 蠟燭 乱 狂乱 拍子

筆 櫛 羅 柔 謡の曲 糕

む

室 麹 樹 餘 蟷螂 紀伊 鳥居

皇子 通生 猪 大豆 梅 擽 念 病

海狗 数珠 櫻花 鼓 皮 抔 曲 吞

梅干 元日 粥 餅 鮑 あ 大瀧 喉の

睦 舟 ふ 破 人 虫 因 果 串 擽 萃

米 蕎 麦 蜀 黍 馳 舟 綿 帽 子

めく 極○島 飯 蓋○袂 お 代 絵

竹 市 羽 茶 扇 屋 蚊 蠅 畫 時 分

ゆみ 毛 傘 組 帽 子 まの人き

蓮 苔 桜 編 笠 引 舟の 杭 蛇

豆 腐 桜 瓜 火 桶 三 途 川 竹

武 者 草 鞋 祭 扇 屏 風 昔

菜 俵 物 袖 胸 纏 たゝこ

唇 まの 霜 日 息 結 文 氷 日 昆 布

紋 夜 草

う

海 鶴 硯 霧 霰 波 鶯 留 守

袖 双 紙 綴 葉 桜 実 鶉

草 餅 家 鶯 さ 三 栗 稲 荊 田 鼠

○兎 筆 月 硯 の 氷 ○上 坂 牛

天井 大日 蝿 額ノ引物 蝋てこ
纏のそり 氣力の人 涼 灸
碁盤の目 泥鰌 後妻 雷
天井の嵐 板屋敷 鼓草 凧
詩 庵の急 妊女 舟 巡礼 泥亀 尾ゐろこ

か

井戸 石菖 鼻下 新桐 文弓
墓 葬家 浮地 升 嵩 茶碗 猪
武者 祖師 新田四郎 硫黄
鉄砲 花火 山中

の

野 鶯 雁 猫 鼬 大根 蚤 犬
猫 古毛 竹の皮 猪の口 縄 高
泥亀 薬湯 炭 山伏の髪 ぬき
糊 とろゝ汁 菊文 繍 天気 能

家物 舟車 曲録 菜 獅子 上人
牛馬 象 のの字 墨 摺 蝦 はげ
包丁 つぶ のびる 新 猿 月日 佐塔

に

御所 涙 鉢 花 桐 撲 門 大根
勝 雛 着 聟 青物 狼 墓 葬 糸瓜
花 撫 折紙 扇 鳥帽子 擲 笠 の
摘 鼓 貝 凍 花 砂 糖 霞 雨
鳥の羽 数 霜月 舞 蜂 蝶 墨
帯 行 家 石 雲 雀 孕 女 盃 蛙
鬼 腹 女心 蜻蛉 蝦 百合草
因 わし どら 男 雑の 相 陀 結
月 親子 扇 骨 上下 揚 柳 流
十六むさし 壱 くりこと 嵐
馬 猫 等 眠 荷 腹 臆病 蛇

力菓始二階軍役月花欲竈

く

○皇居 ○四方下髪御蓋櫓

擺几帳薬地 衣 釜鞘のりおり

位 縷絲の機 かい垂多中将装束

雲 紙鉄蓋陸欅 蹴鞠 袈裟花

薬 馬具社酒具 公事

幣 神木紙園会 鞍 馬の毛

塗物 鰒餅 葉 天蚕虫風やミ

杖枕 縁の手 胡桃 山雀 楢盆

白木 宮縣 椋木 伽羅

けし 羽蟻 葛 襷 汗疹

圓子 水呑 蕎油 腹やみ 菜

鉄炮 大皿菜碗 酒 湯元 少人

燻 消炭 拙い 蛇 雑 盆 瘡子

鍬 菴草 蘇土 塩 繰

○油 餅 摺 拷 双六 鏽 圓豆

紅 建 人形 鏡 餅 連 中人 高

背 牛馬 驚 鷲 都 良

轆 車 土圭 書道 墨 筆 者

糸 綿 文 頭 疫 消 塩

炭 柴 水 火 石 椎 百合 草 浣

烏羽 祇園 揚 焼 鯵 棒 馬

安居 田楽 幕 幣 風呂 あぐら

柳 釘 尾の軒 栲遊 刀の柄

熊ひげ 神木 蘇 鉄 薬 師

楷 陣 場 馬 丹波 粗 楽 能

花 傾城 解 草 鞋 老人

古き 筆 鮫 皮

や

山
祇園会鉾鬱金金撥天狗
襷腰矢倉火燵象蝿鉄炮
屋形舟市鶯の毛柳
青葉翅枝楊腰数力業節
掛蛇楊枝狸の尻の手の酒
菓子藤ろ色○鎧葛
梅鮑戸○嵐戸水矢車玉
年石割加茂岳猫の尾鶯
宿人○病哥○木幣牛馬痩
恋人擇食夏馬
ま
祭跳鬼斎甲子驛七夕
相撲蒸花菩薩風
牛房池皇居仏布相撲
馬刀蛤風灯

敷物屋形舟学文矢倉
年始の餝祇園会山玉の挑
竹櫓切りの○大豆稽馬名月
鳩穴分廊禅鉄炮風車手足
暮舟連東嵐戸名馬湯口
瑚色留の将場杭屏風脇
數春焙膝草紙縫てこ
姉○堂塔百性嵐吹継子
糊双六代石芦の種眉義石
竈蛤狂蛙柳姫のちろこ山
蘇日の芥子目種女児蝶
鳥鶏穂田螺風車芽子実
け
玄関袈裟礼者校戸
腰色芥子唐子小坊主粉

糸瓜 草 炭 護摩 ○歎 太 雲

○御[illegible] お[illegible] 釼 阿弥陀 不動

鈴の尾 南蛮人 旗 [illegible] 蝋燭

星 酢 莨 草 [illegible] ○削物 楊枝

麻 鰹 箸 菖蒲 甲 ○文字 [illegible]

○化粧 ○楠 部屋 文 姫瓜

数 圓 祭 踊 車 帰入 葬礼 舟

ふ

風呂 茶湯 津 [illegible] 伊勢

傾城 夜 葛籠 [illegible] 下 [illegible]

蒲萄 [illegible] 金魚 酒 海雑

[illegible] 張 [illegible] 張 舟

酒 氷 馬 [illegible] 月 [illegible] 花 軍 [illegible]

傾城 漬瓜 米 餅 肴 筆 柿

天花 茶 [illegible] 紅 粉 [illegible] 付 [illegible]

○月日 代 [illegible] 文 矢

[illegible] 馬の湯 [illegible] 花の枝 [illegible]

窓 [illegible] 大 札 [illegible]

山 門 口 里 [illegible] 入 [illegible] 戸 [illegible] 過

天 物 [illegible] 子 [illegible] 袋

茶入 数珠 [illegible] 鏡 銭 傘 [illegible]

浮世 [illegible] 食 太刀 綱 菜 花 風の [illegible]

太鼓 [illegible] 子 [illegible] 麻の角

卵 鳥 [illegible] 餅 [illegible] 中の [illegible]

戸 [illegible] 綿 [illegible] 被 [illegible] 禅

[illegible] 鼻

雉 麻 麦 [illegible] 国 [illegible] 牧

奉行 [illegible] 船 町 網 [illegible]

山 [illegible] 振分 [illegible] 馬

[illegible] 神 農 [illegible] 浦

金山都ゝ城下舟の津

こ

お 硯 六月一日 粽餅 魚糀
蚕手 御座 畳表 舟 金
佛壇乃 山吹乃花 菊 氷室 蕎麦
本草 天狗 猿 浪 海月 素麺
折 重箱 粉 枕 唐紙 畳表
縮 餅 蕨 葛 麦 雹 雛 寒 萑
庵 鳥 佛 神の 蓬萊 飾 城
嵐 小袖 雛 婦入 花見 正月
衣 春 氷 霰 雲 蝉 丸 葉
天人 雹 波 小猿 舟の 帆 文字
田 鯉 仙人 祇園会の 山 乳 瞳
鱠 髭 そてけぬ 滝 小鷹
紙 巾 小嵐 眉

駒 三尾 線 鳥 心 琴 盤
床 法 瑞 鶯 屏風 碁盤
団 備 菜 髪そぎ 力 枕 豆
馬の角 碁 仙人 涼 地乃星
鍬 興 祭 婦入 葬礼 花下
鳥居 十津川 湯入 腰 湯子 蓑
山寄 子 汁 湯 芋 蘘荷 竹
賭 利銭 星 胡鬼板 火燵

え

○烏帽子 武者 衣紋 貝
猿○ 糖 鬼 天 酒○ 縁 蓬
羅 鮑貝 磨 水 杵
団扇 宿 蛇 蝸 疵 衛

て

寺 手 子 芭蕉

樒榴 天秤 手鉢 釜の蓋 数張
蝶 鈴 綛の明礫 銚子口 鰹汁 箸
天狗 杉村 花むすび 矢の根 投松
錦草 李子 数珠ちる 年
桶 銚子 蕨 蛤 烏賊 桐撲 凧
蕩盤上 手毬とり 綿帽子 鼓
双六 手鞠つき 蠅 風ふかく
指 俺云 数珠ちらし 手鞠をつ打
人呼 ひろ人 三笑 碁 鼓 拍 おびろ
手習 鞦韆 一巻の 玄蕃門 戸
手水 後 仏神のお 禊起
雪隠 紙 墨云
あ
菊 蕗 時鳥 御菓 洞川 者
雨 乱 猿 蔣 狸山 焼 吹 簫 蛙

霰 酒 餅 釜 灰 漢 巻
菜 焼 蛤 牛馬の口 穴 鮮 瓶
蟲 蛇 蜜蜂 銭 金山 論 箱う 果
枕 末の 粉石 閑伽水 風呂 母
洗濯 羅 膠 殊 摩 角 餅
桑 卵花 山王神供 ○ 赤豆 餅
○ 鼓 鞍 弥 枕 芸 和布 汁
蛭 鳥帽子 地 赤飯 税 云の 杓
業 供 神お 瓶祭 袷 四月一日
蔵 桐撲 葉 うらか 衣 替
菖蒲 鶯 大宮 貝 ○ 蝶 鯰
○ 杓 鶺 巣箱 組 人乃 膠 ○ 螺 足
絶 貝 蕨 組 石菖 ○ 猫 飯
絅 鳥 鶴 鶉 石 簟 蟻 帘
だいの 梅 蟲 鷸 鵲 感 陽 こ 文

葛屋 団備 茶卿 かすり 花
網代 輿ハ屏風団扇天井名能
網代義古月芝強の之物年玉
襖 掌 空飾 違 紙 非飛 黒 赤
兄物の之居 行燈 路地 湯屋
露 屋 出見 番所 洞 尾 縁 さき
闌 履 碁 立 行 牛 前 丑 あ 之
貝 貝 之 奄 古帳 足 金輪 机
舟 打 及 相撲 曝着 西 気 欲 人
弟 合 撫 上 方の 額 ○ 汗
馬 刀 花 人 塗 物 偏 云 上 坂 打 撲
飛 騨 病 人 無 の 打 油 灸 鈴
鼠 蛤 貝 行 之 足 自 昇 蝗 草
疾 く 鑓 白 土 高 盛 の 之 退 双 六
剃刀 簪 部 内

さ・

猿 伎 猿 枚 木 数 珠 双 盃
鯛 貝 蛸 竹 杓 楓 風 呂
鏡 利 ○ 鬼 寸 白 鼻 茨 相
山椒 魚 尾 布 汁 料 理 虫 気
三 毬 杖 左 義 長 探 題 酒 盛
雉 人 唐 秘 帆 鞍 刀 の 鞘 馬 眺
縫 戸 奇 篠 枝 鎖 幟 落 葉
菊 貫 鍋 屋 の 軒 持 人
戦 場 酒 折 伏 人 棗 韮 生
干 鰹 料 理 冬 硯 皿 膝 天 窓
拝 さ せ る 花 無 幣 ち く ら
鎖 浅 箱 浅 纏 笑 数 樟
拝 舞 礁 小 袖 簾 持 鳥 来
鞠 沙 汀 笄 寒 侍 岐 嵯 八 幡

山添ざこい 鶯飼 鴨凍 湯婆
寒ハ 初之名〇夜禅 山居 寒寄
嘉ゟ 隠 刀鉄 凌霜 水水鏡
鮎 氷魚 鮭 庵

き

狐禅不 麦秋 納豆汁 毎朝
不動草〇 經 〇菱餅 蛇社
桐 琴 雛箱 御成の月 桔梗
四笠 灌鑰 菊 桃〇 志らこ

ゆ

絹 絵文字 竈 氏上 ゆり の花
蛇馬 鎧 旅人 日吉祭 習
湯 祢お 繪の志ん のぼり 鰛飩
病人 金海 雪 茶事 飛瀑

め

梅 味噌 豆 膾 鱠 諸木 磨 芥
梅安 三尾 綠食 山 漆 宿
ら 綿 袖 神子 桃上 桐 樸

国貴 動 餅 國 磨
甚 盤 國 網 稽 子 山
垣貝 國 ち 灌 打 稲

み

檢 撥 源 八斗 時 磨 時 河 菊
水 塚 子 菊 乳
多 海 牛 馬 正月 人 海
姿 居 中川 龍 海川 国
いさき ゆり ちよ 芳 常
蓮 宣 帽子 鋤 先 神子
大酒 出雲 穀 耳 昆布 和布

鉤針 瓊 蛇 蛤 盥 笙
鷺 屏風 釣人 食

し

潟 織物 流 塩
縁 鞠 馬刀 布
臙脂 ○雪 ○霜 風呂 塩竈
流 澁 楽 の
緒 團扇 紙 漆物 四手
芍薬 の 傍 日
傍 日 の 宿 灌
舎利 宮 楼 桐
團扇 笛 の 柄 菖蒲 葦
甲刀 湯 生薑
薬 孔子 酒 戸 の
金 八 祖師 鐃

舞 場 紙燭
夕 紙帳 人
漆師 障子 柘榴
櫨木 山 師子
因 楽 貴
文 数珠
鞠 白鷺
鐃 風 人 子
花 香 扇 墨
耳 上 鵰 蛤 貝 小 神
菊 桐 の 香
夏犬 香 山 喰
死 碁 石
質 人 人 匠
大工 縛 山

纖悪志むる　松の葉　穢多
數回流り　ひ腫物の薬　帯
夢　石見　松茸　遠ろ

ゑ

海老　鎮　餝　祖師　彫
遠鮮　恵比須　酒　紙打　蘇芳
心鋼　餌食人　大根　繪合　貝　柄扇
加減　楊枝　瑠璃　揚生　役者　美女
酔　舟　餌食人　同　鰓　泥　鮒

ひ

日暦　雛扇　天岩戸　日向
猫石　亀姫人　火　矢石　天秤　梯
墓飛脚　琵琶　扱　紙
通打　岩　琵琶　湖　紙　分
天人　紙笺　屏風　儲の　花

猪手　猪　山蔵　雛　草
楼　額銅　供飯　物中刀　鞘
樋　楼刀　賭　緑子　後合
猫　嬪　海老　餅　鰻　蕪
虫　雄人　象　夷　天　山
唐人　額　客甲人　女　る　眩
摘　白金　荷錦　線　畫　履
海馬　鳥　鼠　蝙蝠　蝋燭人
宰予　猫　引　網舟　鋸車　石
草　屏風　桃　蒲　津
手　補　心　団扇　一文字　菓

も

門　三主　獅子　山嵐　馬の　大番
乞食　桃　酒　綿　木綿
紀　業　土器　白　釈　木綿　鳥

神馬たとへ硯餅砂糖摺
下戸仏おほし貝雪讒言
○末綿舟の帆宗○紙羽
雙六○銭袋幕筝
扇子頭巾○文字鳥羽銭
○山このとくら火

せ

関咳気相撲水花○雪隠
藪薮筆路地流丁花蝿田楽
○せうほくろひ瀬馬牛扇
銭神仏棄蔵堤楊弓嵐戸
ひやうそく吉祥蝉帆柱
耳比紙洗濯川魚瘡あかり
灰汁落ぞん日和責人科人
馬糞仏茶数識恣

す

簾竈炭杉梅の梅師杢
向昇とうく砂金土圭亭花
鷺鈴竹水滋墓荻枝
箸楊枝酢の炭子鍋の鉧
菫潮薄筆硯子銅代縁
風呂の内露地の雪隠朶
菘楊枝箸楊子貝染物雀
神社田小ら人比塊鱠鮓
相撲取組紙巣鏡牛房大根
酢梅梅漬料理貝痩濡
風きる数珠山伏神子芸
鯉大鷹馬筒御護花舟
鉢家神子猫樓の家ら諏
さんだう内備所硯詩哥

府中は人丸竃宮鶏
醤油蛤貝小鰯干川魚腸
紙漉女山炭正月の飾鉢山
○石菖まく髪紙田胡炭
水晶すゝくら数珠雲
手拭木針薦抜身蛤貝碁石

毛吹草巻第四

從諸國出古今名物聞觸見及類載之但庭訓用分除之

山城　畿内

洛陽典薬頭屠蘇白散半井
龍脳丸延壽院延齢丹施薬院
牛黄清心圓盛方院鳳髄丹
竹田牛黄圓上智院蘇香圓
兼康丸康歯薬慶祐太乙膏
慶雲意徳萬應膏同茄子
膏薬大蛇亮産薬同大掾助　大膳大夫　右三家
道正解毒外郎透頂香入江殿
被綿同表剥優曇花院殿

干凢伊勢因幡守の作鞍鐙
後藤雕物同粉銅両座金銀
本阿彌利正阿弥金具埋忠
錺同劔刀糸竹具琴琵琶三弦線
横笛笙圖竹 十二律 鼓筒鳥甲
咸角篳篥 四穴等
冠石帯雛張子水引加拵消
色紙短冊表具表紙板摺本
繪草紙摺繪縫薄物帽子
縊物結鹿子白粉山炭團鏡
金銀銅真鍮飾細工御簾
桑黒柿等洗細工塗師細工
蒔繪道具筆削楊枝刻ミ
多葉粉切付細工鹿切草細工
土火鉢圍爐裏等紺染梅染

藍染紗綾染操染紅梅蘇枋染
味淋酎消酎南蠻酒等西陣
撰絲厚板物綾練嶋金襴唐
織紋紗戻絹縮緬嶋木綿羽織地
同絡地等色絲絹糸安居院
畳縁高麗縁雲繝ヘリ筆柿丹波ヨリ来ヲ式部ニテサハス云
非田院蘭金剛昔此寺ノ門前ニテ非人共作テ賣タルト云
當時ハ方々ニテ作之同寺内白味噌舟橋
吉岡染木下紫染柳原絹
本新在家亀屋嶋無車小路
猜金大峯辻子前鬼吉藺図
一條薬玉此外造花似絹染土御門
風爐小坂長者町下園爐裏縁
畳紙新在家羽二重紗綾板物

紺纐 斤色ホ 立賣ハ縊染物外ヨリ
春日通丸太町 曝木 雁鳥鈴
大炊御門通爐火箸政平
庖丁冷泉通南蠻菓子ニ三ラ カラ
晒布ニテ 作之 二條藥種 法ニ依ヨリ集リ
洗鮫 秤 キセル 釜 嚢 鐶 奈良派 此所ニテ結構ス 金銀ニ ト云
當時集住ス 金義 鐔 其 佐伯 柄巻
碁 雙六 盤 茶筏 衣 紗 織
物 高宮ノ外ニ 押小路 釘 口 砥粉
三條 加茂 衣 蚊帳 綟 綿 蠟
燭 釜座 錺 唐金 鑄物 粉川
鼻 草 六角 調緒 頭巾 木綿
綣 自在 位牌 鉾子 坊門 鑄物
目貫 四條 沼津 屏風 藤 蓮

中継 坊門 茶筌 条捐物 白
箸 道場 襪子 綾小路 木綿
足袋 觀音堂 辻子 精好 五條
半切 桃 扇地紙 腰張紙 看紙 子
澁紙 紙帳 坊門 御倫旨紙 薄
寫紙 六條 佛具 燈籠 細工
椽汁 用之 山川 酒 飯 鎖 煎
餅 醒井 分餅 坊門 賀留多 条捐物也
錫細工 御影堂 扇 引物 細工 伽香合等之
七條 編笠 團子 小麦ニテアミカサチリニスルナリ
八條 淺瓜 九條 眞桑 青瓜 芋
扣 菽 水菜 藍 太宮通 蒲萄
當所ニ多作之 丹後 織 絹紬 其ノ外多 堀川
紺形 多彫之 二条ニ出ス 水屋 具 井筒土之 戸 膏藥

細工油小路　綱代　塗團扇　笠
刀鑑　染物　糊粉　土風爐　池川
針小川　組緒　紐織帯等　箋巻
太刀　舞扇　饅頭　毬打　振金
羽子　胡鬼板　菖蒲甲　同刀
踊團扇　同太鼓　西洞院　杦細工
茶具東　塗師　蒔法　染織
綟　雪踏　新町　繪筆　面　乗物
淺黄　挽　折敷　塗長持　行器
中嶋　鏡和泉守ト云　排燈　鞠　同沓
堅紅粉　室町　塗葛籠　香合
掛香　焼物　目貫兼物上　金剛
具白玉等　下緒ト云　巣　貝桶　雛同也　倚懸　鑑
絹ニテ作之
枕絹ナリ　筒衛護　烏帽子

松本　洲濱　摺　烏丸内裏　綵鼓
灸　鹿革　金貝　留多　歌貝留多
櫻馬場　張枕　文匣　挑箱　藥鑵
細工新物仕立　植毛　虎皮　蒔繪
手道具兼絹物ナリ　道恵　盃　數寄
屋家具　鬼室　大工頭　襟　篠懸
太經師　經同　曆　大佛師　東洞
院三本木ムク　練　茶柄杦　大津柄杦下
玄畜時　黒柿　狂鍋　鋼ニ用ユ　酒ノ渡カン
家ニ住ス　蒔繪下地　印籠　板唐紙　堺町
明珍　鎖　一万里小路　錺金物ナリ兼絹　雨紙
羽毱　氷蒟蒻　土圭　細工　冨小
路　扇骨　要　御幸町　土圭細工
軸韓目金　數珠ホ　練　珊瑚珠　具足　椀木地

烏丸箸 網代笠籠 寶寺町石塔
細工御霊前人形細工並臺鼎
寺前糸歎トシ織 數珠繪
佛像木像紙表具櫛硯細工
角象牙細工口薬入唐草
細工決拾細工鎖子打替寸
伏長雪踏大皮踏皮屏風 兼相物之
琵琶絲金銀箔鐙長刀柄弓
箙細工角倉町平螺鮑摺貝
摺碁石淺黄盆
猶洛中名物雖多之不遑記
八幡蘇民將來小弓旗竹
葛菖蒲草牛蒡山崎油酒
善峯目薬西悪竹松尾白

粉合土梅津秣香桂糖嵯峨盤
平野落髪細工西京青敷麹
諸国麹ノ司ト云 北野作木 花木ノ枝ヲタメ盃舟沐盃ニ入テ爲之
車螺青貝唐繪盆折敷
口人薬刀宮司梅干茶屋土栗
餅真盛衣太豆 比丘尼ノ業ナリ 淨福寺
納豆大徳寺蒸素麪龍安
寺山松茸内野蕪菁蓮臺
野太根嵯峨蒲萄木練柿
庭右大井川鮎臭モトキ水尾柚
槿洛中仏おし 花ニ用之 龜山蓍木愛宕
粽 禁裏ニ用之 高雄砥 泉ノ山ノホトリ高雄ナル砥
キスヲノカタチヲトキストリナク 鳴瀧飛石栂尾茶
砂 味期ニ同 石 用之 茶根本畑枝土器鞍馬

草薢山椒皮燧石大原菩提
子杉丸太二原篠葉洛中粽ニ用之
八瀬黒木谷川カジカ車坂鮎
賀茂川鮠臭ヲイカハ打蒔圭月
石杜家虫籠細工多クノ作物之テ大内ヘ上之
御手洗團子田中鰌餅吉田
太根黒谷茶又合土漢ノ土ニ似ト云鐘
鑄形土諸寺ニ用之白川眞鍮瑠土
諸國ニ行切石成道寺浮石壷便粟
田口きせる土物天邊大鼓六サイ念佛
鼡戸ホニ用之モロシロシウシノ子皮ト云刀ノ鞘スリ下地ニ用ル
祇園風車菖蒲笛茶屋豆
腐茸餅丸山醤西梅漬八坂弦
履出家用之遊行澀土壁ニ用之清水坂

灸餅作紙子清閑寺木石
花山多葉粉山科金屑丸
渋柿茜染源氏繪貝荷馬
腹當醍醐蒸竹楊梅甘干柿
大佛餅筋蕨尾櫻櫛笠幕明珍
轡象眼鐙於洛中ニ多之鷹鷂鈴着
竹籠擂火打法性寺篠擇笠
皀莢尺八東福寺朗地黄煎
火縄額板稲荷染團子山
黄土繪具ニ用之又土り土器火桶
唐菘深草の糸瓜蘭笠幕
茶屋鶉餅竹田の落鳥羽瓜
伏見雜喉竹簾表莒菖蒲
五月ニ洛中用之芦真菰同日洛中粽ニ用之淀ノ

川サゴシ名吉　宇治川小鮎臭
鮴臭鱸臭鯉臭鱣臭鮓是ヲ宇治丸ト云　茶同
磨　風爐灰　圓柿　瓶原砥　粕ー
越瓜　茄子日野ヨリ早ナシ　薯蕷　スカゴ
牛房　蜜柑　柑子　金柑　柚柑
代々　久年母　當歸　地黄　山藥
干姜　生姜　紫蘇　薄荷
荊芥　青皮　陳皮　牡丹皮
山城米

大和

奈良細美　曝　平布　縮　嶋布
畦布　衣地　蚊帳地　臭足　鐙作
緑青　暦　扣　薄根本　油煙墨
色墨　中継奈良塗師根廾ト云　土風爐

塗桶　瓦燈　灰ホウロク　早ー鍋付
硫黄　膠　鞦　馬皮　滑金剛　梢縄
蓍帯　澁團扇　法論味噌　イロリ
漬香物　溜糖　餳頭　飯鮹　僧
坊酒　東大寺　蘭奢待　奥福
寺　銀杏　春日山　櫟　祢宜屋敷
木練柿　西大寺　豊心丹　法華
寺作土小大　比丘尼ノ　ワサナリ　薬師寺の
造花　每年中旬垂二月上旬法事ノ時用之　法隆寺
沈水香　吉野　漆　葛粉　榧
御所柿　松茸　前胡　枸杞子
松脂　岩茸　松角　目通ト云書院ホ二用　椙
丸太同上　煎茶　塗鉢　山折敷
小紙鼻紙ニ用之　塵　雜紙　國栖臭

鮎白干 釣瓶鮓 狂歌ニ入鮓ニテノミジ鮓スルユヘニ云
龍田紙 羽三輪 索麪 名ハフトキヲ
箸中糖粽 糯トモ云 郡山 繰綿
高山茶筅 山邊米 空荳

河内

青皮 蚫床子 雞頭實 河骨
菱 白黒鳥芋 蓮根 同葉 大
薮 干瓢 小角豆 垣ニ生ナカラサヽケト云
サヤトモニ煮テ用ニサヤ生ノコトクナリ 石川郡
楊梅 錦郡柿 往生院 柘榴
道明寺 木欒子 數珠ニ用之 引飯
此尼ノ葉ナリ 山田 茜 紫染 毛利白
漬香物 天満宮ノモノ大根ヲ以漬之 石臼米
天野酒 平野糖 產藥 冬室

寺木綿 誉田纏 鷹鈴
玉串 楊枝 芥 谷野 老 攝山
白山灰 金剛山 金剛砂

和泉

南庄 堺織 紗綾 撰糸 髪モニ町
雛 絛相 茶柄杓 風爐 土器
出歯庖丁 酒 醬油 溜 月香
付 硫黄 目藥 貝 前貝 多交
但之 銚中 鯛ノ 漆 屋 塩 同土物
ナリ余國ニアル 塩屋塩 腰張紙 芥子 防風
曲物 舶木 海會寺 鬼前餅 コキ
櫛 中濱 塗木履 常喫 槐
數寄屋 天井 蒻 馬尾 竹節
土田燒物 ホウロクト 塵取灰 光滝 白山灰

上村笠　玄鳥取通　茶磨　縁捐物ナリ
貝塚麦粉　大鳥草履　鍛冶
炭　天川鳥子　粉シフキ　タル民ノ之　岡田手剣
石濵　神馬藻　瓦　ヤスチ飴

攝津

天満宮前大根　新艘立苫
嚢碁　碁盤　川崎嶋フケ　嶋
木綿　福島細木綿　雀鮨　江鮒
ナリ鹽宜ツ入タルガ　野里川嶋村
雀ノゴトククフクルシ以云　昔清村ト云入此所ニ三テ合戦ニ果ケ九
蟹　甚幽冥トユカニノ甲テ又良スハシリ
京橋網嶋網　今橋戸障子　高
麗橋團子　古手　流ニツキハキ　繪
馬　縁捐物ナリ之　道修谷　延命　散　文影染云　錠　茶色
玄根ハ甘く出有ナリ　田蓑　薄縁　縁捐物　法云二行　平野

町傘　及川石　實備後町　擢
碁石　安土町　厨子　紫草
錦草　毛皮細工　唐物町　切
草細工　久寶寺町　紙子　澁
紙　縁捐物ナリ　擯堀川　引板　樽板　法云三きス
阿波堀川　石灰　灰ナリ　ニ、貝ノ　安堂
寺町　髪モミ　津村木綿　織
帯　同織　足袋　指足袋ゴトクヲル　雪踏
張人形　此三品足ヲオキアガリコホシトモ云ナリ　張箱　縁捐物之
難波橋筋　文臺　重箱　縁捐物ナリ
阿波座　指物　計ニテ諸國へ商之　櫃箱ホシ切合　錐揉
太溝筋　木綿組緒　蒲團　張萬
大坂高濱　瓦　生玉　溢土　土作　竹籠ホニ用之
田蓑針　天王寺　鋸　綿　躰ハゼ

蕪住吉御祓團子松露水
仙花箱ニ入テ 合テ面ニ三多桐ノ 馬力酢蜂
大津凡難波干瓢今宮千生
瓢箪古妻木綿遠里小野
油築嶋櫛キセル將棊馬堺
桃庄大道筋朱座丹唐土鉄
剖阿仙藥粒半夏田盛庖丁
柳町針口櫻町鉄炮下地秤金
竿小櫻町多葉古包丁土井
原鋸針金中濱懸硯机十露
盤天秤且過小路圓爐裏木
綿繊緒箱根ホノ紐ニ用之ドシ織帯山
口筋大工墨斗糸川口蜆鮒
尼崎餅貝蛤瓜白鮮西宮

水鯨水鱧小鯛鳥帽子糖金平大長云
御影飛石兵庫簾干小鰯世三是ヲ
ユテメ又コトノバフトモ云 同鰻漬牛ノ舌赤貝
須磨濁酒 サホロや波コ、モトシ打ゐニテスミデノムコソ濁酒ナレ至ニ
ミテラハニタル哥ナリ 多田紺青緑青
茘枝蘆生末香薫陸防巳木
通菊花葛根銀銅勝尾寺の
氷餅能勢箱 外ヨリ勝レリワラニテアミタルヲイヘリ
一倉山炭 リ出ル池田ノ市ニ出テ賣ナリ是ヲ池田炭共云ナリ
池田呉服綾御衣名塩鳥子
有馬引物 湯ノ山引也云宜シ 楊枝竹柄
扱竹水嚢人形筆眉作庵
丁菜刀鼓瀧ノ盃山蒔砂藥
師山琢砂伊丹酒富田酒漬物

三嶋江尖大根 勝テ大ニ雑煮ニ用之

伊賀　東海道

焼物　紅花　多葉古　松茸　目薬

家里　右ニケ所　真嶋

伊勢

神仙丸 久志本トモ云　綿　紬　木綿　海老

馬刀蛸 帆立貝 杓子貝ト云　蠣　鮑

フクタメ貝　熨斗　鯨　鮑　桑名

蛤　馬瀬　青苔　二見　防風　海松

海蘿　國崎　若和布　同和布耳

荒和布　鹿尾藻　耳苔　生ー

浦梨　川俣　谷串柿　椎茸

煎茶　橡　黒柿　板　丹生　山

水銀 異國ノ外当所ニ有　暦　松坂　鐙　編笠

山田櫛　物指　田宮拓　キセルトモ云

笙　笛　御田扇 胥外宮ハ六本内宮ハ七本外ヨリ配之此風ヲアヲゲハ病ナシト五月下旬内外ノ祭ニ用之　二旅日宮菅笠

宇治　白米　合道　錫　餝　草履　白ー

子　絣形 当所ヨリ多　白粉　素麪

阿野津　灰 肩衣ニ用之　鋳物　鍋　馬鈴

櫟　笥　寄居虫　關地蔵　竹　大縄

神部　蕗　庄野　俵米 猿人去産ニ用之

志摩

真珠　貝　井貝　鶏冠苔　和布

鳥羽　鰡　塩漬　臼　答志　涌砂

盆山ニ用之海底ヨリ五色ニ涌砂ノリト云

尾張

綿　藍　玉　蒲　黄大根　同干大根

那古屋藻魚南方鉄清須
政常小刀

三河

ギゝ雲母モロヲロシ蜊奇居虫
苅屋白魚岩堀菱 菱角二ツ有味勝
名倉砥田原矢根伊羅期
碁石貝雅海藻

遠江

干姜茜紫根濱松蜜柑鮒
掛川葛布同鵲和布西坂
葛餅濱名納豆菊川酒
糟矢根芸荒井鱸

駿河

安倍川紙子久野蜜柑三穗
松露富士苔 山中谷川ニ有之 黄芪
香爐灰大井川黄瀬戸染飯
宇都山十團子善徳寺酢漿
津鯛同白砂干神原鮎鮫

甲斐

甲州判郡内紬紙漆蠟小梅
姫胡桃柳下木綿菱紬生
澤川鮎題目石

伊豆

縮砂良姜椎茸打鮑柄川酒
三嶋暦修禪寺紙八丈嶋紬

相模

鎌倉紫胡紅花鼠大根 鼠毛ニ似ト云
海老 伊勢海老ノコトニ 江嶋江豚小田

原海雀ノ魚ナリ 透頂香 甲鉢
十間坂 星下梅 日蓮宗数珠ニ用ユ三星二ツ有ト云
大礒 盆山 敷石 五色ノ石 祢布
川飛石 秦野 野大根

武蔵

江戸 葵瓜 葵ノ紋有ト云 根深 蕎
切芝 雑喉 川口 蜆蛤 金澤
貝香 長辛螺 螺ヘナタリ共云欤 海松 喰
礒物 常伏 蛎 鯆鱇 筋 鰹
鯛 白魚 此外魚孔多余ハ略之 金川 海鼠
津久表 野老 久我 素麪 瀧山
横山紬 嶋 浅草嶋 岩築綿
木綿嶋

安房

木綿 小湊苔 生家ノ紐苔 浪子
ニヒミ貝亦ト云 目黒 鰹 分テ多キ也右國 魚田ノ養ニ用之

上総

長南 紅花 ヲタギ 鮑貝勝 魚タリ 鯛 東金
蛤 蟹 蛉 共ニ

下総

三度栗 西木一年ニ三度ナルト云 三度 葛西苔 是ヲ浅草苔ト云
結城紬 中山紬 嶋

常陸

當帰 此魚 和田 鯉 此外月下旬ヨリ出江戸ニ多ク出ス
水戸ノ浮亀 也魚 築波山 茗荷 木

近江 東山道

地黄 蜆 曽 蝗蜣 莉 安辛 灰 石灰
滑鯛 太豆 納 小豆 世俗是ヲ大納言ト云

蔎竹泊〈玄笈籠ニ用之〉細美夜地見元
丹湖水鮭與鱒鯰與鯖鱵ワタカ
鯉似鯉鮒山田丸鮒源五郎鮒與
鯆〈大ナル鮒ヲ丸ト云源五郎ト云〉鮓耳方
〈ヘモスル抔ニ是ヲ源五郎トヱ名ツク〉
同鯖網青花紙コノ濱海老
堅田小糸鯛與網前餅和尓崎
鮒與母木濤紅葉鮒同胃月
鱫鮓越川モロコ本苫石〈切石ニ用之〉
朽木塗物〈盆鉢五器未〉山炭砥石葛
川柳厚板〈俎板物茲ニ用之〉碓樟柱
綾巻攅植海津油木〈南京ニ多作之〉
天隈膏藥飯浦蕫志
賀久山中大根袖解餅坂本練
柳園子膳所米勢多田燒餅

錢鑄形土此木敷松葉〈説曰一兩之甲府〉
ノ葉色照蜆貝鱣田上氷魚水
ヨヒト云
鼎甲賀貝鉄炮〈國友張〉滋賀貝承
燒物歯朶木服月日野鍋能
鞍鉄炮五器草津鞭守山
墩水無口矢根キセル葛籠笠
箕篩菅宮菅笠奥嶋
表八幡圓座燈心多賀杓子
高嶋硯辻村鍋釜武佐鉾
墨栗本スクモ〈栗ノ殻ナリ去年下二埋レテ木ノ如クカタマリ當国ニ六蒻二月之〉伊吹蓬艾
〈又香煙ノ匠ニ宜ト云〉
當帰山葵獨活白菜小
山鳥子板並綿長濱糸
高宮布野洲濕觀音寺

納豆汁ニ用也 追分針

美濃

糸綿 絹 厚紙 中折紙 典具帖ト云 温石 藍 玉山 梔子 赤豆 世俗ニ當國ノ赤豆ヲモ大納言ト云 眞桑瓜 根本ト云 宮代 根深 八屋 釣柿 木練 撫山 椽 板 外ヨリ宜ト云 瀬戸焼物 分テ葉茶壷ヲヤク番四郎ト云 伊槃天目上云モ當國ヨリ出スト云 開 剃刀 小刀 爪切 赤坂焼土 雄嶋布 山岐阜鮎 同鵜 墨俣 鯉 北山鶉

飛彈

綿 鹽硝 銀 銅 柾物 根木ト云 土井 楊枝木 檻 枯木 鶫 擣栗

信濃

小人參 芍藥 杏仁 小梅 串柹 干蕨 蕎麥切 當國ヨリ始ルト云 白苧 小椙原 曾原木賊 木曾麻衣 柾 檻 土井 檜皮 諏訪湖鱣 鮒 察良井の柾物

上野

日野絹 新田山絹 佐野 白苧 布 漆 戸澤砥 盆山石 利根川鯉

下野

宇都宮笠 出家衆之 鷹 鷹鈴 餌囊 扇 團扇 鎌相物也 那須 太方紙 漆 絹 日光苔 川ニ有之 銅

陸奥

仙臺紬紙布 奉書ヲヨリテ
沙金奉書雜紙 ワリタルモノナリ 土器櫻木
灰 香炉ニ用之 糒大燕雁烏石椛
鰊金鼠 金花山ト云有海嶌也 ニ用之ワタ金色ナリ
子籠塩引 鮭ト云 衣川ニアル 大餅熊
一丈皮尾駮駒馬尾 諸國ヘ商之 縮
布伊北布信夫摺岩城
宇尓 カサトモ云 醬會津漆蠟燭
薄桄同盆南部の水精 外ヨリ宜ト云
琥珀薫陸津輕土朱シガチ
硯石 三月ニ乃大塩ニ是ヲ上ル

出羽

最上紅花青苧 奈良布ニ用之
蠟漆温石油紙 諸國ニ 和田
紫尓根干蕨臭槙霰散煎餅
分久鯖 鰺ニ似タル魚也 康皮針錢錫鉛
銀田部煎海鼠串鮑昆布
庄内米外濱鶻

若狹 北陸道

白朮芍藥蕺荊芥子蓮肉
香附子厚朴石斛辛夷灰石
灰絞姥杈杉木楊枝朱熊川の棒
木鋤鍬鍬柄等小濱酒筆
諸國へ 指履洲崎目指尾崎の
多商 鮭小松原ツク字鼻折小鯛
鰈蝶蒸鰒耳塩貝高濱尺不
八烏賊味方堀アニサギ 魚ナリ フナニ似
青井の堅苔若和布スカ濱黒

碁石 各田庄 厚紙 煮麥 コキ 莩

越前

黄連 鉛 奉書 鳥子 雲紙
薄様 厚紙 連古人 牛頭布
剖織布 嶋布 莩 眉頭巾
蒲脚巾 蔓絹 紡綿 小庄
切石 常慶寺 砥 中曽祢 罇
金津 鎖 戸石 細代 龍 履 塗
笠 敦賀 小荷駄 疋田 鯖 三六
迹 鱈 鮭 鱒 鯱 蒸鮓 老海鼠
太蛸 丸岡 素麪 大野 酒 タニノ
油木 当國ニ多ク之

加賀

楫原 鼓 皮 鐙 手綛 鳥 指竿
黒梅 染 菊酒 煎餅 黄連
白山 硫黄 小松 糸 撰絲 淺野 川 鮴

能登

鯖 同 背腸 烏賊 黒漬 クニギ
内海 鱰 經紙 苔 和嶋 素麪

越中

塩硝 黄連 龜谷 鉛 白川 糸
八講布 栗柄 玉砂 松浦 鮓 世俗ニ鮑ノ鮓ト云形ツノ字ニ似タル鼻ト云 鰤 九方疋リ云

越後

鉛 漆 蠟燭 白兎 白鷺 松山 白布
綱 苧 米山 當歸 弥彦
黄連 白朮 油 地ヨリ涌也 糸魚川
糸魚 直江川 八目鰻

佐渡

金銀 細辛 黄連 弦藻 小鍚
御松 日蓮袈裟カケノ松ト云 數珠ニ用之

松前

鷹 梟羽 塩鶴 干鮭 鯡 鰊
數子 灸鯨 昆布 獵虎 水豹 熊皮 鹿皮 胡獱 子マツラ
アモミツヘイ 膃肭臍 干獨活
干豆腐 沙金 磁石

丹波 山陰道

前胡 桔梗 茯苓 柴胡 款冬
似人參 荊安 椿炭 辛炭ミサ
サキノ炭 蠟 松茸 又藤 獨活
大納言小豆 杉 欅 木瓜 實梨
鮎 山椒魚 鹿皮 畳表 亀山の
花落米 山國 榾丸太 是ヲ嵯峨ニおくるサカ丸太ト云
杉皮 筆柿 弓削山弓 絃綵
正月用之 和智糸 綿 前茶 胡桃
火打栗 野ノ村 多葉粉 箸木
鞘木 崔部 矢根 鑓 刀ノミガキ
カヂノ名ロクト云 關太布 前壷 蚊帳ノ麻箔物也
竹孔雀竹 佐伯砥 柏原墨 ニキリ墨ト云
葉茶 壺山椒 同皮

丹後

蒲黄 胡麻 葛龍 撰糸紬
單物ニ用之 切門 文珠貝ト云 海松喰トモ
伊祢浦 鯛 鰤 老海鼠 目指
沖嶋 隼 絲纜 海松 内竪苔

河守矢根

但馬

小人參　芍藥　黄連　白米粒
半夏　茜　干蕨　同縄　篙帚糸
綿　萆　柳行李　龍鬚　温石　鷹
銀　車牛　朝倉山椒　出石絹

因幡

蝋　鞘木　木地　山木地　海素麪
藻
也　鮎　白干　家奥　杉原　引田
鼻紙　細川　梅

伯耆

鉄　能膽　大山黒皮茸

出雲

鉄　緋染　杵築酒　友嶋　鰤　鰒　白
潟鱚　松江の鱸　鯉　鰒　夕干貝　十六嶋
苔　隼　加々浦の加々布

石見

白蚕　防風　檻柱　銀子　カサノ錫
鉛　濱田　折敷　高津　白黒碁石

隠岐

和布　串鮑　鰒　錫　海馬　灯松　桐板
嶋桐ト云テ木ノ桑板
目宜ニ

播磨

野里鍋　小塩　鏡　完粟鉄　刄金
鋤　鍫　炭　栗柱　箸木　煎茶
清水　折敷　杉條　筵　書寫　紺
餝磨　褐色染　東条　鞍　室　滑
同　枕　馬皮　老海鼠　蛎　高砂の飯蛸

明石赤自張阿石塩龍野米

美作

塩硝誕生寺誕生木 杉珠ニ羽法然上人誕生ニ云之

備前

海月海糠魚ツコミヘ乾鰒藤戸苔

川口鰻鯉牛窓鳥賊堅浦白

藻小嶋酒伊部焼物 酒瓶藍壷徳利汁

備中

檀紙椙原小菊紙漆柳籠篠

蒸栗帝釈天盆山敷砂

備後

畳表同表振出矢筈竹鞆尻

切編笠尾道酒田嶋鯛 二月大網ニ手奥多くされナリ

安藝

廣嶋紙子木地葛竹龍塩硝

水晶豆腐蛲雷師 子トモ云メルノ 蒲苅

野路浮鯛漁新城山葵西條柹

周防

山代半紙椙原鳥子漆蒟蒻

玉康皮鮎山口結簾子紫小染

小荷駄馬 諸大名ニ繋替ノ為ニ求之 湯田三月笄

長門

銀銅長登緑青萩焼物

錢 諸國ノ系宮ノ者用之 蜜柑長府素麪

下関鰒蛸搨ケ首参莧紫石硯同

水入木筋濱里黒碁石舟木石

炭 薪灯ニ用之 干漆ニ似テ臭気ノ 櫛 大同薩摩ニテ入ル時天下一ノ号

向津奥苔 向津ノ奥ノ江サヽ波ニ苔カクアニ夕袖ヤヌレケン天

丸ノ詠哥 隼人明神 和布苅
埴生烏賊 火打鮑 三嶋貝 大鮑ナリ
音見川 樓鯨

紀伊 南海道

青皮 障皮 枳殻 楊梅 蜜柑
若山 丹婆酒 延命酒 宮崎 麦
粉紀 伊川 鯉 藤代 馬力 烏帽
子貝 タイラキトモ云 玉津嶋 蛎 松江浦ノ
蛤 蝌 サラ貝 雑賀 塩鯛 乾鯛
筋鰹 大鯨 ヒレ多キ魚ヲ云 若浦 海雲
鹿尾菜 鳥足 鳥ノ足ニ似タル藻ヲ云 嵐藻 堅
苔 三穂 荒和布 雑賀 太浦 雑賀
和布 篷 舟ニ用之 黒江 浜 椀 熊野ノ
白蜜 樫 槙 楠 板 舟木ニ用之 棰木 碁盤
用之 ユスノ木 御用 樵木 葛 竹 龍藤
矢箟 竹 椿 簀貝 天狗 矢根 燧
海鹹 酢 貝子 安貝 鯨 鯨油 鯨骨
粉凝草 トコロテンニ用之 布苔 泥川 鍋
玉置 檜杖 檜笠 山伏用之 根来 椀 折
敷 昔寺繁昌之時拵タル道具ト云 当時方々ニテ専買之 粉川
楸 小荷駄ニ用之 鮎白干 那智 碁石
金付石 御子濱 砥 太崎 底石
浮石 神弓 田嶋 鉛 鴨谷 泰平
墨 待乳 膏薬 太野 穂蒴参
穂四季共ニ有ト云 日高 松茸 千蕨 高野
岩茸 千蕨 蒜 外ニ替大師ウヘ玉フト云 菩提
子 松煙 油煙 目薬 大師夢想ノ薬ト云
傘 紙 着笠

淡路

若竹　前太餅　錫　武嶋　女郎魚也
辛螺　栄螺　螺トベタ

阿波

栈木多シ　數　廉尾　藻潔　鳴門和布
忠竹　奇　燧石　撫養蚌　石花菜

讃岐

石蛤　濱ニ一夜ニ有大師封給ヘル二蛤ノ石ニ成タルト云傳ル
蜃貝　蛤ノナリニテ紋アリ　魚嶋鯛　鰆　鱆
小豆嶋　煎海鼠　引田海鼠
腸　八嶋平家蟹　志渡浦濱
松粉　砂ニ生草也　理ニ用之

伊豫

半夏　胡麻豆腐　薮　一本瀬
米　松山素麺　嶋後酒　帯ノ大
津紫　紫草　宇和嶋鰯　鰯　鰹赤イハシ
綾布　盆山石　同敷石　五色ヒニアリ
塗板　奉書　楢原　嶋曲鮑　台
鰺　來嶋　白藻　白岑　鵜

土佐

駒　猿節　鰹鰒　シクチ　同鹽引
同カラスミ　鯖ヨリ宜ト云　猿貝　海苔　鯔
太米　白米ナリ　餅　ハツタイ　太布　絶
紙　木川　青苔　西寺　御崎
硯石　三月ニ鹽干海底ヨリ取也時刻ニ西寺ノ僧經ヲ讀誦スル之
志良岐山　檜柱　檜皮　多シ
明松　帆柱　スクリ　舟ノ綱ニ用
野根山　薄板　葛籠　藤

筑前
野鴈 玉嶋川鮎 金崎鮑 鮹 鰕
名濱塩 博多練酒 松露 帯
絹セウナ紋アリ 嶋織物 折敷 芦屋釜
筑後
紅花 菘 芳米 洪武錢 塩鴨
海茸 三条鯉 三池 賀留多
豊前
芳米 小倉酒 木綿 嶋同
帯 切熨斗 内裏馬 カ外ヨリ勝タリ
文司関 硯石也 水精
アカノ焼物 湯嶽 硫黄
豊後
塩硝 水精 錫 鉛 碁石 黒濱 白ノ濱

トテノ白黒ノ石アリト云 長會 用之 旅人藤ク二 黒
紺布 絞 木綿 海蘿 赤豆
麦豆腐 蕨 青皮 陣皮 麻
地酒 朝生酒トモ書之 カフリトモ云 鷹犬 当國ニ多有之
テ諸國へ 川童 榎葉魚 川魚アメ似
鯇 川魚鯰ニ似 イダ 川魚鮠ニ似 佐賀貝
鯰 当國ニ多
関 切熨斗 久多見 燧 宗知
山芥子 佐伯梅 中津 太竹
姥嶽 高キセル竹 虎肴有之 筆笠 上品
肥前
白大木土器 秀吉公薩摩人ニ令ス 天下ニ三免ス
佐賀 日置 表 東刀 良刀ヲ奈良ニノボス
有馬 鉄炮 唐津 今利ノ
焼物 長崎 木綿 人ろ紙 畝 指路皮

長會紙 紙帳 帋被 唐蒔繪
土圭細工 繪莚 繪簾 竹冑
鍮十露盤 丸子 灯臺 白
多葉粉 蜜漬 生姜 佛手
柑 ニルメロ 蜜柑 久我利 木蒲萄
蓮芋 水仙 ボブラ 鳳蓮
草 アヘモノニ用之 五嶋 鰯 宇介 鉅
文鰩魚 竹節 鰹 鯨 油 若和
布 松若 海蘿 楊梅皮 車輪
松牛 引物 推木 二神 隼
平戸 串鮑 赤鼻魚 鰤ニ似
野茂 小鯛 寺井 海茸 海
月 海鰊 不似テ鶴 紅梅ト云 シクチ 鰤 乾
魚 鯵ニ似 メクハシ や貝 也 アケニキ

肥後

隈本 キセル 皮 竹籠 焼物 野鴈
五嶋 自用 潮煮 貝 八代 蜜柑 アイギヤウ
鮎ノ子 籠ヲ 篠ノ葉ヲ包テ
塩引 シタンニ云 同 切鰯 用之
栗府 板 天ヨリフリタル 御免 草
錦 草ノ如ニ 武具又 板木ト云 相良 焼物 漆
鞠ノ水 皆ホニ用之
布 高瀬 綾 木綿 南京ヨリ作之 長洲
腰 赤鯛 やキ鯛ニシテ 京江戸ニ送ス エス 射 菊
地 苔 川ニ 百足苔 海ニ 天草
砥 海ニ有之 櫓 櫂 鑓柄 胡麻 志岐
白碁石 火川 火打石 砥 持
茶 久保田 野 大根

日向

赤大米 三ケ所ニ作 大隅 薩摩ナ 五倍子 黄蘗

苦竹 松角 松板 五噐 藤竹籠
履枕 トウニテスル枕也

大隅

多祢嶋 筍 ヤクノ嶋 博板

薩摩

鬚人参 莪朮 欝金 生姜
脳 硫黄 桂心 紫根
白蘭 紅花 蘇鉄 檳榔毛
黄楊木 櫛ニ用之 楠木 椎茸 大
名竹子 四季ニ有ト云 苦竹 赤芋 水瓜
鳳連草 洪武銭 焼物 莚
太布 芭蕉布 影會 多ク他物ニスルナリ
蕗もり二 櫛 黒檀 細工 筆ノ管 合香 梓出
用之 剝テ出之 枚子貝 螺 浮石 麝

毛吹草題目録

之	夏部	
更衣	余花	新樹
若楓	卯花	牡丹
芍薬	杜若	葵
芥子	風車	常夏
付撫子 石竹	百合草	美人草
夏草	樗	梔子
蓮花	橘	簾子
時鳥	蛍	蚊
蟬	水鶏	鵜飼
鮎	菖蒲	氷室

若竹	梅雨	夏月	晝貌	海雲	納涼	雑夏
早苗	青梅	祭	夕貌	白雨	御禊	
五月雨	短夜	瓜 付小角豆	蓮	扇	泉	

中 下 中 上 い○ 上 中 下 上 い 上

毛吹草巻第五

春

元日

此春も何もひむ路より代々の数句　京　春可

○鶯も是も音きこえ初のみふれ哉　京　昌意

今日咲世はじめの草そ福寿草　草塚　芳文友

雪やけふ松もとりてむつき花の春　同　一正

ふりくる年の緒ゆるくむすび哉

打そむる碁の一目やとしの春　越後　徳元

四十二の年をしなかりしぞれけり

守り給へ己とし八幡十二神　同　玄札

雪はけさ白妙や白洲神の春　せ山　光有

立まいりさやし花雪にかふ哉　同　正利

老の年此春よりもまさりけり　古　能者不知

四十此年にならて

年からも人つらうき老の春　同

一 一 一 一 一 一 一 一 一 二

中 もたちこう新ざうし目出度春 京 正直

下 花さいひ世はじめてたくはへ春 同 秀重

中 くむ酒の数さへ二たらしめ哉 京 永治

〃 ○二 洛中の門や小松乃一夜春 同 重頼

上 けさハ家も月くのはじめ哉 堺 弘永

〃 と鶏やけふ初る日つもむ若夷 同 貞盛

中 春とふ諸櫻ば小高や鶴霞 同 宗治

下 常盤初若やみふのいちひ哥 京 重方

上 さ月さめれ帳ハたてる春霞 同 正章

下 春の春おちつきそれや見の日 同 道二

上 常乃若や年徳のかくり餝 同 政公

下 くる春ハ及おとるりきて今年 同 意敬

〃 信おれや年徳もおりそふ花春 同 重供

〃 かざり縄やその今日目出度春 同 宗重

中 凡初めの暦や年乃年老ひし 同 重貞

下 いそへ宰ふ山も霞の引まゝに 丹波 沉

〃 霞み来て山やけの子れいぬ年 利邑

上 年越てみ川春や中やすき 望一

中 春ぬ春を世にそひきたる霞 成安

下 春ハ川の氷もまされ初年始 同 貞継

上 東より出さる八いつ氷いぬの年 同 由延

下 四方ふかふ霞や春乃立姿 同 正甫

中 十八のさみハ御門乃めさる 同 正之

同 春の春や四方へ霞のあくびら 京 休意

上 大ふくハ年もそまもおうち茶 同 宗卓

下 門よけさ年越松の世さりつれ 同 す赤

中 松の夜にけされたる月や辰の 同 道宅

同 書初や松ふはらすき年乃年 同 雖考

上 立世の鶴年ハ兰ほにはる月ら 同 宗朋

下 春の年の馬さぬなれ鶴霞 同 定時

〃 常や祖陽毎年乃若き 京 正依

〃 門春やのどけまき年月をを 同 背眠

中 年徳乃やとさめられやさら始 同 梅溢

上 年々度ていそひそむるや也年 同 吉林

中　□初春を待どうぞ祝はれ　京　勝俊　一
同　福徳の門にやましふかざり縄　同　貞義　一
同　年徳乃神来や笑門の春　同　安利　一

玄乃とし よ

中　冬枯の木こそたちて来るや若水春　信安　一
同　長閑さや角ぶりも廿九年　世音　祖翁　一
上　立春やせんべいの世の利生国　正平　一
同　年の矢の入るとさしちかれや今日風景　堺　長重　一
下　名よわふや鏡の餅よかちん雲　京　信忠　一
同　同年と京の地書やせわふ乃春　同　政之　一
中　松竹や七宝の神事祇　同　重久　一
上　若ぶ此葉を相(あふぎ)みそちゐの鏡　八月　宗房　一

午此年吉書運ひ祝れは

上　口えや午の年に近付春の道　継者家　三
同　にあけてむまの年君乃暦哉　同　に

丑此年丑の元日あけられは

上　年も日も丑ハ七つ迄の夢始め　同　〆

上　あらむの祝義を今も丑乃年　同　六
同　露坊も角までちやの字かな　同　七
同　若水をくみ新春の日清し　同　八
同　名の水乃ころおとくなり年男　同　九
同　さ月姫やたゝ年徳のおかくれ　同　十
同　年此年とひきていふや祇園(おんぞう)　藻　同　十一

丑乃夜明の日あけられは

下　年ハ七日八角めじの鈴かれ　京　昌意　二
同　営みのそれよりまえやたちそて と　同　三
同　鶴の年の矢此粧や今を今日の　世音　光有　二
中　穿ににゑや春をひよこの酒の　春　同　三
同　識むかし年やらふのせつぎ　年京　春可　二
上　山本らの葉のころや萬歳　堺　英文　二
　　京年ふりもそやし春のあいふ　世音　望一　二

元日雨ふりけれは

上　春のたふきたつ霞や菊もるを　堺　一正　二
同　年あけきハ年此始やすゝ風袋　同　三

□らふる松やさもしすかたの　弘永
ある年小豆書かこはれける
又来れはそふて三歳らふ書　同
東から雪又書月も指焼れ　京 正恒
年の矢も射出するむかし始　同
卯の年なり
ちやく越るきやうさ扨此坂　日 秀重
四十乃坂母
此ハあく年は廿つ此井の字　同
明立室夜ハ小母の噂なれハ
財布めくハ小書や待る年男　作者不知
九重の霧や九あんなふの書　同
あらむハ年乃緒をまくそれより　京 正章
営るや年徳乃神の清うしめ　同
年徳の御社参らぬ宿も那　日 重僖
門書や万歳来らハはかり　同
さ良姫の生れふの書霞　日 政公

ある年此花きうれや花の書　同
古書同年なりけれハ
○去ハ射と越る年や一蒲さし　京 守方
東西と書此去川むる船られ　同 正依
鶯の衆めてや来るふ家書　同 重見
去年咲てと年やあこ引花見　陽 由延
年徳の神を残年やとし男　同 正之
ゆふむやるりとまハるふ書　同 貞継
もて来つる見そ年に生玉　京 宗房
とし徳の清めるすしけき此母　同
ゆふ餅を打つもさやふ書　光有
廿乃年母さりとく
かろふれハ年足の指のとらし　陽 弘永
大晦ハて若水乃泉られ　四豊一
大晦れある年さとかくと年　陽 一正
雪のこ天からふ田さこ花乃書　同 家治
て年もけさ家役きくろふ霧隔　京 重頼

中　上　下　〃　中　下　〃　上　ハ　〃　上　〃　〃

ひらくなる春の縁[illegible]の[illegible]　京　永治　二
若水[illegible]や花乃[illegible]　〃　正信　三
老[illegible]も[illegible]年水　〃　寸赤　二
年徳の[illegible]や門の[illegible]　〃　重方　三
二度[illegible]や[illegible]の[illegible]　〃　重貞　二
年徳の神の[illegible]や[illegible]　〃　重供　〃
[illegible]金[illegible]扇[illegible]　〃　光重　一
咲初る梅を菊とも[illegible]　堺　通教　一
世界[illegible]や年徳の神乃[illegible]
月と月も[illegible]　〃　[illegible]　二

若菜

長[illegible]や[illegible]　俳者家[illegible]　十五
[illegible]も[illegible]　〃　十五
[illegible]若菜も[illegible]根白草　〃　十六
[illegible]若菜　〃　十七
東[illegible]けるに[illegible]の[illegible]
とて氷[illegible]

上　中　上　下　上　中　〃　中　上　下　中　上　〃　下　〃　中　〃

氷[illegible]後や酒[illegible]若菜　俳者家[illegible]　十八
七種の[illegible]
摘[illegible]も[illegible]　京　重貞　三
○[illegible]　〃　宗房　〃
なづな[illegible]若菜　大坂　利貞　一
七種[illegible]　俳者家[illegible]　十九
若菜[illegible]　江戸　徳元　二
春日野の[illegible]　大坂　[illegible]　二
なづな[illegible]若菜　堺　弘永　五
七[illegible]　〃　[illegible]　三
[illegible]仏[illegible]佛の[illegible]　京　重供　五
[illegible]佛乃[illegible]　〃　[illegible]　二十六
あ[illegible]　堺　一正　〃
[illegible]野[illegible]　〃　正甫　二
○縄[illegible]　伊勢山田　光[illegible]　五
[illegible]の[illegible]　堺　正之　三十八
○[illegible]七[illegible]き　京　重頼　[illegible]

下 引てみるさへ姫根せりのかな　伊勢山田 光之　六
日 あやはく経をまねつくく初ぶり　同　七
上 ○はむ袖もふせりあふ若菜　堺 一正　六
日 つまみても若菜付よるゝ日るれ合　同　七
日 摘ても芹やさすらる氷掬　俳諧家　七
日 鹿の子や浄海摘の芹芹　市 同　大
下 はやなりもちるや海の若菜哉　堺 宗房　二
中 濁む雪消て人つむ若菜哉　京 貞之
日 七種と手まりぬ六乃花雅るれ　京 吉数　一
下 摘てそや雪にちるゝ若菜哉　日 重貞　一

子日

中 君か御代を呼れる子日は姫小松　伊勢山田 望一
上 君にはさ千歳小松の小松哉　京 定貞　二
下 子日とて一世といはふ小松哉　同 道二　八
日 雲は千云引まうる子日哉　岸 正友　二
日 此源氏文字かえや此小松哉　同 光有　一
初寅ハ

初寅此子御やゝ寺せつ恵川　京 正章　大
上 爆竹ハたら年波の庭火哉　同 昌意　四

初午

下 ○初午に子ども入ゝ祭りの社哉　俳諧家 未知　六

梅

上 雛はなを見りよいりてみ花哉　堺 其友　二
中 紅梅と名によりけるや花のおね　俳諧家 　
上 鼻せと聞と梅もそふ梅乃香　同 ‍　
日 匂もはや仰も香もよの梅哉　京 貞盛　二
日 つぎ穂もそ咲きあの梅花見　伊勢 永治　三
中 梅のさきて鼻息の香ふかき白い　堺 正利　二
上 難波づいと梅の香ふかき嵐かな　京 弘永　六
日 常に此所で御梅かなる梅　京 宗房　一
日 青丹此あのかたへの梅乃花　堺 成政　二
日 鶯の声や梅乃花の咲そ　京 言数　二
下 古までやうへてはきめ花の編目梅　日 道二　三

下　ちく花や先つ小梅あハさう　京 重方　二
中　咲よ春ハ〆て鶯乃宿とられ　同 正直　己

人乃母の遊吉り

上　白向や清母まや此春花も　岩 祐宗　一
同　鶯梅の香を親さう風代　堺 一正　八
同　春の青乃眼鏡かれや道は雪　岩 望一　十
同　とれつらう香や清きる春花も　京 正章　六
同　梅の香を送る嵐や文使　継寄家　七五
同　○詩作ても見るや唐人の花　同　六六
下　さく梅の花小あ門き匂れ　同 吉政　一
中　ざいらまて白ひハ梅乃つぎ浪　同 すゞ赤　三
上　ねすみえてら面白い梅　岩 営義　一
二　吹風よ帰せ笠とらし梅花　同 孝晴　一
老　白ひハめぐるや宮の梅　紀州 如心　一
上　花の兄元服きてや初名草　紀州 正平　二
中　練青の木とも春花の枝　江戸 好勝　一
同　春一本みな花まする匂れ　堺 永次　一

上　ちく梅ハ山ぶきあるよ焼香乃れ　同 正則　一
下　吹風小梅やさそれにほひ　同 宗喜　一
中　紅梅ハ鶯袖の下ぎ客の邪　京 休音　四
上　鶯梅乃今むえうや徳合　江戸 遠元　三
中　春や浦まれとていろく編笛梅　岩 利清　一
上　名とめて風もとそれよ編笛梅　同 家時　一
中　鶯梅ハ天満神の法鉢うる　京 貞義　二
下　花乃苞ちやみのまれ梅法し　江戸 正継　一
同　関の薮も匂ひや梅の笠垣　岩 正女　二
老　咲く梅乃匂ひのたぐきこそ地る　京 光貞　一
下　春の枝ハ霞の袖とこ暦かる　京 重供　七
同　梅や高き梅花ハ桃青頭か　江戸 利邑　乙
同　いつとて此梅乃暦ハ本此芝哉　京 昌宗　七
同　兄やぐにそよぶう梅がさく　同 宗方　九
同　先ぶら梅や暦の無滴く里　堺 国　六
上　咲く梅乃青柳の春乃ゆせ　大坂 弘永　七
下　花の兄時てかろハ春かし　利貞　二

下　一位ふるきも高し緑萼梅　京 寸斎
同　聴梅女大刀討るする花も　同 昌意
同　誰とてもうつるめや堤のこおろ梅　伊 康直
上　咲梅乃香ハ遠ざかる人の籬哉　東 重弘
同　○花く八雛段の春をまけ哉　同
中　青柳の中にも目あや白梅見　堺 宗房
同　鉄砲の中に梅八めびくたひ　同 弘永
同　赤く牝小枝もゆくめ花の見計　当 三一
同　梅薫ハ風をも見せぬ白かな　保護山田 正次

鶯

同　鶯乃初音でおきてあさ寝　堺 弘永
下　鶯は声のや誰とおさけ渡　京 秀重
同　綱人や鶯乃琴は手ぶり　同 昌宏
同　鶯よ山け法花渡の文字数　同 意数
上　○鶯も行るにいざや法乃声　桃花斎
同　○鶯よ一日渡乃しるしとて　同
同　○滲織雛ふて鳴鶯や軟迎鐘　同

上　鶯や声すにつれて行ふ法花　当 光有
下　うくひすも梅にふかれてや白粉　同 正利
上　鶯の声大人の園乃竹　堺 正甫
下　鳴みさきハたく鶯は柱哉　京 永治
中　鶯はちる題目の法の声　京 保成
上　法花経をよめハ虫ても聞ゆ　大坂 光次
同　○めかる山の谷をあやうく見て　同 重貞
中　鶯乃囀りハ吾一声のれ　同 如雲
下　月星とまひ鶯の初音哉　摂 安知
同　鶯の声をひらきて見起　同 成政
上　鶯や梅をまとよ法乃声　山田 正縄
下　鶯と梅や桜も花の郷　堺 弘永
同　うくひすの百囀りや百人首　京 忠也
上　鶯もいめ要妙の一字哉　堺 貞盛
下　と乞ふ花八鶯笛のみだれ　同 宣喜
上　鶯嫌よ啼鶯や和声来
　　鶯も人来と鳴や花の暮　当 正利

上　鶯は籬背くれや垣の声　覚澄　一
中　鶯乃琴の音にも声や氣つくし　京　定親　七
上　なく八実鶯袖にてかりわす　紹著家　十一
上　妻乃音やともろ金の衣鶯　同　宗房　七
上　鶯や梅さく庭は物の綱　丹後翁　一
下　鶯の初音や鐘乃調子より　同　昌意　八
同　法問乃庭にも法の声乃名合　堺　重直　一
中　鶯や花り花とうるみ出き　京　一正　十
上　花の紐もとけは法の声乃名乃　同　一正　九
下　紐もとけ名八三光の鳥の声　京　重方　七
同　先鳴る鶯の声のぎられ　宗朋　二

霞

中　鶯鳥に網打かくる霞かれ　当　利清　二
上　四方山乃ちうひくるゝ霞　京　正章　七
中　山は衣柳か袖霞は衣かれ　大坂　弥　三
上　○兄初りは霞の綃乃ちうゐの物　堺　弘永　十一
同　おのがり山は霞はさぬ絹かさ　同　十二

上　紛絹は霞のかへれ浮　当　望一　七
同　綱の目に風もたまるや春霞　同　八
中　雲霧切さかるは小袖かな　京　永治　十
下　雲の袖よふくまんころ霞かな　同　定重　十四
上　二国を霞めゆくやかれ　紹着家　十二
同　鞘刀も霞や高雄の春霞　同
同　鴻に立八丈織のめもとみられ　同
中　錦霞うは教立は絹鴻かな　同　一正重　六
同　鳥や縫せめかすみの衣かな　当　季世一　一
上　玉かへる霞の衣や　京　政以
下　山乃膝よりつきなちや霞　同　意叙
同　三段小袖もわらやタ霞　当　武清　一
中　小袖ふうや唐めぬ生末も霞　京　一正重　七
下　雲松れ針きうれ夕かまみ　同　重定　一
上　きぬもら霞のめす桜　堺　貞盛
同　天と地の絹や春霞　同　弘永　十二
同　打かけは山は霞のうへかな　同　十三

下 下 同 中 中 同 同 上 同 下 同 上 下 上 同

亀山乃霞ハすゑ[illegible]つきぶ　京 弘公
山眉ハたくてもれうれ霞　京 政之
引まつり霞や山のうしろそて　京 政昌
まへ[illegible]霞や山の翳屏風　堺 重恵
山ハさきつゆうらみさ[illegible]哉　大坂 静甫

残雪

○年をこえめておうるおのる去年の雪　京 正重
花の雪のだけを飛出日影　同 永治
大日いこときさ残ふる雪仏　山田 同
消りや前ま[illegible]ぬれ雪仏　同 正利
冬の役勤て去や雪の跡　同
朝あ[illegible]清き[illegible]雪　京 昌宏
雪もハ去まてふるや咲せん　同
積む人のはこめや消る雪仏　濃元
消うせぬとも化生れ雪女　山田 光有
真の雪ハ花終れの下残す　京 重長
○氷ハ消し雪やうちて[illegible]　堺 弘永

一 十一 一 二 [illegible] 八 三十八 三十九 七 六 九 十 [illegible] 九 一 十七

同 下 中 下 上 同 中 同 上 同 中 下 同 上 上

春の雪や池の汀の白鷺　俳諧宗匠
○氷ハひとけさて[illegible]雪仏　京 重信
もと雑し春の日影乃雪仏　同 貞義
鳥の跡と消ゆと拾しめ雪女　堺 光恵
雪山も地を出し入る春日哉　同 幸重
松の下ハ雪まてある小南　同 貞盛
消ぬ雪や雪れ花いけ宿れ[illegible]　京 春可
○昼間廣り庭小[illegible]の雪哉　同 重頼
○白雪の佛乃[illegible]も涅槃哉　従太家
雪佛さゆ[illegible]や[illegible]双樹　大坂 元次

春氷

春の日ふ[illegible]や[illegible]て池の氷　京 永治
[illegible]金とあ[illegible]河の風　同 昌玄
春ハ[illegible]氷の[illegible]　同 定直
耕ハ何春の[illegible]　同 忠也
とけてみむまふ氷や二[illegible]
○消やらぬ[illegible]の[illegible]や厚氷　堺 貞盛

十八 六 三 一 二 七 三 八 四十八 [illegible] 六 十一 十六 二 六

上 打とけて氷る[illegible]や中[illegible]より　岩 宗茂 一

同 ぬる[illegible]ひまれあひ[illegible]詠られ　堺 一正 十

同 日和よくハ氷のひ[illegible]や踏かゝり　京 政公 廿九

同 若[illegible]諸るや去年[illegible]　堺 弘永 十三

同 春も氷のおやときて[illegible]　京 宗房 八

春雨

同 降[illegible]　同 一正章 八

同 [illegible]を折[illegible]の[illegible]　同 政公 廿七

中 春雨に[illegible]　同 一正直 九

同 [illegible]の花の[illegible]　同 永治 七

下 雲水[illegible]や[illegible]の[illegible]　大坂 安明 一

桐

中 花の種[illegible]や[illegible]桐[illegible]　[illegible] 一正式 一

下 ○[illegible]ぞと[illegible]　京 昌玄 十三

上 桐[illegible]　同 重氏 一

柳

下 [illegible]の目も[illegible]柳[illegible]　岩 光有 十

上 [illegible]のびのび[illegible]柳　[illegible] 廿七

同 [illegible]精を[illegible]るや[illegible]柳　京 [illegible]正 一

下 [illegible]　同 道二 廿

上 [illegible]柳[illegible]　堺 一正 十一

下 [illegible]柳　京 宗重 二

上 [illegible]柳　同 [illegible]也 三

上 [illegible]の柳[illegible]　同 吉林 二

下 [illegible]柳[illegible]　同 昌玄 十三

同 [illegible]柳[illegible]　同 宗[illegible] 廿七

中 [illegible]柳[illegible]　同 [illegible] 七

中 [illegible]柳[illegible]　堺 永[illegible] 〇

中 [illegible]柳[illegible]　[illegible] 一正之 二

下 風[illegible]柳の[illegible]　[illegible] 宗朋 三

上 [illegible]柳[illegible]　堺 一正 十二

下 風[illegible]柳[illegible]　京 [illegible] 一

中 氷[illegible]の柳[illegible]　堺 永次 二

下 [illegible]や[illegible]　岩 光有 十二

上 梅か香に綿糸も成柳かな　京 一正成　一

春草

上 汲む人ぞ里へうすうよめぐ［illegible］　［illegible］　六
中 うらゝかさ得よげ［illegible］みえぬのめぐ［illegible］　山田 文［illegible］　一
口 鉄槌のさ［illegible］の枝つよ［illegible］　京 一正重　十
上 薫生て［illegible］宿［illegible］や［illegible］　堺 弘永　七
口 ［illegible］られて［illegible］そと成［illegible］　山田 光有　十二
下 花さけ［illegible］撲［illegible］　口 政昭　一
口 ［illegible］やんの［illegible］あさみ　京 宗房　九
上 ［illegible］の［illegible］鼓草　口 正包　十
口 ［illegible］芽［illegible］玉藻　口 貞［illegible］　一
中 ［illegible］の塔［illegible］　口 ［illegible］　一
口 ［illegible］や風の［illegible］鼓草　宗房　一

茎

三 まん中に［illegible］の［illegible］　堺 家治　九
中 ［illegible］やつ［illegible］　山田 光有　十三
下 ［illegible］やいつ［illegible］　京 宗信　七
口

土筆

上 ［illegible］や［illegible］の土筆　堺 一正［illegible］　十三
口 ［illegible］や［illegible］土筆　口 貞［illegible］　七
下 土筆た［illegible］　口 宗［illegible］　三
上 ［illegible］くさみそ土筆　［illegible］　廿九

蕨

下 うでたて［illegible］蕨の　京 重方　廿八
口 ［illegible］蕨や［illegible］山の［illegible］　口 ［illegible］　三
口 ［illegible］蕨　口 ［illegible］根　一
上 ［illegible］蕨　山田 ［illegible］　一
口 ［illegible］蕨　堺 貞盛　八
下 山人の［illegible］蕨かれ　口 一正　十七
中 ［illegible］蕨　［illegible］ 岑松　一
［illegible］ ［illegible］蕨　堺 ［illegible］　一
中 ［illegible］や花の下蕨　京 正直　十一

春月

下　立て見よ若松は一夜に春の月　山田　光背　十七
上　月からも浪の寄やもち衣　堺　一正　十五
回　霞月の雲幕あれや春霞　同　弘永　六
中　花の露も見え初る朧月哉　同　永沢　三
上　雲井の母や朝まつ月は朧月　京　正峯　九

椿

中　松さんも花は咲く椿哉　堺　蒼交　五
下　さかぬかたは夜よ色よ玉椿　山田　一正大　三

追善句

あやさめと袖の雫はよもの椿　惟着宗参　四十
私乃胃は霧を見入椿の耶　同　四二
上　雨の露や子ぞあれは世椿　同　四三
回　日数へてさうらとぬや保椿椿哉　大坂　一正之　一
中　保椿椿これやつきま露の影　京　正重　十二
回　いけ垣し花や水せる玉椿　回　休意　二
回　哀母姉ら雪やすあかちら椿錬　守住　一
七　袖くよりみつや眼の玉椿　山田　正利　七
五

○あら何中に擂ぞ初花て赤椿　堺　弘永　十九

桃花

上　仙郷の年をも千代桃の花　京　宗房　十
回　徳よ浅くも年代からも桃樹哉　同　宣時　十九
下　花の後も桃のさいまを末絵哉　堺　宗朋　八
上　桃の酒やこころ底てこうあらへ　同　一正　十六
中　こふ酒をのむへ桃さえ上戸かれ　紀伊　信允　一
下　心ゆるも花ちらせよう桃の酒　山田　光有　十五

杏子

下　花は揃あんずそかへの母君哉　京　秀重　五
七　唐をよみ自ら通るや春の風　同　孝瞻　一

花

下　みされて八日たさうらも花盛　京　昌玄　十四
中　芳野より雅きかめて寄の　回　正直　十三
回　先見るや花を見たりの詞哉　回　重頼　九
上　人は雨うたれあれや花の波　回　正章　十
回　禅寺は花に心や淳義哉　堺　弘永　二十

上 思ひ内よあれいや花のあらし　京 政公
同 蝶乃巣や芳らく花のすくひ　丹後 [illegible]
上 生花小川きりと医る心りか　正利
下 散花いはや武者計り花軍　光有
同 風乃日ハ花の上ゑあらし　京 秀重
上 ますをまとたりへねむいは空之轉　堺 貞盛
同 細きて白うぐ花の盛ハ　同 一正
同 あけ国にふてもえや月とむ　尼 徳元
中 花ハくんど人ハくんど留守も法ハ　津 宗味
同 待ゝむさうくれ鍬をげ鞍馬山　堺 宗治
下 ときさそ花花かや盈れ作ひさき　京 永治
上 誰とてもみそれぬ梅や花乃良　同 重方
中 日向の出ある人りよあのて　京 宗房
上 日にもふ国よりり花や咲や　同 重貞
同 昔ハ皮をゆりや花の盈風　同 吉政
中 花乃後女生ぐひりきこぬ人も家し　尼 盛[illegible]
同 何なるやれきけて散し花ん

中 山のけしハ川や花の稗かり　大坂 重次
同 浦のまてたつつるやきこ花の　尼 長昌
中 恵肌かゝるはさ未れ花や入るか　東 重久
下 さかぬ白ハ浅ん花き花の盛ハ　[illegible] 利次
上 花母風ぬれぬこうまろきさをけや　堺 長重
下 花ちゞは風や月ふみぬ鬼の　尼 正經
同 花をふむ人もかわ年のふ　同 末吉
同 千中乃花乃んてうさせ閻魔　京 重供
同 歌み及る含釈り雨小花の良　同 意敬
上 此をうさいは花よ心の闇もし　同 忠也
同 さけいらうさらぬ肉り花盛ハ　尼 金石
下 をき山の松やさうう花盛ん　同 弘嘉
中 本にのおふはけしや花のし　京 信安
同 同かるへて花へあるや未は蕗　同 勝俊
下 とくこぬハ花ふきえや衣　同 宗輔
上 花ちるハや上ある色うれ　尼 留城
下 むしをめの笠をるは浪ハ　[illegible] 元弘

下 山風はちりり花の揺籠哉 京 宗邦 一

口 志賀遠かるかなそのさきせよ花の色 大津 宗連 一

口 よせばしきやよ花見るの花の 京 道二 〆

上 渕にも花は錦地の錦哉 口 是信 一

下 吹風よ知るやみぐすや花車 当 来吉 二

中 山おしは能やあらごの冬つき 京 休育 廿

上 花の渡そ待し花乃雨 京 空时 十二

中 去年乃詠や月ちる花盛 京 梅盛 二

上 ちる花をすくふや水の鏡哉 京 一正 四

下 いろどはあおる花のにほひ哉 京 寛記 一

口 ○花あるさゝや鏡をこえうち 京 從者 廿〇

口 吹風のおとに庭や花盛 同 廿〇

口 花盛唐もあらし吉野山 同 廿〇

口 むかしの後や母流まくぬ色 同 廿〇

口 そにあふて抱とやふや花の風 宗正 仁 廿〇

口 ぬりるき木精られや花の枝 同 廿〇

口 臍やそんは花の枠の中 同 廿〇

口 雨にぬれはやめつ花は氷子哉 同 廿一

口 その川かと火かはし花や木灯籠 同 廿三

中 花の色や山ふところの吉野山 堺 善友 廿六

下 むかし見や咲と散とは二度びく 山田 光有 十七

口 道よりまたうそみれやむかし 京 昌玄 十五

中 巳巳巳巳は文字か雲波宮どの香 口 重頼 十

上 もろやすき古人魔花の枝 口 家房 十一

口 ○雨よ咲は天のあり子か去年 堺 貞盛 十

口 吉野山の花や寺人の胸の内 京 一正章 十一

口 蔵母は忠が之君よ花の色 京 政乙 八

口 おもろいそちらのさ花かな 堺 弘永 惣

下 ひらく花や書りるとめ 口 一正 大

中 寺の顕は詞乃花のつゞき哉 京 重方 九

下 花をも枝小枠はふし嵐 堺 家治 八

上 見られては花より咲るれ 京 重供 九

口 中に一本くもむはに花盛 口 家房 十三

口 花の枝折るにするや杦人 口 吉政 三

下 咲散るは毒(どく)薬そ花の雨 京 意敬 六

同 花ハ来ぬ人知らし吉乃山 [illegible] 里一 九

同 [illegible]枝や雲に横花さかり 津 宗除 〇

同 月花廿二日はうひの夕くれ 堺 一正 [illegible]

同 [illegible]花とぬれ[illegible]雲 同 弘永 二

同 花ハ[illegible]人の[illegible] 同 三

中 風ハや花乃為女[illegible]の[illegible] 京 素可 四

下 又も[illegible] 同 昌玄 [illegible]

同 [illegible]花ハ目うら[illegible] 同 [illegible]

上 風まつて[illegible]花や[illegible] 同 正章 十二

同 散[illegible]て[illegible] 同 十三

中 一向宗[illegible]くく 京 重頼 十一

[illegible] 花も実もあるや[illegible]の文詞 堺 弘永 [illegible]

上 素[illegible]月花[illegible] 同 三

同 [illegible]花の[illegible]仏とい[illegible] 同 [illegible]

下 一二三[illegible]や[illegible]の[illegible] 京 重方 十

同 朴風[illegible]花[illegible] [illegible] 一正 [illegible]

上 花乃[illegible]げたすゝ嵐 堺 一正 [illegible]

同 書[illegible]海との花[illegible] 同 [illegible]

同 花[illegible]ぬ人[illegible] 同 [illegible]

同 世や花[illegible]判[illegible]頭[illegible]の風 京 意敬 [illegible]

下 山坂[illegible]花[illegible] 山 光有 七

同 昔[illegible]花や[illegible] 京 重方 六

同 花[illegible]法[illegible] 同 政公 十一

上 [illegible]花[illegible]盛[illegible] 同 [illegible]

同 [illegible]花の嵐 同 六

同 [illegible]花 堺 貞盛 七

同 根[illegible]詞の[illegible] 京 正章 十一

同 花[illegible]人[illegible] 堺 弘永 [illegible]

同 鼻[illegible]についてあるぬ[illegible] 同 [illegible]

下 数[illegible]花の風 京 昌玄 [illegible]

中 〇ちる花ハ[illegible]の[illegible] 大[illegible]花[illegible]やそみ[illegible] 堺 宗[illegible] [illegible]

中 とにかくよ世に恋しるゝなれ細 京 正恵 十七
上 岩にもめぐまれぬ世や花盛 同 正章 十六
同 難波る山花の嵐にとまりけれ 堺 弘永 二七
同 叶ざれぬや月と病むもの風 同 貞盛 十三
下 恋しぬや花は雲ちさうれ 京 昌玄 十九
同 陰よおで花見るは我や雅ね鐘 堺 同 九
上 みそれぬる人の目は盗む盗 同 一正 十三
中 花もちぢれさうしとそりうつせ花 京 宗治 六
上 むかしのあそこが咲けれ山風 口 正柔 十六
同 咲花乃紋紗の陰のうれ霞 政公 八
同 老もまうし家さうに花やけが 同 九
下 あざありとゑにたく花の苦しみ 堺 一正 十四
同 氣乃毒そ又木は毒そ花風 京 昌宗 五
上 見るまへ布引あれや花の瀧 堺 弘永 六
同 色めかるは香や咲つゝ花の白 同 二九
下 吹風と嬉てるや花乃臭 京 重方 十二
口 ちらぬみのこゝろんでや月宿花は雲 口 秀重 七

桜

中 吉野の衣式よ消て 京 正恵 十六
上 桜田の植女もそ吉野の衆は 堺 弘永 十八
中 波乃花やそ刈ても流るゝ桜は 東武 一正式 二
上 桜木よ流るゝ是る鼻風 俳諧家 五七
下 麦るて咲は桜の木ずいれ 京 道二 六
同 若竹は根木桜乃根つきは 尚 光有 十九
中 花よりも鼻におゝいて桜は 堺 宗喜 六
同 見たくぬかなるもちあれや桜花 同 花文友 十八
上 桜咲庭山どもそちそ吉野 宗 湛元 六
中 さ山木花桜や乃霞の田舎往 京 昌意 十三
下 桜田の田あれや吉野山 同 重候 十
上 見る人も山のとく山桜 堺 一正 十五
口 花見衆山のひまさくらは 俳諧家 八
同 おみかまれやしろや吉野山桜 京 重兆 十三
中 ○ねずんひむ宝の山さくら

上	筆にまで墨染さくらや桜	江戸	遊元	七
中	糸桜見るや右からひだりから	同	数鶴	〇
上	花ハ根よ帰るや同じ糸桜	尚	定次	〇
口	見るからに人の心もいとし糸ざくら	京	吉政	八
日	一思案見てちらすなといと桜	大坂	定時	三
中	糸桜さくや瑞籬さかりとも	京	素可	十
下	鯉の名乃むかし子本に一本もれ	同	道二	卅六
上	くもる人の花よそへてや盛	同	継家	廿九
中	とく花ハ出しやせぬ姥桜	同	一正	十六
下	花ちるあとよりれしから姥桜	同	秀重	八
口	花の色むかし見るや小町が桜	同	重方	十三
上	素見の瀧ハ花の姥さくら	堺	弘永	廿
口	花ぬるや面影あるも弘姥桜	京	政乙	十
中	用あるやとふ門跡の姥桜	同	重久	三
上	堀が来花咲と花とハ海千歳	堺	正章	十七
日	馬の耳にあやられ風の大桜	同	弘永	廿三
田	大桜ちれハ風もや風そり人	同	成政	廿三
口	うつろふハ花もやきりが八時分	同	宣时	く
中	花みてもやさしき腕のきりがや	大坂	宗遠	ハ
下	なむも留名もかゝり掘てきりかや	京	重長	六
上	十ぶんにふさけハおちてもまよりが八	同	秀重	二
下	花に舞とそ浮れきりがやひて	江戸	遊元	九
上	神風よちるハあさまやいせ桜	京	昌意	八
下	天照も目をさましてや咲いせ桜		同	廿三
日	月の秋ハ二見が浦がいせさくら	同	忠也	廿八
上	折るゝハ罰あやわるいせ桜	堺	弘永	九
口	神のいきさ越てもみなもいせ桜	同	國政	三十三
中	みな人や内外にあきいせ桜	京	重方	一
下	花の木も名目ハあやいせ桜	堺	光忠	十六
日	立ならふ松もさまそいせ桜	伏見	吉弘	二
上	月代もの花の月ハいせ桜	江戸	同	一
日	抜ハ百二十まち社がいせもある	京	利邑	一
下	ちよふりなや二見の伊勢桜		宗房	三
上	都人のみる目知るかな伊勢桜			十三

中 飛鳥も藤へきこ伊勢ハ桜かな 休音 三
上 風の音も見ハちらしいせ桜 似船 六十
下 花乃咲比ハ奉坂や伊勢桜 重供 七十
中 待人や月よみ月のいさ桜 梅盛 十一
上 〇火桜の香や盤ふいせうも焼 正依 廿
口 火桜もいふるも地水花鏡 貞盛 十七
口 火桜のちれハ灰土下焼 文唯 十三
中 そえくるといえんや火桜の樗木 重貞 一
口 楊貴妃比ものあり花比嶋 一正 八
上 〇楊貴妃の花ふ胡蝶やうねの 正章 十七
口 面さ比楊貴妃なれや姿桜 政公 十六
中 えて方ら忘れし桜のおもかげ 永治 十二
口 幼き花て蒔るハ烏帽子桜 貞義 廿八
上 花の渡ハ本男れきやちご桜 弘永 八
口 名をよりて花ぞよちご桜 同 三十
中 又見んと指きりせりや児桜 正直 二十六
下 風のふにふさちまてられ児桜 重定 十八

口 ちご桜風と嵐やつてもちらり 政昌 二
上 をりあるや山かつ里へちご桜 常人 一
口 早く咲ハそされ恥つ児桜 兼実 一
下 花さうんや乱をれき児桜 秀重 十
上 いかへも君酒て見ん八重桜 政公 四十一
同 奈良の八重そのも八重桜 一正 十六
口 九重まみゆへぬ物や八重桜 諸光 一
中 八景を見ふハいらて八重桜 重良 九
中 いかへのなるやげや八重桜 守親 廿
口 はきぬるハ其子相ちらち桜 正重 一
口 花ふたる風そ見しき桜 弘永 二十六
上 香のへたつ眺めや家桜 同 二十七
下 折ふりうも流よぬれ小家桜 道二 七
上 風の音ある眼に見まる桜 似船 六十
中 花もりハ亦芽やかりいえ桜 正直 十九
上 咲ぬ花ハ肉気ふあはひて 吉政 八
下 のきはよ枝やちりかけ姿桜 安明 二

上 花ふすく人や吉野山も遠桜　山田 里一　十
下 鼻毎くわらひもよぶ花　京 意敬　八
中 見るくや佛の住菩提像　山田 家儀　一
上 ちれハ我もさくら花　堺 一利　一
日 とれそふ青やかさもれつゝ　日 一正　〇
日 菩提像のたかにはまれ　門　十七
中 的兵もなりや白氣菩提像　伴伯　十八
上 短冊やまきき桜れ不審紙　京 玄竹　一
中 さくにみるやとくとも桜　日 利安　一
上 冬咲の様ふもちよ遅桜　山田 德元　一
日 花くのまちりなりら遅桜　山田 定勝　九
中 真乃むとひてさかぬや遅　新 一正式　一
上 まさるや山の奥れ遅桜　山田 安清　三
日 ゆふとふと月咲よそり遅　継紫　一
中 思案せし詞の花やさそ桜　京 永治　廿五
上 待し氣の毒ゝやさ桜　堺 貞盛　八
日 世なまれ彼ハ花りさそ桜　丹後 三

中 我くん艶乃貝ろとそそろ　京 重貞　十
上 若葉花そんもくてゝ小米花　京 忠也　六
中 さ出ひ垣や絆様でめむ　日 重貞　十一
下 小米花
中 海棠
中 ○海棠ハ孫ふねふぬ花枕　京 道二　八
上 沈丁花
中 春もたきし白ひり沈丁花　山田 清親　廿一
中 躑躅
上 冬よ青くかけしめゝ迄夜咲て　山田 西勝　一
中 又みかむの谷刃とされ岩清し　日 家議　二
日 きれねぬ岩や稀かき躑躅　日 光真　廿
日 見ルまいぢかんめ右と岩て　堺 弘永　三
日 盛とや見きうる　岩河　大坂 蘇秀　六
日 いつまでわりとひよ川はまく岩て　同　六
藤
黄氏のお使やなんぢ本　赤くやさし絡ふ折ゝ

中　松よ藤めぐり日おそく散りけり　京 素可　六

下　若葉棚や人のんれきき所　同 昌宏

中　隣家へ行よる若葉や明日の波　同 重頼

下　若葉まりてりんく花さへ　同 重方

上　氏もよしそこちよし若葉の棚　同 宗房

下　若葉にはなるへき松のさかりかな　同 秀重

上　たらちねの末にわかれ若葉もよし　維舟

下　朧雲のほころびや若葉かな　同

日○　あく日出るはら藤枝の下若葉　同 昌宏

中　松藤は若葉とあふ河の松から　同 正俊

上　そのつら山家かくやはくら若葉　信全

下　松笠よ海とりて若葉のほころびさき　堺 宗二

中　雲まても若葉尽也春日山　摂 吉弘

日　松笠は若葉もしと雨や若葉の風　京 正通

下　ひろの若葉海とへや若葉かな　堺 重吉

中　門口に入てもつくる若葉かな　伴野 一素

　　新若葉や若葉のまさ植　京 宗雅

下　浪よりもよせよせ来る若葉の門　山田 光有

中　向浪まて浪や柳桜の若葉　京 守秀

上　是も又山家ひの柳そ若葉かな　同 正章

中　立波に花ようちの若葉のほつ　同 正長

下　花桶の縁は包や若葉から　堺 利邑

日　松小若葉や浪をけりひかかき　岩 光有

下　**歟冬**

　　山吹は浪には全盛かれ　京 重方

中　山吹く山はちりて嵐かな　摂 加友

　　蝶

下　若乃世と花てちてする胡蝶　京 重信

上　ちる花の露やめぐる胡蝶の　同 宗治

日　鶯やこてふれ蝶のあふの袖　維舟

日　蝶ぶりもしかはの蝶は隣　同

日　花の枝や胡蝶の羽は摘かけし　同

日　浅浪とかざりし花に蝶小蝶　傍 弘永

日　胡蝶ゆや袖と楢をかふむの浪　同

あれ〳〵と花に飛あやてふ〳〵　堺　安知
蝶の翼や麦にもとまて飛　同　正蜀
花ぶさにちぶさにそゞれ小蝶哉　当　重一
うつゝ蝶もぬれし二つ三つ連　京　正章
ゆく中よりいさ飛蝶や花の　同
聖人もかくるや胡蝶の夢の蝶　政公
たのむ花なくて里まつぬ蝶ふ　当　延勝
佗人の蝶ら胡蝶は飛も遊　京　吉林
桜花は二三度とまるや蝶ひら　同　秀重
花よ風雪にもみらる蝶の夢　堺　貞盛
むつ川ら涼しき胡蝶かれ　継家
寝て待し果報か花に飛に　同
花に来る蝶や還城楽の舞　同
舞蝶の同じ拍子や花の声　同
むかふ蝶飛ふはつのらくね　同
つとひや胡蝶の舞は夢や　京　同
とられぬは狸狐らの胡蝶かな　重貞

蚕子
うだてくは秋までを華子かれ　京　秀重

蛙

なぐく鳴蛙の声や夫婦哉　京　泥治
ちらさぬも声にやら鳴蛙　堺　弘永
水にまた蛙のやんのめらん鳴蛙　京　光重
今よむも古いかれや引ぐら　堺　松岩
あれは鳴蛙の声や雨中に　寛紀
一声いくさ文武二道の蛙かれ　京　一正章

帰雁

奥に又奥ありし奥月秋や帰る雁　大坂　静寿
平和小々書きそや帰る雁　京　秀重
古巣の花あとて帰る雁　堺　一正
ひかり花もんの帰る雁　京　寸斎
雲は帰にもまたひつぎ海　良灌
雁今や来よあとりて帰る　京　守信
道は有りよるや白雲帰る雁　同　重方

上　うぐひすも囀る時や田鳴　京　宗房　十五

口　ふむきて星や月由小鳴る　同　濾元　十

口　絃よりかけかもさらぬ鳴小数せ　京　永治　[illegible]

中　花の後あふつるきまや鳴　同

口　[illegible]やされへの字　同　秀重　[illegible]

下　[illegible]や露に杖掉乃[illegible]　同　重房　十八

雛

中　[illegible]雛子や山[illegible]　京　重親　十七

上　子ゆへふやせ[illegible]雛の一匹　[illegible]　依　十六

中　[illegible]雛声　同　永治　九

下　[illegible]の[illegible]声の[illegible]　同　守信　十三

工　[illegible]雛子一匹　[illegible]

口　[illegible]雛[illegible]　[illegible]

雲雀　付　鶯

上　[illegible]雲雀[illegible]　[illegible]

下　囀[illegible]　同　常弘　一

中　囀ふやせがやおすひばり声　京　重頼　廿八

上　引[illegible]やま[illegible]の声　丹後　[illegible]　四

喜郭公

下　[illegible]喜[illegible]　京　重方　十九

中　春鳴やけが乃[illegible]郭公　大坂　[illegible]　八

下　[illegible]　堺　[illegible]之　二

上　時鳥[illegible]も[illegible]　同　貞盛　[illegible]

桜鯛　付　桜貝　同　桜[illegible]

下　[illegible]桜鯛　京　昌意　十七

中　[illegible]桜[illegible]　大坂　[illegible]　九

口　[illegible]鯛　同

口　[illegible]の桜たい　京　重貞　十三

田楽

中　田月をあれや[illegible]桜[illegible]　京　重親　十九

上　[illegible]花の[illegible]貝　堺　弘永　[illegible]

口　蜻[illegible]桜[illegible]　[illegible]　[illegible]

若鮎

下　石にとまるもはや鮎の子あげけり　山田 光有　三

上　をどりこむあがるや鮎は子の盛　日 一正利　九

中　小鮎くむ人そ〓〓〓　京 喜可　七

書初

中　書ぞめの硯も〓〓書ならぬ　当 良信　一

下　唯ふおて千字は一字を書にけり　京 重好　一

永日

上　人も日もなくかぬ〓の〓〓　山田 正利　十

日　永るや天の戸口の人〓〓れ　日 安清　二

曲水宴

上　盃を詩にもうかぶ流れかな　堺 留近　一

上　うきし〓〓〓一曲水の〓〓れ

三月書

上　行春に〓〓〓〓〓〓〓　堺 弘永　三

雑春

上　〓〓〓〓〓〓〓〓の〓〓〓　似水　七

中　日堀干一里ん〓の〓〓〓　堺 〓〓〓　〓

上　住のえの塩干や松の手すれ草　京 重頼　九

日　住のえや人の〓〓〓塩干かな　日 宗房　十六

日　打〓〓〓〓の〓〓〓〓〓れ　〓 〓〓〓　十八

上　〓〓を〓て〓〓〓〓〓〓〓　江戸 滋元　十

更衣

日　花の香も〓〓〓〓〓〓更衣　堺 弘永　〓

日　〓〓〓〓〓〓〓〓衣の人　京 政云　三

下　〓〓〓〓や世は〓〓〓〓〓〓　日 吉政　六

上　〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓　日 宣重　〓

餘花

日　おちや〓〓〓〓初花は桜　江戸 滋元　三

日　卯月〓〓〓〓〓〓さきの日　堺 弘永　〓

下　猿〓〓〓〓〓〓〓〓　〓 吉弘　〓

新樹

中　散花の〓〓〓〓〓〓〓　京 昌意　六

中　〓〓〓〓き木〓山の〓〓　堺 〓〓　〓

上 葛山ハあをだあらぬ木も通 京 正章 二三
下 夜山ハ月の葉なり新樹哉 堺 貞継 三
上 面を来花二夜よ明る哉 当 正利 十一
下 夜来豆との、まつり[illegible] 堺 定喜 廿
口 大小の枝や折ノさし夜来豆 京 定重 廿
上 姥桜ゆかり花や塚の親子 堺 貞盛 十六
下 そのつきや厚朴夜来[illegible] 大坂 一覚 一
口 薄らねと二本あらハ林かな 京 重好 二

花楓

上 秋加て赤き花や打出て 京 正保 七

卯花

呂 垣ら白ハ雪掉されやせり宿 江戸 清元 十三
口 見る花ハ人の心つくしより末ハ 堺 弘永 二十六
中 藤かう咲やう川本の元かし 京 重於 十一
口 着根らつき花ハ盛を許され 口 正長 二
下 卯花をみよ[illegible]捕ハ嵐かれ 口 秀重 十六

牡丹

中 花の露ひかくれの東下 堺 芸及 八
口 えよりも出ハ牡丹花の真哉 京 一正 三
口 ねる猫ハ獅子に牡丹の語かな 当 正利 十六
上 牡丹花よ弱き胡蝶も羞かる 能[illegible] 九

芍薬

中 芍薬や根よりも花ハ気は葉 孝庸
上 芍薬の二階ハ蝶の座敷かな 堺 芸及 一
下 起り出る花精出て気に[illegible] 大坂 能[illegible] 八十
下 掃除せよ出ハ人座くの地畠 大坂 定好 一

杜若

口 杜若もみぢ花ふまゝ負ふよ花 堺 弘永 二十七
下 二ハ月三河でみるや杜若 京 昌言 九
口 夜さやあつき[illegible]さ 大坂 定好 二
上 むら男紫[illegible]

葵

中 見こね[illegible]葵の上[illegible] 堺 俊安 三
下 ちよ[illegible]葵 当 光有 十三

垂簾や葵の上のいたちたま　桃右家

芥子

実よりも先に咲けばか芥子の花　伏　國秀

ちるや芥子の一草生ニ…花　堺　我求

花の中よ…　大坂　玄康

〇見る人の笑や…　付鍔　忠也

風車

風車…風車　京　宗房

常夏　付撫子　日石竹

床夏に生まれ…花の蕊　京　門

撫子乃露や…　伏　休音

撫子や肩より…岩…　以一

なでしこが…名字は河原…　山　岑松

撫子や折さき…　近　齢都

撫子や道々文も大和仮名　宗朋

尤ふれ…あら…石竹　俳者家

花の中…　京　永治

石竹も花は…ゆり　京　重方

撫子は…　口　昌玄

咲しより…石竹　大坂　重次

千代よ八千代…　口　勝明

打ちる…玄翁…石竹　京　昌意

石竹や…菜

百合

夕立の…車百合　京　正直

鬼百合…門　俳者家

…鬼ゆり…　直澄

九十九…　堺　弘家

鬼ゆり…　京　春可

花く…　日　宗房

蓬莱…小姫百合　堺　貞継

鬼ゆり…　俳者家

花の…車百合　京　昌玄

姫百合は美人草とや[illegible] 堺 弘永
根を引やりしと思ふん車百合 山田 光有

美人草

花は唐の氏[illegible] 京 宣重
[illegible]美人草 堺 長重
[illegible]美人草 宣時
[illegible]や美人草 留一
捨られし[illegible]美人草 京 一正
[illegible]美人草 山田 [illegible]
[illegible]美人草 堺 貞盛

夜草花

[illegible]夜[illegible]花 堺 成政
[illegible]花盛 日 貞継
[illegible]草 摂 吉弘
[illegible] 堺 道織
二[illegible]の花[illegible] 阜 瀬元
[illegible]花 京 秀重

[illegible]

風や[illegible]花 堺 弘永
[illegible]の[illegible]れ 日 康庸

梔子

[illegible]花の[illegible] 京 重教

[illegible]

[illegible]の花の[illegible] 堺 盛政

[illegible]

花も[illegible]草 京 秀重
[illegible]草 日 重教

康子

[illegible]の服[illegible] 家朋
[illegible] 作[illegible]

郭公

百[illegible]郭公 京 重教
[illegible]時[illegible] 日 守[illegible]

下　にしやは宿将軍もめぐるや子規　山田 貞助　一
上　郭公あれやあれ世の加陵頻　同 守一　十二
同　○空ゆく八挑ぶ鳴か郭公　同 正利　十三
同　あひよつひ鳴や〳〵声〳〵きこえ　堺 一正　十三
同　鳴やや声　きこえ牡鵑　同 貞盛　三
中　奇と詩の作らぬ拘りはつる　京 似竹　十八
上　名人もなかりそ志れ郭公　同 正直　八七
同　幽なりこゝちづくろひつゞる　同 正章　十三
下　瀧着ゆ声ひけや牡鵑　山田 宗房　二六
同　安耳小祥ゆ何処もきこえ　同 宗仁　十九
中　名紫あたりそこと〳〵声よ時鳥　同 光有　一
下　○ほとゝぎす亀のおまつごおき山遊　京 表一　十六
下　蜀魂ねまりたやまそときこえ　同 昌意　九
同　銀山はその母なく　同 重供　十三
　　　淀路ゆく　京 玄故　十一
　　　○ほか宿ゝ声きてゆりかげ　九
　　　○音明ゆぎゝきこえや声の声

中　○はじめとの猶きこえ世をふる声のおれ　京 永治　十二
同　ほとゝぎす一声ここに　堺 芸友　十一
上　一声は狭耳よりくときこえけれ　京 浅元　十六
同　○鳴声もふ声やいろはにほへと　同 政之　十七
下　○兎川付て音声きこえこそれ　同 忠也　八
同　○人ゆみふきもぬや耳にきこえ　同 秀重　十九
下　○鳴ゝくや亀のゑとうきこえ　山田 宗仁　二
同　○辺と計ぬきこえかきぬ初鶯　同 継意　八
上　○鳴声やむなさびけ匂ひて　本意　京 同　八
上　○八幡のお山でゆやはとくちきこえ　京 宗永　八二
下　鳴てみよ杜鵑の声猶ときこえ　葛葉 正武　二
中　そのかみせて鳴や拍子代々るまし　同 正章　十文
上　声ずいはいかもしいとれ　同 吉政　七
同　○一声や山鳥　小二や　淀 康政　二
下　○とてもあらへば声も声のきこえ　京 秀重　十九
同　○声鶯やまかきりありふ人のきこえ　同 重貞　十六
中
　　　五月雨のおりからよ

上 子飼あけハんろいさみぐされ　堺 弘永　八十二
下 霜月ゆきもいうてきらん時雨　京 重供　卅九
上 庭鳥の尾ふれいてあけ時の雨　同 正卓　三
日 執心あとしいこゝろの時雨　皐 津元　十七
日 わむしいらし氣のれや時雨　堺 成政　十六
下 忽雨や歌の催促郭公　京 秀重　二
中 露乃文字歌も何れくきれ　当 長昌　十一
下 ○後やとよむ初さくや郭公　京 守宣　三
同 きれふれよ天窓把とき　当 武清　二
上 雨乃夜の鬼一口られくちれ　日 亀一　十三
日 亀ハ沖が空鳴もられ時雨　堺 一正　十三
日 なの外目ハ真逆ふり時雨　津 宗隆　二
中 耳が世の身ぬまふあけ時雨　堺 永次
上 撥のこや夜にこやぐ郭公　日 吉次　一
下 時雨なかざくひや他の始　京 宗利　三
五 待よりろ氣つけ葉そ時雨　皐 常久　二
中 一夜やな海かぞく此時雨　京 宗治　十三

上 関杉や宮ふれ東山ゆとくまで　京 一亞章　三十六
ロ 待宵の待後も地くや時雨　他者家　九十
ロ 岩さえも掴いふさよ郭公　同　九一
ロ 雨此音乃主ヵ雲井此子規　同　九二
日 郭公雲井のあやね對面　同　九三
中 花つき筋ハ織音て皆時雨　盛政　十一
ロ ○老の園さあれや毎聲此子規　京 正重　三三
日 きえむの晩りさむがあつ時雨　堺 守久　一
上 ○夜の月そむけりとあけ時雨　京 重政　一
ロ いちおきに二ふしもあや郭公　正保　十一
下 里いけてまうし山乃郭公　日 寸斎　三
日 そと刈く晩くやあ夜時雨　同 守方　十
日 きえ弓書ゝトモよまれ郭公　同 意叙　十
中 耳も園を出えられ月録　大津 書可　三
下 高根より耳此根ふれなけ時雨　堺 宗道　十
上 編云てなくり雲井の時雨　弘永　八十二
四 蝙蝠が王十すり里り郭公　同　八十三

下 ふたかみの茶入月日ろ時鳥　山田 武清　三

口 あるの山でやそゞれ時鳥　堺 元弘　二

口 夜やけさの浅わり郭公　京 道二　九

中 ○けさひいた[illegible]　堺 國良　一

上 月やけ[illegible]茶時鳥　山田 直一　十七

下 なくと云文字や[illegible]時鳥　春安　一

口 まの[illegible]世八[illegible]実[illegible]子規　堺 信全　廿

口 時鳥[illegible]鳴初[illegible]　堺 輿之　二

上 木石も[illegible]郭公　同 正次　七

中 鶯[illegible]数[illegible]　京 成政　百

下 鶯に他生の[illegible]　口 重久　十五

中 人信も先耳よりや時鳥　口 重信　八十

上 ○大名も大耳[illegible]郭公　堺 守彬　一

中 一声ハ白き鳥う[illegible]　弘永　一

上 鳴ふ[illegible]郭公　山田 光貞　九十

口 一足も[illegible]万世[illegible]　継[illegible]　九十

[illegible] 名[illegible]の時鳥　同　九十

" いりころ大閣ふきく時鳥　同　九十六

" あけとみふ[illegible]ぬ時鳥　同　九十七

" [illegible]八涼み時鳥　同　九十八

" 雲よ[illegible]時鳥　京 重治　九十

下 鶏の鳴尾[illegible]郭公　口 守方　〇

中 ふびやるふ短夜[illegible]時鳥　同　廿六

" はやても八町[illegible]郭公　[illegible] 伊伯　廿七

下 なく[illegible]月[illegible]時鳥　京 正秦　二

上 五月闇[illegible]鳴や冥途の時鳥　京 宗[illegible]　二十七

中 源山て[illegible]杜鵑　[illegible] 秋國　二

下 山[illegible]禅[illegible]時鳥　堺 貞臧　一

口 名[illegible]　[illegible] 重固　十九

上 一声ハ[illegible]時鳥　京 玄毅　一

下 ○きて[illegible]　日 正忠　十

中 時よ[illegible]　[illegible]　六

上 ○鳴りや十方[illegible]蜀魄　同　百

[illegible] 梅なく[illegible]時鳥　同　三

上 巣てのこや親子此世時鳥 同 五二
〃 鳥此中てらんころ声や時鳥 同 四三
〃 ほとゝきす暁や郭公 同 四四
中 一声やなきさいの飛郭公 京 静安 十一
〃 郭公また〳〵もひとりと 重頼 六十
下 ○山寺の二八つきもよし時鳥 京 守成 一
〃 待人と指根てうへり郭公 國政 三
中 ○秋ちかふ鳥同やまたぬ杜鵑 京 貞継 六
上 拝よの親ハ親ぞんあれや時鳥 山田 光有 六十三
口 ぞてもおへ声よ須ふ山時鳥 口 六十
中 萤 宗治へ通りし時 政公 十六
下 浮まぬ菓ふ火いろを見るる萤 京 弘永 八十六
上 萤火ハ さ ぬ秋の行きかれ 堺 静安 十二
下 やみてハよ飛火をはらふ萤 大坂 光宥 廿三
上 萤火ハとんでそこれか出えるか 山田 正章 二十八
下 浴人の火ゟ白治ふとふ萤 京 昌宗 廿四
上 ひつり〳〵ちる足施や飛萤 口

上 打出てやとふ石山のふもとの萤 山田 漢元 十八
中 ○川岸の洞ハ萤の尾燈かれ 京 正忠 二十七
口 水草に火をもえする萤かれ 〃 重氏 七十四
上 ありどりと思ふぎき川の萤哉 〃 正依 八
口 文字のれハ宿を以乃萤哉 紀伊 継着ぶ 百五
中 その母も水の風の萤哉 京 正式 八
口 水に火ハ生肥かれやとふ萤 〃 梅盛 二
上 月影ふハ淡しくも幽萤かれ 大坂 正章 二十九
下 火ハ水のあや流りかれや飛萤 堺 空存 三
上 水性乃月かけさ幻萤かれ 口 弘永 十八
下 あの口やちえ火かうこし萤哉 勝 吉一 一
口 川柳かれ萤かるる萤かれ 口 尚也 一
中 吹ふ乱みち萤やふこと 京 重之 一
下 石山ハ萤のけも火ひかれ 口 す奈 六
口 宗ふ飛ハ抱きりゃ火の萤哉 口 重候 十六
中 萤火乃たきかみてぬ船かな 山田 貞継 七
昌 口 國茂 一

中 かゝりけん火ハむしの入らまし夜蛍かな　京 重貞 十九
ロ 草乃葉の露や蛍乃ひかり玉　同 貞盛 八
上 ○蛍見んや草の袂と濡らさく　同 家房 三
下 二人してひかり拾ふ蛍かな　同 道二 十
日 けさ[illegible]蛍言はぬる火の色　堺 意教 三
上 蛍くと灯心とるハ蛍かな　同 弘永 十七
ロ 飛蛍竹松明のひかりかれ　岩 牛一 十五
ロ 夜乃虫水に飛こむ蛍かな　同 宗勝 口
中 郭公迄ハ水入をまさる蛍かな　京 一正 三六
下 蛍火やさきつけにけり松の木　同 政昌 一
中 虫ハ火に火と水に入蛍かな　同 休音 一
日 石山に満る古る蛍かな　同 和道 一
上 石山も金花さく蛍かれ　京 宗房 一
ロ 宇治川の蛍やよるも浮の　堺 弘永 六八
ロ 生れあふて石山寺の蛍かな　京 一正章 式
日 むかしひとたびはみてや飛蛍　堺 一正 三元

石山寺にて

下 浅間にとなりし山の蛍かれ　京 宗獨 一
上 光る人もよびあつまる蛍かな　岩 金石 三
下 夜の鞁ハ蛍もてらす千歳かな　同 光宥 二
上 火ハ火よ火ハ水になる蛍かな　勝 由生 十七
下 夕ぐれの水辺の蛍のひかり哉　京 光重 一
上 竹の子に掃るあまりの飛蛍　ぬ 宣冏 五
下 飛ちるハ友をさそふや蛍かな　堺 安知 七
日 蛍ちるとさそふ浦の池乃水　京 政云 三六
中 ○桃灯の色も蛍花飛蛍　同 維看[?] 十六
下 消えてもまたとび火の飛蛍　京 重貞 一
　 蛍火をさそふる火ハ志ら月かな　日 昌意 十八

歌

下 園の扇も蚊ハひかる　京 光宥 二十
中 とられてやくをおひこむ蚊の声　岩 延贈 十三
上 夕風ハ蚊柱をはらふ行灯　京 政云 三
日 啼蛍ハ蚊のすまふ門かな　岩 牛一 十六

○蚊柱に一すぢ高き嵐かな　京 永治
蚊の声はうつゝの床は姫かな　同 正直
○蚊にふけ添てつくみ寄る蚊帳　同 重利
名もひとつ同じく柏の生代の　[redacted]
○昼顔やよせくる蚊やらぬ風　同 守貞

蝉

夏は先に声く出まてや草物　京 意敬
鳴つくは声めしさうあて蝉哉　同 守親
地虫さへ今宵を出てや蝉哉　同 政公
衣着て声よむはせし法師蝉　当 光育
風薫る楢の蝉やきやら哉　京 重方
声あはしるは涼しきせミ哉　同 徳家
生絹そとい大きな柏や蝉哉　同 宗房

水鶏

波うてはたゝき今宵水鶏哉　当 利清

鵜飼

咲もうやくらせらく魚を志まする　堺 一得

流れ行は鵜も笑ぬなる数は鵜も　堺 弘永
おもしろや宮は鵜川の沙川　仁 徳元

鮎

○鮎なますも蓮よりもさき菊なる　同
糸ふれてつるは柳の葉魚かな　京 昌玄
おそれつゝ鮨の鮎とや蛍かな　同 重供

菖蒲

○引人のなければこそまもる菖蒲　堺 正友
菖蒲刀見られは錦もや波のくら　堺 宗治
菖蒲刀あげ柏にかゝる軒かな　京 守供

水草花

きてやかんさいの花つくありや　京 休音
水草ゝたはれはかなむ花の色　同 宗卉

若竹

醍醐西月満りて
竹の子は水が減　大坂 宣存
海行のひふみしる今年　堺 弘永
きのふ指を竹のる子かな　山 光育

ぬけ竹ね皮らしてなる哉られ　山口 宗仁　三

どこれぬやと年まろ竹から　堺 真之　三

根生より大名弁の子也けり　京 定数　十二

すゞめ子は大名竹の小性　堺 宗二　二

よ□□□は竹なかき　京 守貞　十六

竹の子や世の中の□もち　同 重方　三

立の海の子や焼弁の枝杯　堺 正之　三

子たつといふ大き竹の衛門　同 貞盛　十二

雨露や竹の子ども地黄菜　紀伊家　百八

竹田なる竹は伏見の里子哉　同　百九

さ□□ふ法川立竹の子哉　京 正平　十二

玉をさえにまけてぬるや赤□□　当 利清　十二

竹の子をぬむもふときんぶ　〃 光有　九十一

竹の□□や面影薮たけ　□ 宣何　八

新竹の子をみぢや五月闇　京 重方　□

早苗

さくて植へ手足もさなへかれ　光友

五月雨

□□□雨は海もまた□の綴り哉　滋元　六十一

五月雨は絶り庭も沖かな　京 昌宗　七十四

五月雨は塀の庭なる床も池　日 所竜　一

五月雨は河内も□□□□池　日 守教　六十九

五月雨やらん杭と名は岩根　当 由之　十七

五月雨や□ぶ蛙も□下　[illegible]　十八

五月雨は鋼屋も水鶏かな　堺 茂友　十二

五月雨やどれと見むまで川柳　日 貞盛　二十二

五月雨の晴間や龍のけつまり　日 宗二　三

五月雨やあれし淡水をりも□　京 正章　十三

五月雨はこいやそひも万里が流れ　当 正利　十四

あらなみる舟や渡船も□□　五十 利忠　一

五月雨は内へ□□ぬ人でもなし　京 重方　二十

放てる□□□れの板屋　山口 正利　十八

出やこびれよりられて鳴や足駄　堺 盛政　□

□□□　京 光守　□

上 上 下 上 下 上 下 中 日 上 下 上 中 上

宗川角や戦場渉の太刀かし　堺 信勝 一

西の町…もち…れ　堺 弘永 六二

五月雨や…にのわるみ…　山田 清友 一

梅雨

ちる…や…漬梅の　京 六麿 一

常にはおび水されやむめは雨　堺 守直 一

青梅

あをめる梅やすき…　京 重方 二八

枝なる一夜を越されれ梅法師　堺 弘永 六二

梅干を…みなれ梅法師　堺 賀勝 一

まだ…やうのいる梅法師　大坂 静斎 十三

ちる…や編白の梅法師　京 継ふ家 百十

大小のある青梅の暦かな　京 昌忠 八

經夜

經被をひきのいる鉤…　京 忠也 九

ぼしの被ハ実竹の子…　新町 一正式 六

背鳴の月も…　七条 [illegible]隆 四

下 上 中 日 中 日 上 下 日 上 下 中 下

夏の被ハ蚊ぬるちやぞのおり　京 重信 十八

夏月

夏の被の月見る凝や…　京 継ふ家 百十

雲…そはまつれ…月　京 正孟 二八

月東の月ハすぼまぬ扇かな　堺 同 二九

めぐる車…月見…夜月　堺 家二 四

經被ハさゝるもたて上月の舟　京 一正次 一

經被いろもあれな月の舟　七条 守政 一

月の満ちめぐるハ扇車かな　大津 家連 八

末月ハかのたされぬ扇かな　京 守信 九

ゆき…波…月や唐団　継ふ家 百十二

…もたゞ込む月の…　堺 盛政 七

…夜の…月の舟　京 重信 [illegible]

明 … 年 八月 日

条

一 …絵島もなふや…松　肥前 [illegible] 一

右書東…毛や…　同 二

左…八…山のおひれ　京 [illegible] [illegible]

〃 ますゝかたこのとより祇園の　泉 雅考　十

まつりだけなる江戸山王祢のか　堺 蝶文　十三

ことしはさゝらハひやせ祢祭　四十三

郎等やせんき海ちくらて　漱元　七十二

中 乃ん稲やさそ小太刀鋒乃さき　山田 利清　九

瓜 付小角豆

上 瓜ハ父人を老やせる清水かれ　樹元　六十三

〃 大和ゐもうりやなすびの二また　堺 弘永　六三

〃 〇似た枝そ三ツふたつ川ニ瓜と瓜　京 道春　一

〃 淀るや老てひさごや金まくはうり　四十七

〃 姫うりは其姫瓜の肩つかみ　同　四十六

〃 名にめでゝちぎる計そ姫瓜　漱元　六十七

下 清るみの根の柴ハ姫瓜のうき小　京 宗敬　十五

上 家人もいうて行よするやぶさきさゝげ

晝貌

乱るゝわれと芸廓かふみるもちず　堺 弘永　二十七

中 晝皃も猫の目でさかれ花盛　京 一正　九十八

夕顔

中 〇夕顔やひらけハ見ゆる戸口さき　京 重敬　九十

上 日盛けて夕顔咲も花盛　同 吉綾　一

〃 〇夕顔の花でけふくれあからさま　同 宗虎　三

蓮　直下にさかる蓮をみて

中 手折ても手ぞいふ浮世の蓮かな　京 永治　十六

上 蓮池は生き中咲の花貌かれ　堺 弘永　二六

人の母乃追善に

下 母あると同じ蓮の對座かれ　京 道二　十一

〃 盛かく胸もひらける蓮花かな　京 隆　五十

上 見る人のまんなかの蓮哉　堺 弘永　二十六

下 花の科ハ何乃たちそて風の翠　京 寸　七

〃 蓮から二種かゝりて佛の前　同 鳥宗　六十

下 心同の紅や前もつ芸　巴隆　六

〃 みる蓮の佛かれ　山田 光有　九十二

えるん見る芸るのかなさ　京 永治　十二

一皆 一枚

遊鶴や花も西之　継之弘

大暑　冷酒
清水のきれめに
の月きくゝまゝる

上　夕立に行かふ人も天気かな　京　重之　二六
中　夕さらや三日月の肉のでかし哉　〃　道二　十三
上　夕さらやかる村雲の調子かな　堺　貞盛　三
〃　鳴神や夕立雲はたらくて見　〃　宗治　八
下　夕立ちはさやかなりあれや雷ならぬ　〃　渓充
上　夕立のなかるゝや氷りしき　〃　[illegible]　二
〃　夕立の豆やいつくも甚名がり　〃　一木
〃　夕立の切捨られやの釣り哉　〃　重雄　一
下　夕立にぬれてもとぬるまま嵐は　継之弘　百七
上　夕立は雲に流れて白鷺かな　〃　庚伽　一
　　雨一句当世の悦小　〃　光有　三
中　夕立の雲や涼しき水おもも　京　政公　九
上　夕立と清水もたる松かな　〃　守利　廿一
　　　　　　　　　　　　　〃　元綱　一

扇

上　何事も扇にすけば物白かな　〃　徳元　廿三
中　秋風よ渡こう扇の地こそ　京　玄札　二
〃　六月も雪の姉ぐさに扇かな　〃　政公　廿七
上　小扇は二親骨を使う哉　堺　貞盛　三
〃　やぶれて風と風とやうちはかな　〃　弘永　六七
中　涼しさもぬる扇のなかめかな　〃　宗治　九
〃　六月は扇をつかふなかれぬ哉　京　一匹　三
上　あふぎぬる風はなかめあはれかな　継之弘　百六
〃　○河内の月をも尋ね網代の団かな　〃　同　百六
下　夜は扉風をめはたらく扇かな　京　玄守　六
下　風そよく小川をまるや扇かな　堺　一匹　八
上　風のもとお社は抱ふ扇かな　〃　一匹　一
　　さそひ出おかれもけさは扇かな　京　守次　一
　　小暑月をもかちち　〃　守方　七
　　涼しさにいてまふ扇かな　〃　忠也　十
　　奉書しよし涼しさ扇かな　〃　政公　三
　　体如左

一 五月

〃 五月雨やよ[illegible]　京 貞[illegible]

下 [illegible]扇を流るゝ手[illegible]　堺 貞盛 二〇

中 [illegible]の浪[illegible]ハあふき[illegible]　口 弘永 六八

上 乳[illegible]とておもんぎんの扇かな　[illegible] 元次 三

香を留て蚊を追払ふ扇かな　[illegible] 宗朋 六

上 六月ハ風のちろやふるあふき　京 永治 十七

中 [illegible]風や扇の[illegible]　尚 [illegible] 一

納涼

〃 [illegible]葉てハ汗をこぼりたゆたさ　[illegible] 豊隆 七

〃 涼しさや海を入たる箱根山　[illegible] 他流 一

上 目ニ雲やす[illegible]いもこみと汗拭　京 永治 十八

〃 [illegible]めくられ[illegible]の袖のゆき　口 正重 三三

〃 二川[illegible]のあ[illegible]　[illegible] 正章 三三

〃 汗[illegible]ハ暑さ[illegible]ゆむ[illegible]　江戸 淡元 七七

〃 暑[illegible]も[illegible]日[illegible]大雨中　[illegible] 康庸 二

下 卯にけのなるもせく清水かな　尚 竟有

〃 [illegible]別山田の里一毋[illegible]

〃 夕涼ミ里一志乃濁りや　俳[illegible] [illegible]

上 舟の帆や色も涼しき[illegible]　[illegible] 宣阿

中 あれ三日月や[illegible]川流　[illegible] 淡元 六八

上 川[illegible]ハ先涼しと[illegible]の風　大坂 梅[illegible]

中 信[illegible]涼しいち[illegible]水　[illegible] 静寄

〃 水[illegible]涼ても[illegible]　[illegible] 淡元

下 夏[illegible]日ハ下[illegible]上戸のひ[illegible]　[illegible] 信安 三

御禊

中 夜と秋とおもえ涼の浪禊し　法 以一 二

〃 [illegible]禊川[illegible]清めてや[illegible]　[illegible]

泉

上 [illegible]ハ足も入ぬ泉かな　京 正依

雑夏

[illegible]や[illegible]に大雨中[illegible]けり　尚 宗竟 一

気づ済宗に悦や一つの風は後れ　重頼
わ守一のやゝり退居に　円
ゝる御の神は出開帰
自ラ長ス歌

上 一ふたつ出の小鳥も出まはり　徳元
あの緑をとは滋宰や君　京 正直
中 草ば々に開もふく稼ぐか　未久
古開小入日蘇の根をはなて
中 具寝寝妻乞出は根文葉に　季吟 可

京重頼 五十九

毛吹草題目録

	初秋	桐	妹螢	露	朝顔	桔梗	薄	鶏頭花			
秋部	七夕	秋柳	秋蟬	霧	木槿	萩	苅萱	芭蕉	稲妻	鹿	鴫
	一葉	秋納涼	捨扇	荻	女郎花	蘭	花すゝき	桐樸	秋田	雁	鶉

窟上 散一
名出ッ
足下壊包

		刈	色葉	澁鮎		初冬	霜	雪	埋火	鷹鳥	冬梅	年内立春
一秋寄	名月	蔦	名木紅葉	紅葉鮒	冬部	時雨	霰	氷	炭竈	神楽	冬鶯	雑冬
碪	十三夜	楓	木實	雑炊		落葉	霙	冬月	水鳥	冬菊	歳暮	廻文之句

毛吹草巻第六

秋

初秋

目にみえぬ風間はやしも初秋　堺 安和

秋来ぬと世にふれ旅文月哉　堺 弘永

文月は上書けりやふみの秋　京 宣重

七夕

たなばたの孫物語や星の数　京 意敬

雨天はあまりきれい　京 重頼

須条々ある哉なかよひ乃二星　堺 弘永

ちぎりかはる男七夕姫めれえ短冊　当 望一

それ／＼と織や糸ひの糸合　堺 宗治

いもん七夕姫めや縞乃姫　当 正利

ことをお立ハ星此光　よ此命ちらぬせ天川　継者

○同　はつ秋を始りけり　萬立　十一

忠々桐も萩や露乃玉
こぼる櫟の一葉や混圓

下　風の都や一葉乃舟をみし　永次
上　一葉の舟書道や秋のせ　康真
下　一もみや嵐乃風乃まくれ舟　重雄　二
上　一葉かや網舟とれる蝶の糸　一正　三
ゝ　一葉の舟おきとや風見草　元弘　三

桐

中　風まかせ吹るを折る桐一葉かな　継者家
　　桐のはも波分かけて一葉舟　光有
中　升の水ふかふかと浮く桐の一葉かな　心之　十二

柳

上　ちる地ももちれれ萩の糸柳　徳元
ゝ　秋風は来して眠るや柳髪　守種　一
ゝ　船まて八金の糸とこゆる柳かな　春可　十三
　　秋風の口に吹ふさ柳かな　正平
　　　　　　　　　　　　　　　正章
　　　　　　　　　　　　　　　忠也　十一

上　うき秋とさふら落る柳髪　弘永　七一
上　葛城や散れは柳も神姿　昌意

秋涼

下　涼めとそよぶうちはたく秋扇　秀重　三
上　夜あけさむ涼しまや秋の風　長好　一

蜻蛉

下　まに添ての葉やとんぼう　玄竹　二
ゝ　尾花もあしや秋まてとんぼ　重信
　　また見えはけふ秋の田の蜻蛉　重方　六

秋蝉

下　秋の蝉は宿借の時雨のれ　昌意
中　はまのり琴は蝉と蝉　安利　二

秋扇

明　蕾てもうぬ扇桐撲われ　正武　七
　　かやさいまぬ升そ風の口　正長　一

勧情磨自り
罷者宍鶴念懶放ちぞろや露の玉　徳元

中 下 〃 中 下 〃 中 上 下 上 下

遊君よ

さゝノ休むけぬ日も神代哉 京 重頼 三

きのふや先咲花の草むすひ 同 政公 三

遊君り

庭泊さ古川の水の神乃縁 京 永治 十九

剣先き三ケ月見るや露の 光重 一

露草やむかしの花の上水の秋 堺 康其

霧

見ハ丈霧とも残るや風袋 京 重頼 三十八

霧の海よ立白鷺や波 同 道二 十三

留主ハ磯とやいや理り霧の海 同 重方 二九

風の上れ座ふりや霧れまくら 同 正信

太あどよ指てせく霧かな 同 正直 三四

萩

薄ハ萩字ハ萩ふ似て萩よ 京 昌之 四十二

たかふりかげさや萩の風 作者不知

涼ハ萩のあとに折抱や涼れ哉 同 秀重 二三

上 〃 〃 上 中 上 下 中 ● 下 中

秋風の口まねするや萩の声 卯之一 二三

そゝのかされて風ふや萩もそよぐ 同 正章 二八

涼皇の風非ふるし萩れ声 宗房 二八

朝顔

あさ顔や只古へ時を花の盛 堺 成政 八

朝顔の花乃すえや赤ら良刀 京 永治 十九

ひさご顔や一日勝のあや丸紋 徳元 十三

朝顔ハあさえあしの盛に ず亦 八

あさがほやるさのくさる花 重貞 三九

朝顔ハ只魚れ中も細顔に 國政 六

木槿

露の玉れ冠いくむくげ 京 重方 十

花れ顔もむ白きむくげ 同 教之

女郎花

いう花の姿あもとうなし 堺 政公 三

しおるゝ流の女郎花 同 弘永 三

よこハ女郎花ふそんなし 京 重教 三七

〻 嵯峨ハ八幡乃肉かをんなヒ　堺 貞盛 二十八
〻 こゝにちりしとや放下の女郎花　同 正甫 七
〻 [illegible]章[illegible]めかしく見えぬ也　京 宗札 四
上 羽衣もおつるや放下の女郎花　山田 光有 九六
〻 草ぐさや下子女郎花に上﨟花　京 昌意 四十三
〻 男山のつもとあれや女郎花　同 定孝 八
上○ 見ん人の腰打ぬくや女郎花　同 正章 三六
下 雨露は此辺みるつゝの盛かれ　堺 弘永 七三
〻 女郎花京女郎や宿の花をも女郎花　京 宗房 二七
下 女郎花おほむかふ山や女護の嶋　同 定重 九

桔梗

〻 咲花のさくやさくら桔梗笠　京 吉政 八
上 縁乃桔梗とは花の一重かな　九

萩

見吉野の萩と
下 草かりに秋かさき所や見吉野
中國の風も来る命かな　京 昌意 四十六

中 名やすゝ枝ハたつの萩の花　堺 宗治 十一
下 一年に咲かれ秋の花見かな　京 秀重 二六
上 萩薄あちわら草ありやせ　津 宗除 三
中 秋風やはづえに藤の花衣　都山 正式 八
上 萩の錦あやめも見る袖哉　悦知 百六十
〻 ちとはぎれたるころもふたつ〻　同 百六
下 萩も〻風のいざけつ小萩かな　一本 三
中 贈物ハ見えおとしの小萩かれ　堺 宗治 十九
上 小萩をハかざらでも那分かな　京 正章 三六
下 仙人や海よりむ白き萩の花　同 重方 三

蘭

上 山ハ錦野ハ金蘭の花見かな　堺 弘永 七二
下 さき数ハ芳浴とぬくきの蘭襟　京 昌意 四十五
上 そみさ〻にありきしおて蘭　周防 康甫 三
下 [illegible]の枝ハびやくだんの香襟　宗朋 七
中 りやしかるらんらんの花の　堺 宗治 十二
〻 むろ出て咲やまた口蘭は爲　大坂 近依 一

中 あち馬場のひろ所や去稼　京 正速 三八

上 名にし美君人をよけつ糺かれ　日 昌意 四六

萩原 薄

中 かつ人の手を招くや薄かれ　山田 正利 七

下 穂ふかぬ間ハつぎ袖の尾花　京 親貞 一

中 出る穂も袖ゆるれや薄原　日 梅盛 十二

上 尾花さへ袖まくりする野路かな　岡 光元 九七

日 秋ぞ見るしや花の旗薄　京 昌意 四七

中 風の手やかつ招く京薄　大坂 廣則 一

下 風ふけハ涙乃袖の尾花かな　似云斎 四七

中 秋風に露や薄武蔵野の　同 十八

花すゝき

源ふじ京にそふ花すゝき　京 正速 三六

うつらの上出ハ尾花も招かれ

芝萱

ぬらうとや夕みまへ蛼焼穴

秋草かな　京 重頼 三八

中 咲あふ庭や仙郷仙翁花　山田 忠尚 一

中 名残しや志んらしさや花の良　堺 貴慶 十四

日 合ゆや鬼の志き華まへす草　京 守貞 二十

下 小車におもろ油も花のつゆ　摂 信全 三

日 またれしとみよ小車かもの露　堺 正甫 八

上 風の手ぞおち小車かもの風　山田 正利 十六

日 蝴蝶もやのりて居眠駒つなぎ　堺 弘永 十五

日 花をと嫁とやいはむ駒返る花　京 宗積 二六

下 花をと見く小角ハむちも駒つなぎ　日 昌意 四六

上 むさけハ人やらひざけ思草　日 宗房 二七

日 風ふかバニ久花野の扇風草　尾 宣附 十

下 花乃みハ船心えぬ人も守　京 意教 十五

甲 廣き野もつまい花や花芒　岩田 光元 四六

上 花莚まうちものより船かな　日 正利 十九

日 武蔵花野や遊人の花畠　日 布二 三

中 いかにのぐきとぬ花野かな　京 梅盛 二

上 すゞむをと今の草の袂かれ　似云斎 二九

下　霧ふかきは風によわるやすまひ草　伊勢山田 幸次　一
上　幽霊もおもひそれるすまひ草　山田 光政　一

芭蕉

中　葉の数ハ骨ある芭蕉は扇　京 重貞　三

相撲

上　力かこむも利生勝相撲　同 通元　六
口　名をふみてまけたる家すまひ哉　同 信安　八十

踊

中　足を先ずハ勤を干すまひ哉　信安
上　まくり稲子をどりや拍子拍子　兼宥　九
下　中に居る女や世をおそり　宗守　十
口　後の世もめぐる紀円をとりかな　重供　三

稲妻

下　稲妻ハ雲の衣の綻かな　京 昌意

妹団

上　山田わりる傍のや廉の坊　作者 宗　一
中　稲妻のかよひてたるむいなびかり　勝　一

虫

下　と聞きて刈ぬる稲やいなびかり　山田 光正　二九
上　まとにおどろく稲や稲穂　日 正利　七
中　虫
上　鮮きに理を風も虫の声　信安　七
下　虫は秋のまよむ虫ならぬ　京 正章　三
上　確去に耳ありとやならぬ声　日 昌意
下　鳴虫の声は夢や夢の世　山田 守一
上　物思ふは秋の虫の泣く　京 重方
口　きりぎりすをおめてや古つ　一正
上　こうろせてや鮮ひのそこに虫の声　京 政昌
中　声ぎてにまるはむぎきり蟋蟀　政云
口　まさに次第よ声のされくを　日 常久
上　秋の耳に鳴や鈴のきまてを　日 利忠
日　さわりの名をおのまとよふや蓼　友守
口　さうくに枯を告るや夜の行灯　常久
　　野虫や小萩がもとの筒まつ　作者 宗　二八
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　堺 一正　三八

鳳乃巾此文字を使ひ永久かれ　京 重貞 二二

鹿

鹿や秋の声のまの母て男かな　京 秀乃 二七

鹿の声も書におもしろき女鹿　日 永治 九一

萩乃錦見ていふるや鹿の声　日 昌意

みけしきにあうことおつる田中かな　堺 弘永 七六

鹿の声やまぐれも寄小向かな　日 宗治 十三

鹿此ものの里も射つかの月　当 光之 四十

鴈

みさそいかすかしけ鴈字かな　京 宗有 二八

後来る秋や雲にかりかな　堺 弘永 七六

数あく戒かりのや文字文　日 昌意

落鴈や雲の袖よりかと文　京 重方 三三九

便宜せよものこ文も見ぬ津　堺 一正 二

あかりかかるふ迎やかさこ翁　大坂 玄康

たへ形雲井此鴈八細字かな　京 意敬

一正章　日

さかり字ら同し形のなまり　京 重貞

あさまこほれ行や月付字てかり　作者不知 成安

ふかけり鴈かりを九雲井かな　堺 乃貴

早く流れ雲の梯さ津鴈　京 重方

きらあうや文字さきりの紀津　日 弘永

ちらりや一字一点さ津鴈　堺 元弘

そのれや作り字あん天津　日 重方

月もあるく鴈さや棹の声　京 昌意

あれとされひい鴈書字かな　日 弘永

その手さ羽くこ芦あれやさ津かり　京 重貞

月さらの色文といそん大津鴈　京

色鳥

罕かも鳥も阿とる山路かな　堺 慶友

鴫の路人小沼の小鳥かな　当 光之

秋来るや名さへ翁さへひいな　京 秀重

鴫

人のよそ手かく鴫やさは近くひ　山田 光之

中　遠へしかぬ鴫つき細き目方量　来　春可　十三

鶴

中　真野のうらと　堺　宗治　十七

日　あけくれの真砂の入江の鶴かな　京　永治　廿六

下　ちくは嵐くいゝまう鶴の声かな　日　昌玄　廿五

日　鶴は秋風は秋乃日の鶴かれ　日　重供　廿三

上　秋もくまるとふけこぐ千鶴　似吉　十八

下　都人鶴ゟ見たや京の鳥　肥前　元　三

鷺

上〇　郡を居すへまあへる鷺の声　京　宗舟　廿九

中　指さる鷺の月をぬふ女かな　日　重貞　廿

秋雁鳥

下　月の内も遅きはかなる小鶴かな　京　秀重　廿七

下　もはやくもあふや刈田の鶴かな　[illegible]　廿七

下　草州で　神のころひもう川端かな　山田　弘長　一

上　たくみよせて浪も千也水か　空　遠元　廿六

月

上　なか月闇の雲にあくる秋の水　京　昌意　廿六

下　浪よて八輪遠き吉や好月　日　正章　廿九

上　新寺の夢無地にもわたり月　日　重頼　廿九

吉　秋に此字月いろはにの字　堺　弘永　百廿九

中　天の戸のすじ物さよ三日月　山田　光卓妻　二

上　おんもちそ九かん月の良　堺　一正　廿十

日　大さく小にかかふや錦の月の　日　貞盛　廿六

中　差の秋のあつひを惜む秋　日　宗治　十六

上　かくまれや鉾て白う名月　大　遠元　廿七

日　月代の地も向てよ天川　山田　宗重　廿六

中　月新ふ二人清まて初ご人か　堺　弘永　八

日　月の入天の岩戸ふ鏡かれ　武　素可　廿七

日　月の舟沖をこいぶる光かな　らず　政次　一

日　指はしも帆にを掛や月は舟　京　永治　十二

日　秋もあきんみあげこおもての月　日　正恵　三七

上　月見とて人のなやみやあふ蝋天　京 正依　十

同　水に新たる物ありや月けふ　宗府　十一

下　月影し新に寸る見合念の月　京 道二　廿六

上　月ならの村雲けづる嵐かれ　同 玄竹　三

同　西山のあなたや月かくれ里　同 政公　廿八

下　更よりやもちろるま水に月　同 意敬　十二

小野小海ありて

下　忘れていらそそよふ小地の月　京 昌意　廿三

景色や新さいえる月の宿　作者家　廿八

上　月に桜雲に祈むかめの宿　京 乃二　十五

下　上も下もぶかいや水の月　泉 宮春　六

上　まさらひやかみ白き家の月　大坂 郁芳　十五

中　みちのくはあこうに待月影　京 宗房　九

上　廣沢のひろさかひ見て月見る　京 重正　一

上　たびの宿る月も生き残る月

中　月かけの遅さは面や木形門　大坂 静斎　十七

下　月の輪は角に入る橋の水　山崎 光堂　二

中　おもて月は天の同光かれ　山崎 光秀　一

同　月影をとはるぎ夢は花の流の　京 重貞　廿六

上　出て月人の心やたまげ舟　堺 弘永　八二

中　月影ゆく月影にて泉の毎　京 重頼　八十

「飽きしの後別小

△　駿河文のかずせられより月　作者家　六十六

上　月かけは波の打つ鏡かれ　同　六十七

同　月なら小町の雲や小松の波　同　六十八

同　東風水に浮れ来り打ちし　堺 成政　九

同　武蔵野てみたる月や鏡かな　宮府　十二

同　月ゆへよあちら漆子の紙や河　山崎 里一　廿六

同　ちぐらに悲も打ちし月の奥　同 正利　十一

中　文月の字書こそみて幾代も　堺 守吉　二

同　梢から水の月影蔭に　京 永治　十三

上　濁りや川重月の奥にし　同 吉政　下

出　夜はたゞ雲見えたる月　同 正恵　廿八

吉　雲にあひて入日に宿る月の奥　同 宗彰　七

中 越後路や爰にも月の白兎　伊伯　一
上 十五夜は中に月見る雲ゐ哉　日 知元　一
日 雲月ともまた人とれまぶしさ哉　京 政雲　三六
日 天の戸をあくるや月の輪かけ哉　日 正依　十一
上 二千里も一目や月の鏡山　京 専次　一
上 月や鏡千すらん人の新らし　京 化応　九
中 天夜すらふかけもうらう此月　京 貞義　十
上 大空の月を不肖とみそ空の月　京 梅盈　八
日 月の舟ゆくへ所てすくれ岩乃月　堺 一利　一
上 玉殿小海もや月のあとかた　日 一正　一
〇中 名の月ハ世界乃あんとうか　日 國良　一
下 風波秀雲の月の舟あゆ　日 就次　一
下 月と日ハめくる車乃両輪ハ　堺 宗喜　八
日 山の宗と云かさ此月かくれ　京 昌意　全
日 月と月ハ此かのひきうて哉　日 道二　去
上 めぐる盃やなさうてみゆる月哉　山城 宗盈　十
下 見ぬんなる月ハあかむきの兎ハ　林 信全

下 上ほあと下はふこるや氷の月　京 重供　三十三
上 雲ハおほぢ名月ハうらみ哉　似宗家　四十
日 池水の面をさくも此月の庵　同　二
〇中 村雲の袖をかさして月は賀　山田 後文　一
上 てる鹿やうなづく月の鏡かな　堺 貞盈　二十七
ゝ 山へ舩のおるとりや当今の月　同 成政　十
下 満月やさぬる雲の常車　同 正甫　九
日 帆かすめよしり来もは月哉　京 意敬　十七
日 月ハ鏡も先まゝりけりさて輪ハ　阿 重方　三十六
〇上 名月人のおほ月もさむ夜哉　日 正依　十二
下 広く空にかみてあるやうの月　同 宗定　十二
日 さしめくる月もや人の月乃葉　同　二十
中 月ふ雲はらひゝかくさ夜哉　日 永治
中 友達のひかるゝ中をまて　一
日 引連て又きくみ光や月乃友　堺 盛次　一
工 月の鏡よぐれあかきも光なれ　同 貞盛　二六
日 更用るや世三致の月乃月　京 吉林　二十

上 寝すがらは櫓や月の内ぐるり 山田 正利 廿三

上 弦かさきをとゝいふ月かな 堺 式竹 一

中 都でかくや古今の花の月の笠 堺 成政 廿七

上 黒雲は桜の虎ゝそ月の鼠文 山田 正昌 一

日 氷に逃き楼臺や月の舟屋 岡本 康庸 四

中 はれとても小すめる宵の月 堺 弘永 八三

丙 月影と雲れてやむしやう正閑 京 定貞 廿九

中 月影も冬てうみまく星月よ 京 正甫 十七

上 過さあれつ雲やあやし月の舟 京 政公 廿七

下 ぬる夜はとあうは月の鼠穴 小野京 宗朋 八

中 月見舟や浦鴎ぐすすむ若 大坂 辯昔 十八

乙 いとかぶ月の兎のくゞり坂 京 忠也 十一

下 天蓋とあれそいそぬ月の笠 同 昌意 卅六

上 月の鮭気もや水と宿所 堺 一正 四三

日 鹿鳴之まゝやいかむ水の月 同 貞盛 二九

日 はり舟の花ハうつらふの月 早 滋元 十八

下 三日月ハうつる花のつぼみかれ 京 重方 三七

上 何まで又はぎ見みてぬや月 堺 弘永 八四

日 御よら山のかひさせ月の舟 紀州 四二

日 天の戸の月やさ気ら車鏡 同 四三

日 入山のうさや月乃鼠穴 山田 重雄 廿

中 雲とはこひ月やおも渡する風の 京 清長 一

下 関よりも人の道や月代かな 同 友勝 一

丙 よそ人の目も張らうる月 京 昌宗 廿九

中 文月やわけば舟に御光 高 伊伯 三

下 月舟やゆ一入となる雲の波 京 道二 十七

日 十五でさひをそれや月かな 同 重方 三八

△ 追善入

上 入月や早極楽の西しや 山田 道一 二七

日 和田の浦めぐるや月も車舟 京 宣時 十三

日 う下のもちびも別れや月 堺 貞盛 廿九

中 二ふつれもかし文やもち月夜 加賀 可櫻 一

上 男気もうち月てふ櫓かな 堺 一正 四三

日 月ハ宗鏡ハ三千世界かな 同 弘永 八六

上 一月かいくるも名月数られ 堺 弘永 八二
上 文月どゆふ氷川の雲 松坂 吉弘 八六
上 晴る月や嵐の花まとひ 兵庫 宗朋 八九

名月

中 今宵月まろうやようつ哉し 大坂 辨玉 本
口 三光と浦あらし月代と宵が 京 重頼 二一
下 うそ月の新ビと宵八月代光 京 昌意 六十
上 名をどうかはいらぬの稀の晴ち月よ 堺 一正 四四
口 去年みやまんなご年ぶ清 同 弘永 八七

安藝國ふ床ふ在よ 同

上 三文殺の中國一そ安藝清月 当 重一 八八
口 なるかよ兄代来代の秋代月 江戸 常久 二八
中 明代のかたれ我ちんと宵が 京 正運 六
口 名月代秋い相月夜の月待が 口 重郎 三九
下 月に星肴晴うての月と稀が 堺 守供 三三
上 あよひ月九乃字ふてんの詠が 同 弘永 三六
上 あん二鳥も今やふらむ中月よ 同 弘永 八九

上 名の月世負ひとも見志らぬ今宵迄 作者不知 三三
口 見くれそよまん月の今宵哉 堺 一正 四八
口 お名も只元日まひそ月世負 京 正章 四十
下 月さへ捨名あれやそふ代月 堺 正甫 十
口 名月八月日生さへなき詠れ 京 道二 八
上 名もと月の負ひよそなゆり今宵 作者不知 四八
口 許よむや田舎世代秋の月 同 四六
下 武蔵野八そふかあけそ秋の月 口 重供 三六
口 印月の輪をそふうしや稲運 同 正平 六
上 照る月代男ぢゃりかのひ 京 宗甫 三
口 月今宵白雲ぬげや宝珠 江戸 豊隆 八
下 武蔵野の影もひなれやそふの月 京 重供 二六
口 どても名よたいかゝるな月負 当 光之 四八
口 名月八餘の精見ぬひかり 京 宗房 三三
上 薄くのかの月やまま冰晴 作者不知 四七
口 あそぶ月をあすやひとう天 京 定時 廿
下 月まかひ氷精輪の詠八ゝか 大坂 安明 三

下　月の名ハ空にしらるゝめかくもれ　京 重方　三九

十三夜

上　空よあけて廿三夜の月見かな　作者不知　六六

り　月くれ中より栗名月見代　堺 一正　三六

下　名ハせゆふあまのひの月や友達　京 秀重　二八

住吉ふ海いりく

上　菜てあるや月も寳の市　作者不知　一〇九

日　枝大豆ハ今宵月毛の馬草代　同 瀬元　六九

菊

下　新酒よ世ハ楊貴妃の菊の酒　京 昌意　[illegible]

中　露よひさむ菊の渕もや武蔵川　同 正直　三十

上　人くは慈そ法の菊の渕　堺 弘永　四十

中　命ぞとう八重陽菊やおり星　京 重頼　三三

下　身をあげハ秋いきぬべし菊の渕　同 昌宗　[illegible]

上　名ふ咲ハ九日の星ら菊の花　同 正章　三二

下　菊酒の下戸と上戸ハ渕瀬かな　同 秀重　二九

中　一本をゆひ重陽菊やそくさ星　山崎 用久　一

上　愛敬や移ろへくまちぬおとく草　作者不知　五十

中　菊ハ秋あくとせん家の盛哉　京 貞義　十一

閏九月入

下　重陽ハ去年やなる哉重ね菊　堺 貞継　六

中　よは菊の枝ハ切とも重哉よ　同 國政　七

日　一方もさけ我菊の花の数　同 永次　五

上　さらぬ名やもうふたゝび菊の[illegible]　京 正章　二三

下　大白のいとよりら菊の花　堺 治連　一

下　雨露の恩深きなるや菊の渕　堺 正甫　十二

上　潯陽の江ヶ糀く比菊の渕　作者不知　五一

日　芳の種の綿をきせぬや草　京 宗房　三三

日　一色比花の瀬ごしや菊の渕　作者不知　五二

り　塩て渕とうつむたぐひ菊の[illegible]　同 正章　二三

日　我我菊の縁ちぎる[illegible]　作者不知　五三

日　花ハ渕にある名ハ大瀬その菊の菊　同 宗房　三〇

下　明星ヶ出ける菊の花　同 昌宗　二三

上　ますます糀くせても菊の渕　堺 弘永　九一

蔦

笠松の紫やなれや蔦紅葉　山田 易勝

手を揚て猿ハ小猿や古蔦樹　京 宗房

楓

めさるるハ風ばへなし楓かな　京 永治

遅く咲くへに色や果報楓かな　同 政云

通りけり時雨と共に楓かな　同 重貞

色葉

七しほの楓ハ世のいろはかれ　同

打むかひよむや紅葉のいろは歌　京 重供

ならひ置とあれハ寄よる紅葉哉　同 道二

みわたせハ千代いろはかれ　同 永治

たがはずもちらぬ山のいろは哉　同 宗隆

ちりぬるをいろはと讀む風の声　同 宗頼

いろはをも習ふ紅葉桜かな　堺 永政

山かつの字もしらぬいろは哉　京 忠也

風の手もいろはのはやちらし哉　堺 正次

毎露ハ本も紅葉の染遊哉　京 定重

名木紅葉

花見るや猶も紅梅の初紅葉　[illegible]

山風よはぐるゝ宮の紅葉哉　同 昌玄

風小かやとまれ楓の村紅葉　堺 弘永

葉ぞ秋の名木ハ深紅や梅もし　山田 光有

秋の来ぬ名所もあり楸かれ　堺 一正

名にめでぬうでまき紅葉哉　京 政云

時雨てや紅葉せしめの深の　大坂 玄康

色あさきハ梅ぞめの紅葉哉　堺 吉次

すりばちき桜の紅葉哉　京 昌意

深山ハ錦きた木の時雨哉　堺 弘永

山王に山乃紅葉やさるすべり　京 道寿

紅葉

あれとハへ見るや詞に紅葉　京 重頼

竜田河よ人なぐる紅葉哉　同 永治

赤うそめてぞ木葉の時雨哉　同 由氏

上　紅葉せずとも山ハ山なりさ二しき　京 忠也
中　山ハ二しき又はみちや村紅葉　同 重貞
下　紅葉ゝ浅ひぢ染られや龍田川　同 重方
上　見るがきるやおもてうらの紅葉山　維舟点
下　山ハ南時雨の縁やうすき紅葉　[illegible] 利邑
日　山姫や赤地錦を身はなさず　堺 元弘
上　水にうつと朱にまじはる紅葉　維舟点
日　織時雨も重ねて紅葉　同
日　通りかけに時雨や染て薄紅　[illegible] 正章
中　見ぬこゝも錦ふかるゝ紅葉　京 信安
日　紅葉てハ山の地らは赤熊かれ　京 貞義
日　旅衣とうす中かゝぬ紅葉　同 重頼
上　紅葉たハ秋をたゝぬ染かな　堺 弘永
中　紅輪ゝ許り紅葉を移せ庭　京 休音
下　西の時分みち紅葉ふむや猿の声　同 昌宗
日　薄雲にうつみ朱をぬ紅葉かな　同 重方
中　紅葉ハあの山てと染かな　同 家傍

木實

中　此居て[illegible]つまる栗椎榛柏[illegible]　山 利清
上　宇治山でおやあけまき推と　[illegible] 速元
下　赤きこそ障子を照らす松樝粒　京 政昌
上　木の百枝も千万なりの木の実　同 宗房
日　枝ながら鳴る椎や風ぐるみ　山 玄心
日　栗なるをかち栗とかれ摘　同 貞盛
中　実がなくはかまこの木やと戸過　堺 貞義
下　木の実かぶふ市をたてくる椎拾　京 意敬
日　どん栗もかこかこまにまろる　同 道二
上　山桜ぞとひよのかひいちめ　同 維舟点
日　実をとつむまき栗ハ榛栗かな　同
日　水栗にぬやとひかれの何　同
中　あまりてや東孫妹と生二子　[illegible] 芳友

茸

中　女松男松ふに付むれ木の子　京 重貞
上　穴をかりてめるや山路の葉茸　同 政之

笹に葺(たけ)は皿(さら)にいれおく料理かな　徳元

濃飴

伊勢の...鼻(あふ)もよき料理　意敬

とゞむかよ頭(とうざう)こびうる鼻の飴　徳元

紅葉餅

とくぶ氷は中や蘭見え紅葉餅　宣之

江州舟木にまゐりし時

式変はぬるくにれあそよ紅葉餅　重利

水底(みなそこ)は和え錦(にしき)の紅葉餅　昌玄

見神(すいじん)ふ年向くねさや紅葉餅　定時

紅くる水の秋とや紅葉餅　重方

柵(しがらみ)ながれもあへぬ紅葉餅　宗朋

酒ゆゑめでみ...てや紅葉餅　徳元

砕(くだ)けとさへよう紅葉の餅鑑(ますかゞみ)　一正

雑秋

枕まてよりかゝや漢字の桃焼　一味

若衆昼とらやいとうめぬ揚焼銚子　宗滌

見梢もさされてまつり焼銚子かな　道職

水むけをまつるや秋の施餓鬼(せがき)　徳元

伊勢まゐりて

大淀の浦や伊勢鯉秋の波　同

一膳(すい)のあをめ酒や菱の種　永治

むすびりも芋(かき)荷葉(さ)や吐する蓮(はす)の飯　弘永

摂待(せったい)はうけし盆立の家の湯かな　重供

切麦や桐(きり)の葉ふるへ秋の粉　徳元

聟(むこ)刀はいぜん桐の秋茄子(あまび)　正直

おむすびぞのゆらぐや秋の風吹口　伴伯

菊志らかや庭に桐のめん多し　宗朋

秋風にさもすりぞする木賊(とくさ)かな　玄心

音ふれ松にこげうる家もなし　宗二

秋の名ふするうる松の緑(みどり)かな　富沢

松は秋もよ垂れて常の家焼かな　弘永

秋風よ桟敷(さじき)や神そうし　貞盛

まるまるやそちたまちぬら八幡　重利

上 かり風といふも実が入秋の風　堺 成政　廿一

同 糺田文字句の時　秋色乃題して　由里一　三五

同 あいよりハおても毒ーもの文　同 末光　一

同 すりあまに浮く流るたでの花　継宗家　六一

同 のまぬさ人奥ある花のたゞこ　京 忠也　大

同 文月とう川もうぬれまえげ笔　同 正依　十三

同 一つの文月ハのちや色車　江戸 滝元　廿七

中 物うきを咲ともめあう文月かな　京 重貞　三

冬 初冬

上 柿本ふや家ん蕉も元禄霜月　江戸 滝元　廿八

同 餅いそふわのこや神の流るる　継宗家　六二

同 十ぬる渡てやまこと元禄霜月　京 正章　廿五

同 亥の子餅もき子やあう元禄霜月　堺 弘永　九六

時雨

下 来の世も律儀ゝ然てとぬる時雨　京 重方　廿三

中 うそ黒ろ雨とて海と元時雨　同 重躬　廿七

上 雲さりゆや月ハおとするさ秋時雨　堺 弘永　九七

中 芭蕉庵中の芭蕉で山はつ初時雨　加賀 可理　二

下 雲や花の親ハとさつぐ時雨の肌　継宗家　六三

同 足元やさ時雨乃雨やりり坂　京 正章　廿六

同 行人をとさてとうり時雨　伊勢 定次　一

同 十月ハげにとさあり派時雨　京 忠也　大

中 天気よく雨ぶり雨りむう持時雨　同 重躬　廿八

下 もすそげ宵からら山時雨　堺 角定　廿

上 定なき時雨やぞのきぶんハ　京 正依　七

落葉

上　池水ハひろく木の葉の河原かな　京　正依　十五

中　吹ちらしけり紅葉や風の稚児　同　重教　六九

上　松の葉や落葉散れもちりけり　同　吉政　十一

下　落もせず木の葉やさらり三百本この　大坂　安明　一

い　木の葉散る家もでも寺の葉かな　堺　弘永　八八

上　落葉散る月ハ霜の稀かれ　門　九九

ロ　十月ハ木の葉ぶりの名残かな　宗朋　十三

下　霜と錦ふかん木の葉の散るかな　継ぶ　六十

上　落葉散る霜の朝哉　京　重治　一

ロ　定まらず木の葉散るとも下紅葉かな　文字　庚伽　二

上　木の葉散る家ハなけりけるかな

霜

下　霜柱置ハ遠はらかれ　堺　減政　十二

ロ　天もなく地にも霜柱　光　六七

上　屋根塩の白く霜柱　京　昌玄　六十八

上　霜さき月をまつ暦の霜柱　堺　弘永　百

中　霜のぬるも水はしは霜柱　京　重教　十二

ロ　塩ふみて塩より霜八霜哉　堺　宗治　十六

下　初霜ハ黒き化粧かな　文字　俊安　一

下　笠松や我下草は霜かな　京　吉貞　一

下　霜天に白き初かれ　京　重方　二九

ロ　霜柱立ちけりや初日影　同　重信　二七

上　明闇ハ冬の霜はれし　同　正章　百二

ロ　おのつから霜柱　堺　弘永　三

下　霜柱山路はよしやけ継り　京　道三　二八

上　初霜の松もはける霜哉　同　正章　六八

下　初雪はれ一るいの霜の花　同　昌玄　六十九

上　サ月の名もおそれも霜柱　継ぶ　六十

下　初霜の花の大や蛍火焼　同　重正　一

霰

中　落葉世にかるや霰　堺　宗治　十七

下　そうらいひよ霰ハ貝かな　京　宗教　七

上　風のよやまさかで打霰　同　忠通　十五

上　とうふ豆ハ雨のうへに見え霰　　宗何　十二
下　あろくとあらぶ物のめ霰酒　　同　素庵　一

追加

上　名ハかりふきゆりや都ト霰　　白　四ン
日　嵯峨の京やちらら見にま霰　　堺　弘家
中　まだ霰みぬもは封ろ神の家　　京　春可
二　氷ゆりの霰たばしる氷面鏡　　同　正依

霙

中　松の葉のうら霙がちさけ見みぞれ　　大坂　静舟　廿
上　志ら霜ふもむろくハふらぬみぞれ　　京　宗弥　三十七
下　ぶれいとハゆるせ乃今そ霙の酒の　　白　光有　六八

雪

中　梅ハめくふりきまで軒の雪　　東　春流　二
下　白妙や雪に志ろきまぬ雪の宿　　堺　乃察　一
日　夜の来同じ志らべ小志の雪　　京　秀重　八
日　雪花の咲とたちぬや新ひの雪
日　白き梅も同じ雪　　同　昌宗

上　きくだけよ雪ハ雪やよく見雪　　伊賀　六〇
中　ただ同じにもあまりぬ梅や雪の雪　　京　正長　五
日　ほうろうや小ぬれく大びえの雪　　同　鮮正　一
下　富士ハ雪や三花乃四方雪　　延貞　一
日　余所ハ雪やわふすうがれの雪　　堺　弘永　卅三
○　富士山の雪とらてや紫白　　京　乃二　三
上　天と地の中へ入ぬやふじの雪　　東　東吉　一
中　つもり雪花かと待ども雪　　京　正依　十七
上　昔香の絹乃富士は雪佛　　同　永治　卅
日　三国のてる月やふじの雪　　堺　成政　十三
日　あうそらずで雪　　京　弘永　十二
下　世界をふじの富士は雪仏　　伊賀　六十
上　三国の雪やはく孫てふじの雪　　京　昌意　十七
日　尾ハも白富士乃雪　　堺　弘永　八
日　雪花ハ菊れ粉やこまさこ　　京　宗房　三八
下　ふりつむやよ六人の雪佛　　白　元儀　一

上〇 水むけハ為よハ雪しる佛　堺 貞盛　三三

中〇 ぬくくに推よりぎさやう雪富士　京 永治　二八

〇 天くぐら満ちより花ふつ雪仏　当 盛親　一

同〇 水神よ同じ孫や雪ぼとけ　同 可勝　一

同〇 まなびよるや修する雪仏　同　二

上〇 雲乃上の住居や富士乃雪女　堺 成政　十八

〇 久かた山も何の雪積富士乃雪　同 弘永　六

下〇 八幡本の富士乃源雪や白蓮　京 重方　二七

上〇 雪魔けと云ふ大き富士の姻かな　当 正利　十三

中 滑ぞしてみた餅雪や露しざし　京 重貞　三三

下〇 大たち鬚も花ハゆるんや雪女　同 昌玄　三三

中〇 刀んめきの花か若木もなびく雪女　当 用久　二

同〇 雪女ちらぶ袖ふれさう男松かな　京 梅盛　六

〇 見ふるは雪女さや山の方　同 重頼　五

上 雪に枝連理とならぬ雪かな　同 宗房　三九

同 光やとたるや大名行ふけさの雪　堺 一正　十九

同 曲り目ハ役行者ゟ雪の友　京 政公　三一

中 冬来てや粉雪をまぶ六花梅　堺 芳友　十四

上 雪花もちらを見せたるまるや　同 弘永　七

同 雪を消さいふ晦やの大のうそ　仙石家　二六

同 北山か見る海をけする雪の中　同　二十

同 雪に袖は白鷺の羽ならぬ　同　一

三中 雪綿乃如事行やはり筆　京 良直　十七

同 その川さ足筆をれや雪の竹　堺 盛政　八

下 ゐろめすり同もいて降くや雪の雲　当 光有　十九

上 小山ハ只雪むのよし袖うか　俳者不知　十三

同 留にされさかり染をぬ雪の谷　当 重一　三

同 けまあかしとぬや雪の雲　堺 一正　十六

上 雪綿やたく蓬山の肩話ハ　同 定玄　七

同 試国の無量寿雪仏や富士乃雪　当 吉満　一

下 蓮花枝なふりて咲やまの雪　同 芳家　二

中 堀ゆうかはらぬ雪ハさくさ　堺 具之　十六

下 白雪のふむや松の玉俵

同 餅雪のうらしさとぬ米蝶が　京 道二　三三

上 矢の竹ははがねと雪に白葉かな 京 意歓 七
下 あざ花とおもふもふやあれ雪 利邑 六
日 竹よなびく雪や白絹の引り雪 堺 弘永 八
上○ 針と梅よりひやかさま〻松の雪 京 重供 廿
下 はしら道乃雪や其まゝたんぽ添 堺 家久 一
上 涼まれみむ志旗かしき花の雪 日 成政 十七
日 ちりまじる水や雪消の錦雪 日 弘永 九
日 雪花もまた根よろつ雪かな 京 道二 三
下 風の旅も折れろ梅松の雪 正式 九

雲路乃寒かな

中 かきくれてふりくる雪や
中○ 切る花ひろどる雪や白瀬 京 重新 廿三
日○ 継母の添乃さびしやけさの雪 日 永治 三九
上 下にはえもまぜ夜ね雪 日 正章 廿
日 稜立て雪の垣ふむ水ハ 継家親 七三
中 鉢垣の佛幣ある竹の雪 堺 永次 六
日 白鷺も雪にかくれ葉の陰 京 一滴 一

下○ 雪と花とちらしに風や 堺 正尚 十三
日 喜と消気だまけるれや雪あ 同 十二
中 道の空はずふりれんも宝荷花八 京 重貞 三
下 ふる内に気ハ晴よれり雪の庭八 白 光有 廿十
上 香よ竹そり橋ゟ川かな 日 光成 二
下 雪のやみかれの物語 堺 正甫 十五
日 山やさきまそたむれ庵 白 光有 廿一
日 まれかなもみどき山や雪弘 同 廿二
日 打ちやきハ木燥家の雪佛 京 家治 一

氷

下 氷柱のみつきるらん那 宗朋 十三
上 我児の月をさやらて氷柱 京 正章 廿
下 水精の橋をかけたる水 日 秀重 三
日 白張のかハかり乃うハぎ 堺 可忠 一
下 霰消て花のへろ 堺 弘永 十
上 落やや下すきとあ絵の 京 昌玄 廿三
日 浪たくぬ川のかや風 川 道二 三六

下○ わかめ刈甲斐なき氷の朝かな　当 正利 一
上 手桶に我とふくるゝ氷かな　同 秋廣 一
中 氷川氷さへはつるゝ流れ哉　京 春一の 十五
上 簾より氷とかゝるぬか哉　同 正章
下 樋乃口に封を付たる流かな　同 意敬
中 あれ池やちらつく雪や薄氷　堺 家治
○ 雨ふりて地をもめたる氷かな　京 永治
同 地びたひの氷や剣のひら　同 休意
下 氷ばりた張の氷のおもてかな　当 光有
上 魚もみえる氷をとりするかな　当 勝説
同 濡乃金具なるし薄氷　同 新口
下 おもわ枚はえつけの鏡かな　京 正甫 十三
同 あんくとまるや厚き氷猟川　堺 すみ
同 宴の水で氷であせ氷面鏡　京 重方
上 桶なくて手に氷さくる哉　同 就的
下○ 氷つる川のそや白ゆめし　同 呉城 一
● みよはや渇川よ凌ちるかな　同 宗仁 一〇

下 水精乃勧判るや薄氷　当 光有
上 おもろ池ハ鏡乃のちこれ　堺 弘永 十
同 冬ハ水をも氷とかまる氷　京 同 十三
下 冬は解ぬめて厚氷　同 意敬 二
上 鐘を水の剣かな　同 政公 三
中 氷庭に亀を鏡や氷面鏡　ら 新忠 三
下 銀屏とたちし岩根の氷かな　当 民政 一
上 川岩に文川けつ乃氷かな　当 正利 十五
中 家まず流る川の水中に流れ　同 祖翁 二
下 ある池のおもやえり枕　京 昌宗 十六
〃 むかりさきなどくられや厚ゐ
中 又ちまきみぐれ鰐口厚氷　同 梅盛 七
国によるやみの衣川

冬月

下 をちの月とおもひ雲やぬのこ　京 重方
上 池氷ぬいてつ月の欲かな　同 正章

煙火

焼物は埋む火花の匂ひかな　重方
宮らしとて翁をはふ火鉢かな　宗勝
だいてねよくも肌へゆるさぬ火かな　正章
わするゝ火の消もせし樹のおけかな　勝正
埋火は住かぬ猫乃討後かな　重頼
うつくしよ近づきがたき女かな　弘永
宮さま枝の風わかさぐ重見かな　忠也
宮やみを造をまさ刈のひかくかな　宗宇
御山炭やかきたにみても赤つくし　宗房
いろまきぞあらけはあたま火鉢　某友

炭竈

白粉もやく炭竈の雪は色　光有
炭竈は是山焼る火桶かな　維舟
すみ竈のよふりすゝやけその竈　貞光

水鳥

水鳥は参乃銀は鳥甲　近依
をし鳥は云にいそれぬ羽色かな　丹後宗

和田の原や九十三羽の友千鳥　弘永
芦鴨をよしといふもの料理かな　一正
料理してくるもなよぶ千鳥　光有
鴨さむく三分くの水におり湯　不寒
水神の背に乗る鳥乃一書　昌意
浜風にそこと冲のり友千鳥　正章
せきれ川おたのにて鴨の鳥居かな　静寿
水鳥や波乃鼓の蒔絵かれ　弘則
水鳥は床のいざうや波枕　弘澄
水鳥の床板や取ゆかな　正利
雛の可くしたかき鴨のあしべかな　弘永
浪は志可のありやはじやとみぞれ　円
水鳥はさやすめるふかな　一正
うら静なよひに浜千鳥　宗朋
ふれぬ翼はとる鴨か浪鴨　維舟
水鳥や陸よ海どらんあの千鳥　秀重

鷹

飼置て見るところ鳥ハ大くろ哉　京 秀重

鶺鴒やたんぽゝみ見し嫁鳥　口 政公

芦鴨ハ鑓んや字にかゝる鴫哉　同

神楽

きねよ文神の手くら宮神楽哉　山田 光有

舞殿の奇仙や是も神楽哉　京 重貞

冬菊

冬咲ハそれみたし也菊乃花　山田 忠景

冬ごもりハ喜や十歳の翁草　口 正友

寒菊もきそ綿もるやけさの霜　京 正平

冬梅

あら人仏されてや開冬の梅　京 宗房

冬咲やそとをあげかまて花の兄　山田 光有

冬咲の梅や焼香当佛　京 重供

冬よりも花誇き香よれ也の兄　堺 成政

冬題鳥

冬眠くハぬそ鶯ゑふ法花　作者不知

鶯にそんハ鶯吹小麦哉　京 政公

網代

伊勢鯉も吹らん宇治の網代かな　信安

はや瀬ハ鮎の一数にねざこねふ　濾元

歳暮

寅の年も尾竹とめ除夜す　京 秀重

菓子ハ大豆よ花のためつ旅籠　伊伯

老を積よ延て流る年哉　堺 宗二

児や人ふえふいりまあれまかろい　口 玉龍

まちつきの鏡も暁を年の暮　光有

年の矢の振ハ気ありつゝさ　一木

行年をよむや月日は扇拍　京 重方

歩く妻ハ何ぞもないどあるか　口 正章

親の追善に

なてし花ふ年も晩鐘茶著　京 重郷

暁ぐにけるハ年の矢気流哉　堺 貞誠

子の分も家もまめ打数ハ　作者不知

臘月よ

今日ふるや年の名残の雪霰　継者家　六八

田舎より人の餞別よ　同　七八

年もさきへとりてや娘らちびく　堺 莹发

又八が年のくれ行のてよぎり　京 正章

達此矢は笠の庭におにいり　同 正依　十八

若水の樽は年丈の根され　俳家

臘月のながれ〱黒記丸哉

年内立春

年は内行足て立春目出　山田 光有　六十

暮る春は後の内やと向りけ　堺 光弘　六

年の内は春は混濁和合哉　京 永治　三一

年乃うち人　後乃矢代春目出　堺 成政　十八

立春は迄り入くるや門松　京 宗席　四三

年は内の家の神やひあふうち　同 政公　三六

雑冬

深草は黒みの冬籠　俳家　八十

冬まで八霊よゆり昔がや　山田 光有　六一

宇治氷治く

さゆる茶や宇治十帖の紙衾　俳家　八一

うへ下や氏の子綿乃見身　京 斎庵　一

千早振紙子が銭みても湯立　堺 康耳　一

志々中十六まいきこ玉子餅　同 定时　十八

親乃遊善よ

家記目を数さき治の様　京 昌玄　七三

人は親の身傍らるよ

大事や人の命を抱月　堺 [illegible]

おき洞といやそからまき男　弘永　十七

廻文之発句

春

見よとめよ梅のかぶめん新月香　京 東貞

梅乃花と

明けむき菴や母よまへ々　京 直方

おがめ〳〵咲むめ六條ちゞめられ　京 寸斎
れんめんの花よ来よ是ハ独楽ハ　同 正依
盛りとむめうそづめんとめりがさ　同 秀重

菜とも七つ入て

なづなたく御所の七草たゝくハ　京 重長
七草つミまうりうる氷葉ハ　同 貞盛
松の末の雪やちやさ雨に消ゆる　同 秀重

新世家よく

京さむし窓やハたゝむ新世家　作者家紀
咲向ふ花秋のなほ鼓草　京 宗房

二階咲の梅と

名ハいつよ行ハ梅の二めいいちある　京 重頼
本ハ律し其ちらぬ尖り出る梅　同 重方
花の鈴ならさあり方能化縄　同 春可
と将皆ハのまじ小清の花乃酒　堺 弘永
おがむ月ハ雲男やら山も花雛ハ　作者家紀
永日をさう花まても老まりか　同

名ハのうし花ちのおいハ盛比也　京 重供
里ヶ河おいためくそくめ花雛　同 重貞
四ぬくし花のそる足くぬ人　堺 貞盛
おかハにな花をぶ雨梅花ハ行燈れ　作者家紀
おもむね花しじみ盛らじ花の夏　同
ふさんや衣初詣る見るさいハ字欅　京 光重
らくらせいそらぐそ腹を安櫓　同 忠也
肌じつ生くら志げいもし　同 正長
志川ほとしさひて果ふ紗見りし　作者家紀
永日小蝶蝶とぶ蝶二せされ　同
けしきかハ水みゆめつの子　同
比ろる小まくやひ鮒とろさ　京 家房
馬子のついむくいそいらむまえ　堺 光有
申業ハる比井の早ん其駒りか　京 重供
清く業いい佐りたくい其乃水　同 長好

夏　四文

ありきつら杉とまて杉を郷垣　作者家紀

下 花もはけ八名ある手拂こ風車　京 昌宗　七七

上 ほとゝきすと

口 なれまゝ月と紙ひらきかの月の下　京 宗房　八六

口 咲水の友かり[illegible]川の月の草　俳者宗和　九一

下 中にも見ゆる花ハ波の藤かな　同　九二

中 田越うるたつ田の田越　口 重方　九二

上 都ふの萩ハ先るゝ京の蓮の　口 重躬　八六

芝居のかと帷子[illegible]かはり　俳者宗和　九三

秋　四文

上 きく萩のやしま[illegible]岸に[illegible]柳　同　八〇

口 あかりにも軒ある柳の落葉かれ　同　八七

中 藤かとのけの月新かまの池の面　京 重頼　九七

上 雛れたる[illegible]のに[illegible]青の月　口 正章　九二

下 月かと常にあるうたに渡つ記　口 重方　三六

上 思ひ月もとかやま西洞川　堺 貞盛　三六

下 中よの[illegible]かるゝ月かな　京 季重　三六

上 下れさの白露[illegible]し月のかな　俳者宗和　九六

名所の月を

上 [illegible]よみかの紀の淡津　白[illegible] 常久　七

中 よるよるに花の初雁の[illegible]　京 正直　二三

上 きくかかは鴫やせきしも[illegible]　俳者宗和　八七

中 [illegible]の[illegible]もゝ[illegible]　京 梅盛　八

口 すは咲花を草[illegible]　同　[illegible]

日 見るこゝ[illegible]花[illegible]　同　九八

口 岸に野の萩や垣ハ秋の[illegible]　同　九二

口 [illegible]月の[illegible]萩　京 宗房　[illegible]

口 生垣ハむすきらん萩の家　俳者宗和　[illegible]

中 咲よ[illegible]ゆらぬ[illegible]　口 重貞　三七

上 [illegible]もけ[illegible]　堺 一正　[illegible]

中 ちこ[illegible]萩[illegible]草　京 梅盛　九

下 咲みさく[illegible]草　口 重供　三二

上 摘のけの藤[illegible]　俳者宗和　二

口 中[illegible]　同　三

五ノ九七

五ノ九八

上 中 上 口 口 口 中 上 下 上

なが居しや柴かしや推ノ下　作者不知

冬之部

池の皆鴨の夫鴨の浪の果　重頼

浦に遠名ハ鳥も啼も離湾　作者不知

長寝りと鴨飼鴨の友寝遊ぶ　同

寝覚の夜ふかも鳥も人の寒の　同

苑かよかぬ舟川枯葉ハまれ月の分　同

月ハ有の二餅とそ有乳の子の寝　重貞

乳の香のゝろにふ子ろよん祝　作者不知

花えよけさのむかやむの雨よ渡　重方

宿ときのとさむかや寒さき冬の寒さ　作者不知

又或句り

歳よけさ屠蘇酒さぞと酒よ砕

中まづ刃をも次名渡弦涛動

遠ざ水凄や花刀をなる代

操のつるはこのまの黒の塩

春くこの々春ぞ々ゆふ塩ま

句数之事

作者不知 二百十五		
宗之住 三	春可 十七	昌意 三十七
道茶 三	休首 十	道二 九十六
宗阜 一	宗俤 一	幽雲 一
正脈	道宅 二	寸木 十一
玄竹 四	利安 一	好庵 一
玄察 一	宗宇 一	政昌 五
正俊 二十一	正直 四十二	秀重 三十七
政元 二	永治 四十二	重方 六十
正章 五十一	重貞 八十九	重供 二十九
宗房 五十三	重頼 四十八	意綴 二十六
吉政 十一	貞義 十四	定重 十七
忠也 七	重久 五	宗補 三
吉林 四	安利 三	重定 三
重正 二	梅盛 十一	宗判 八
重長 三	正次 二	元重 五

由氏　二百正長　五・政之　二
頼實　二百弘之　二百重好　二
重治　百二滴　百宗竹　一
直次　百勝俊　二百重正　一
某正　百逢　百吉貞　一
是信　百清者　信忠　一
諸光　百吉数　一家根　一
保成　百重次　百友勝　一
正包　百損之　百家治　一
長好　四和通　一慶次　一
正成　百貞勝　一
協之佐　百芸友　九百道寮　一
王能　百道織　二百弓忠　一
宗夕　百宗二　七・正甫　十六
一正二五千　四宗治　二十百貞継　六
賢蔵二　木八百咸安　三・興之　六
弘永　百國政　八・定春　八